

令和7年度
福津市食育に関するアンケート調査報告書

令和8年3月

目次

I 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査設計	2
3. 回収結果	3
4. 報告書の読み方	3
II 市民対象調査の結果	4
1. 対象者の属性	4
2. 「食育」について	5
3. 食生活について	11
4. 食に関する活動について	28
5. 地産地消について	37
6. 食文化・伝統料理について	39
7. その他	41
III 幼児の保護者対象調査の結果	46
1. 対象者と子どもの属性	46
2. 子どもの食生活について	47
3. 子どもの生活について	53
4. 「食育」について	54
5. 保護者の食生活について	58
6. その他	65
IV 小学生・中学生・高校生対象調査の結果	70
1. 対象者の属性	70
2. 食生活について	71
3. 生活リズムについて	89
4. 「食育」について	91
5. その他	96

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成29年3月に策定した第2次福津市食育推進計画「福津のめぐみ笑顔が
つながるみんなの食卓」に基づいて食育が推進され、様々な食育活動が市民にどの程
度浸透しているかを検証し、食育推進を図るための基礎資料を得ることを目的とす
る。

2. 調査設計

2-1 市民対象アンケート調査

(1) 調査対象者	18歳以上市民（18～75歳）
(2) 抽出方法	住民基本台帳による抽出1,500人
(3) 調査方法	Googleフォームを使用したアンケート
(4) 調査実施期間	令和7年 6月 ～ 7月
(5) 調査項目	1. 「食育」について 2. あなたの食生活について 3. 食に関する活動について 4. 地産地消について 5. 食文化・伝統料理について 6. その他

2-2 幼児の保護者対象アンケート調査

(1) 調査対象者	3～6歳までの幼児の保護者
(2) 抽出方法	住民基本台帳による抽出500人
(3) 調査方法	Googleフォームを使用したアンケート
(4) 調査実施期間	令和7年 6月 ～ 7月
(5) 調査項目	1. 子どもの食生活について 2. 子どもの生活などについて 3. 「食育」について 4. 保護者の食生活について 5. その他

2-3 小学生・中学生・高校生対象アンケート調査

(1) 調査対象者	小学校5年生、中学校2年生、高校2年生
(2) 抽出方法	以下全クラスを対象に実施 -市立小学校（7校）5年生841人 -市立中学校（3校）2年生748人 -県立水産高校2年生152人 -県立光陵高校2年生389人
(3) 調査方法	Googleフォームを使用したアンケート
(4) 調査実施期間	令和7年 6月 ~ 7月
(5) 調査項目	小学生・中学生・高校生共通 1. あなたの食生活について 2. あなたの生活リズムについて 3. 「食育」について 4. その他

3. 回収結果

区 分	標本数 (配布数)	標本数 (回収数)	回収率 (対配布数)
18歳以上市民	1,500	337	22.5%
幼児の保護者	500	206	41.2%
小学生	841	708	84.2%
中学生	748	669	89.4%
高校生	541	503	93.0%
合計	4,130	2,423	58.7%

4. 報告書の読み方

- 4-1 本報告書は、各調査票の設問に沿って構成した。
- 4-2 回答結果は少数第2位を四捨五入し、それぞれの割合を示している。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式。「SA」（Single Answerの略）と表記）であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- 4-3 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式。「MA」（Multiple Answerの略）と表記）の設問の場合、解答は選択肢ごとの有効回答数に対するそれぞれの割合を示している。
- 4-4 図表中の「不明・無回答」は、回答の判別が困難なもの、または回答が示されていないものである。
- 4-5 グラフ、および表の「N」は、標本数（集計対象者総数）を表す。
- 4-6 設問の選択肢については、長い文を簡略化している場合がある。

II 市民対象調査の結果

1. 対象者の属性

1-1 性別年齢構成

男 性	人数	%	女 性	人数	%
18～29歳	7	7.2	18～29歳	22	9.6
30～39歳	18	18.6	30～39歳	57	24.8
40～49歳	15	15.5	40～49歳	49	21.3
50～59歳	24	24.7	50～59歳	51	22.2
60～64歳	11	11.3	60～64歳	16	7.0
65～69歳	10	10.3	65～69歳	19	8.3
70歳以上	12	12.4	70歳以上	16	7.0
計	97	100.0	計	230	100.2

答えたくない10名

1-2 職業

職 業	人数	%
会社員・団体職員	121	35.9
公務員	37	11.0
自営業（農林漁業除く）	9	2.7
農林漁業	2	0.6
学生	7	2.1
パート・アルバイト	73	21.7
家事専業	49	14.5
無職	32	9.5
その他	7	2.1
計	337	100.1

1-3 居住地区

居住地区	人数	%
福間南小学校区	91	27.0
福間小学校区	91	27.0
神興小学校区	29	8.6
神興東小学校区	39	11.6
上西郷小学校区	10	3.0
津屋崎小学校区	72	21.4
勝浦小学校区	5	1.5
計	337	100.0

1-4 家族構成

家族構成	人数	%
一人暮らし	18	5.3
夫婦のみ	89	26.4
二世帯同居（親と子）	204	60.5
三世帯同居（親と子と孫）	16	4.7
その他	10	3.0
計	337	99.9

2. 「食育」について

問1. あなたは、「食育」に関心がありますか。(SA)

(第2次福津市食育推進計画 指標23)

「食育」に対する関心は、第2次福津市食育推進計画の基本目標5「連携・共働で食育を進める」の指標のひとつである。「食育について関心がある」、または「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は88.1%、前回調査結果(令和2年度)から7.5ポイント上昇していた。また、全国調査結果(食育に関する意識調査(令和7年))と比較すると、7.3ポイント高い結果であった。

<単数回答>

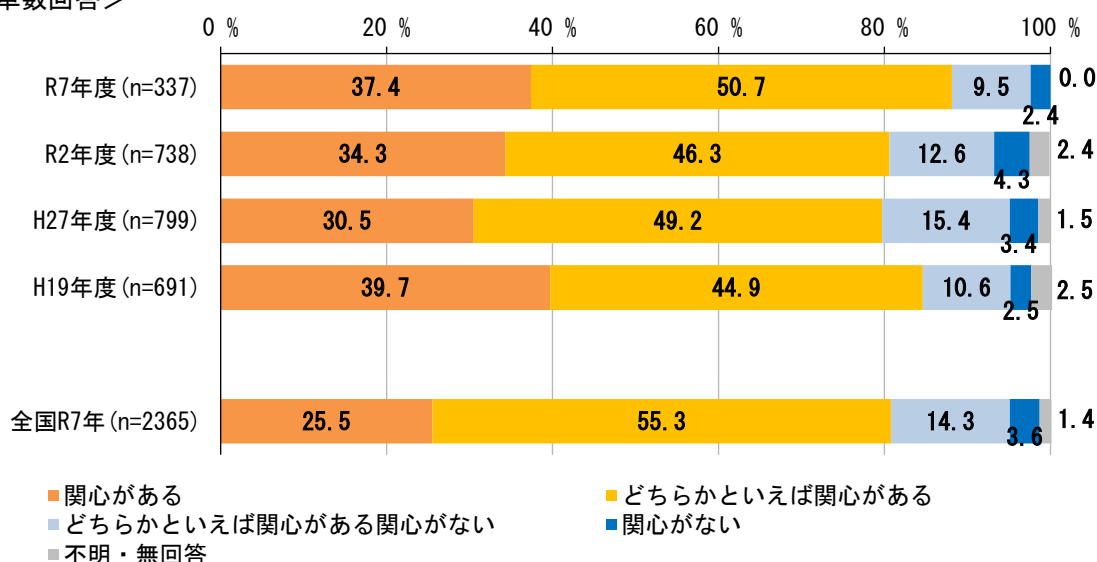


図1 食育への関心度 結果推移と全国調査結果

食育推進指標23

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
23	「食育」に関心のある市民の割合	84.6%	79.7%	80.6%	88.1%	90%

「食育への関心」を性別に比較すると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」と答えた人を合わせた割合は男性が 87.7%、女性 89.2%であった。前回調査結果（男性：70.4%、女性：85.8%）から男性が 17.3 ポイント、女性が 3.4 ポイント増加する結果であり、男性の食育への関心が顕著に高くなり、男女間の差がほとんどなくなった。

表1 「食育」への関心：性別・年代別による比較

	関心がある	どちらかといえ ば関心がある	関心がない/ どちらかといえ ば関心がない	不明・無回答	計
H19 男性	70 (33.3)	84 (40.0)	50 (23.8)	10 (2.9)	210 (100.0)
H27 男性	58 (20.9)	131 (47.1)	85 (30.6)	4 (1.4)	278 (100.0)
R2 男性	65 (27.1)	104 (43.3)	64 (26.7)	7 (2.9)	240 (100.0)
R7 男性	38 (39.2)	47 (48.5)	12 (12.4)	0 (0.0)	97 (100.0)
18～29 歳	4 (57.1)	3 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
30～39 歳	7 (38.9)	8 (44.4)	3 (16.7)	0 (0.0)	18 (100.0)
40～49 歳	5 (33.3)	8 (53.3)	2 (13.3)	0 (0.0)	15 (100.0)
50～59 歳	7 (29.2)	14 (58.3)	3 (12.5)	0 (0.0)	24 (100.0)
60～64 歳	7 (63.6)	4 (36.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (100.0)
65～69 歳	4 (40.0)	5 (50.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
70 歳以上	4 (33.3)	5 (41.7)	3 (25.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
H19 女性	195 (41.9)	222 (47.7)	38 (8.2)	10 (2.2)	465 (100.0)
H27 女性	180 (35.6)	256 (50.7)	62 (12.3)	7 (1.4)	505 (100.0)
R2 女性	186 (37.9)	235 (47.9)	60 (12.2)	10 (2.0)	491 (100.0)
R7 女性	85 (37.0)	120 (52.2)	25 (10.9)	0 (0.0)	230 (100.0)
18～29 歳	6 (27.3)	13 (59.1)	3 (13.6)	0 (0.0)	22 (100.0)
30～39 歳	30 (52.6)	21 (36.8)	6 (10.5)	0 (0.0)	57 (100.0)
40～49 歳	11 (22.5)	35 (71.4)	3 (6.1)	0 (0.0)	49 (100.0)
50～59 歳	20 (39.2)	24 (47.1)	7 (13.7)	0 (0.0)	51 (100.0)
60～64 歳	5 (31.3)	9 (56.3)	2 (12.5)	0 (0.0)	16 (100.0)
65～69 歳	7 (36.8)	9 (47.4)	3 (15.8)	0 (0.0)	19 (100.0)
70 歳以上	6 (37.5)	9 (56.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)

()内は%

（問 1 で「関心がある」または「どちらかといえば関心がある」を選んだ人に）
 問 1-1：あなたが、「食育」に関心がある理由は何ですか。（3MA）

食育に対する関心理由を問う質問では、「子どもの心身の健全な発育のために必要であるから」（65.3%）を選択した人が最も多く、次いで「生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加が問題になっているから」（46.5%）、「食生活の乱れ（栄養バランスの乱れ、不規則な食事など）が問題になっているから」（41.8%）の順であり、過去の調査と同様に食育に関心のある上位 3 項目の理由であった。経年的推移をみると「食生活の乱れ」の問題に関心がある人は、これまでで最も低い回答者割合となった。

<複数回答>

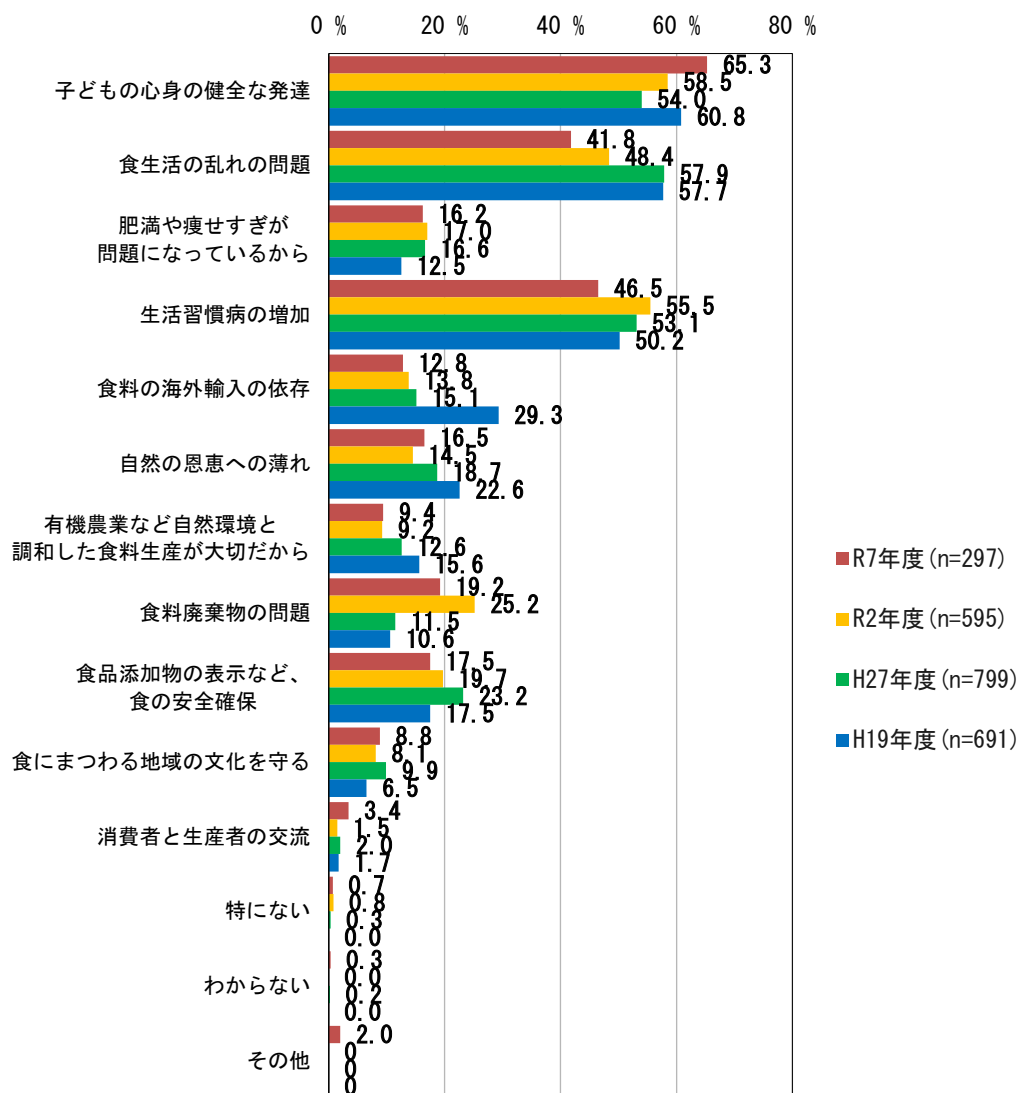


図 2 「食育」に関心がある理由 結果推移

問 2. あなたは、日頃から健全な食生活をおくるために「食育」を何らかの形で実践していますか。(SA) (第2次福津市食育推進計画 指標 22)

「食育を実践する市民の割合」は、第2次福津市食育推進計画の基本目標5「連携・共働で食育を進める」の指標である。食育を何らかのかたちで実践しているかとの問いに、「積極的にしている」と回答した人は8.3%、「できるだけするようにしている」では55.2%、両方を合わせると63.5%であった。今回の調査では、前回調査(令和2年度)より4.2ポイント減少した。

<単数回答>

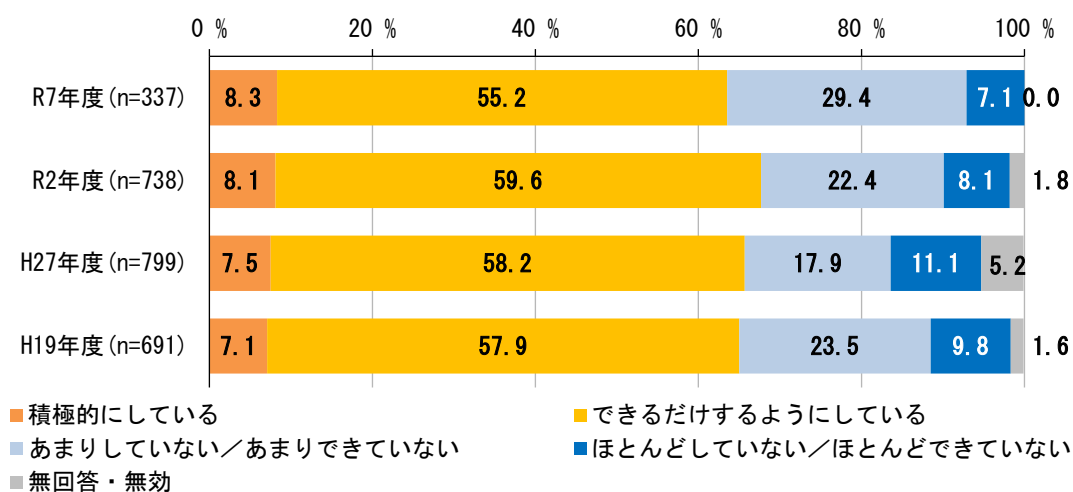


図3 食育活動の実践 結果推移

食育推進指標 22

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
22	「食育」を楽しんで実践している市民の割合	65.7%	65.0%	67.7%	63.5%	75%

「食育活動の実践」を性別で比較すると、男性で「積極的にしている」、「できるだけするようにしている」と回答した人を合わせた割合は 57.7%、女性では 66.5%であり、女性の方が食育活動の実践ができています。年代別で比較すると、男性では 50～59 歳の年齢層の 66.7%、女性では 60～69 歳の 78.9%、70 歳以上の 87.6%が実践していた。

表 2 「食育」の実践： 性別・年代別による比較

	積極的にしている	できるだけするようにしている	あまり&ほとんどしていない/できていない	不明・無回答	計
H19 男性	9 (4.3)	113 (53.8)	83 (39.5)	5 (2.4)	210 (100.0)
H27 男性	11 (4.0)	120 (43.2)	143 (51.4)	4 (1.4)	278 (100.0)
R2 男性	15 (6.3)	127 (52.9)	92 (38.4)	6 (2.5)	240 (100.0)
R7 男性	7 (7.2)	49 (50.5)	41 (42.3)	0 (0.0)	97 (100.0)
18～29 歳	0 (0.0)	6 (85.7)	1 (14.3)	0 (0.0)	7 (100.0)
30～39 歳	1 (5.6)	7 (38.9)	10 (55.6)	0 (0.0)	18 (100.0)
40～49 歳	0 (0.0)	5 (33.3)	10 (66.7)	0 (0.0)	15 (100.0)
50～59 歳	1 (4.2)	15 (62.5)	8 (33.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
60～64 歳	3 (27.3)	4 (36.4)	4 (36.4)	0 (0.0)	11 (100.0)
65～69 歳	0 (0.0)	6 (60.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
70 歳以上	2 (16.7)	6 (50.0)	4 (33.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
H19 女性	39 (8.4)	280 (60.2)	136 (29.2)	10 (2.2)	465 (100.0)
H27 女性	45 (8.9)	332 (65.7)	121 (24.0)	7 (1.4)	505 (100.0)
R2 女性	43 (8.8)	310 (63.1)	131 (26.7)	7 (1.4)	491 (100.0)
R7 女性	20 (8.7)	133 (57.8)	77 (33.5)	0 (0.0)	230 (100.0)
18～29 歳	0 (0.0)	10 (45.5)	12 (54.5)	0 (0.0)	22 (100.0)
30～39 歳	6 (10.5)	32 (56.1)	19 (33.3)	0 (0.0)	57 (100.0)
40～49 歳	1 (2.0)	30 (61.2)	18 (36.7)	0 (0.0)	49 (100.0)
50～59 歳	6 (11.8)	28 (54.9)	17 (33.3)	0 (0.0)	51 (100.0)
60～64 歳	2 (12.5)	9 (56.3)	5 (31.2)	0 (0.0)	16 (100.0)
65～69 歳	2 (10.5)	13 (68.4)	4 (21.1)	0 (0.0)	19 (100.0)
70 歳以上	3 (18.8)	11 (68.8)	2 (12.5)	0 (0.0)	16 (100.0)

()内は%

（問2で「あまりしていない/あまりできていない」、または「ほとんどしていない/ほとんどできていない」を選んだ人に）

問 2-1：あなたが食育を実践していない/できていない理由は何ですか。（3MA）

「食育」を実践していない、または、できていない理由の上位3項目は、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事や趣味等）で忙しいから」（49.6%）、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」（47.2%）、「「食育」自体についてよく知らないから」（32.5%）であった。「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」は、前回調査（R2年度）の28.4%に対し18.8ポイント増加し、これまでの調査で最も高い結果であった。

<複数回答>

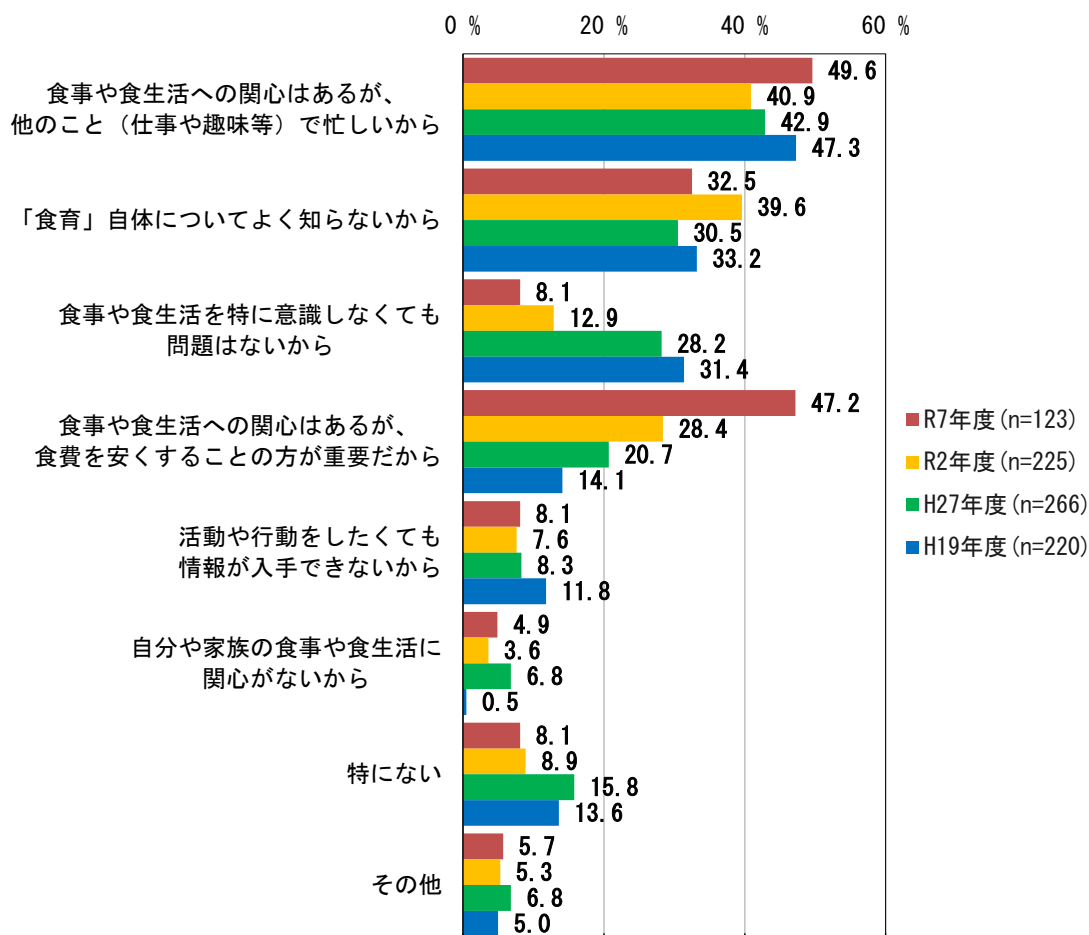


図4 「食育」実践していない / できていない理由 結果推移

3. 食生活について

問3. あなたは朝食を食べていますか。(SA)

(第2次福津市食育推進計画 指標8)

朝食を摂る市民の割合は、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の指標の一つである。「朝食を毎日食べる」者の割合は、男性よりも女性の方が高く、男性は60歳代以降で高くなるに従い高くなる傾向であった。若い世代(18～39歳)では男性は56.0%、女性は81.0%でともに目標値に到達していなかった。欠食の状況を見てみると、男性は18歳～59歳まで「朝食をほとんど食べない」割合は約2～3割で、特に40～49歳、50～59歳は共に33.3%で、前回調査から共に20.5ポイントの増加となった。また、女性においては、50～59歳は15.7%、前回調査から9.3ポイントの増加、60～69歳も8.6%で前回から7.7%の増加となった。

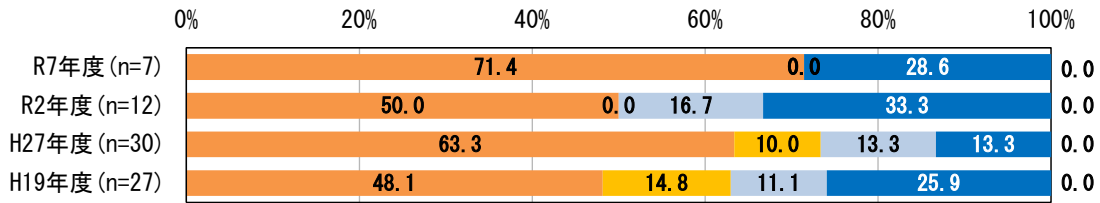
食育推進指標8

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)		調査結果 (R7年度)		目標値 (R7年度)	
8	朝食を毎日食べる若い世代の割合	男性 18-29歳	48.1%	63.3%	50.0%	63.8%	71.4%	56.0%	75%以上
		男性 30-39歳	57.3%	54.2%	68.6%		50.0%		
		女性 18-29歳	67.6%	64.4%	61.0%	75.9%	63.6%	81.0%	85%以上
		女性 30-39歳	86.8	81.7%	82.0%		87.7%		

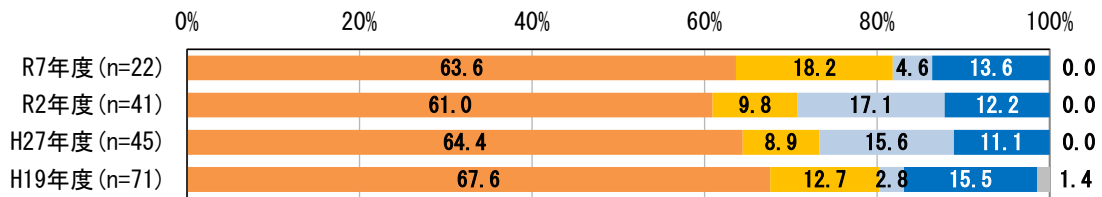
※第2次福津市推進計画の若い世代とは、18-39歳を指す。

<単数回答>

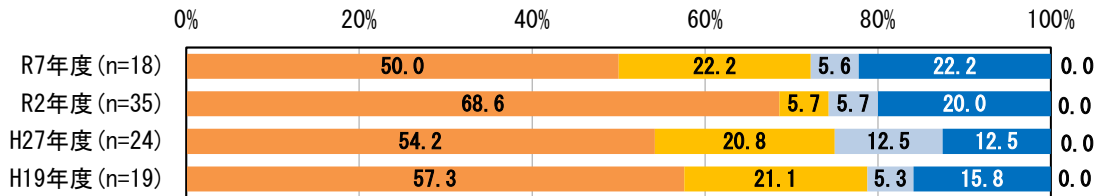
【男性 18-29 歳】



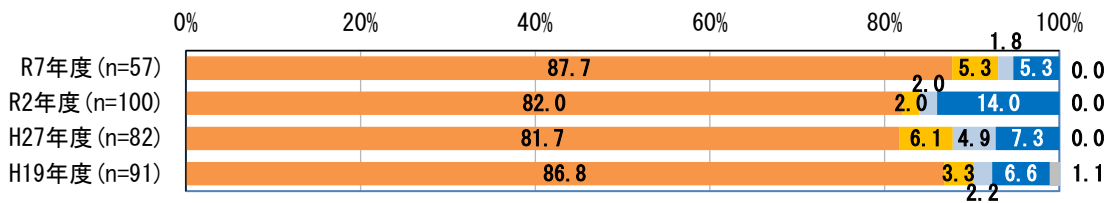
【女性 18-29 歳】



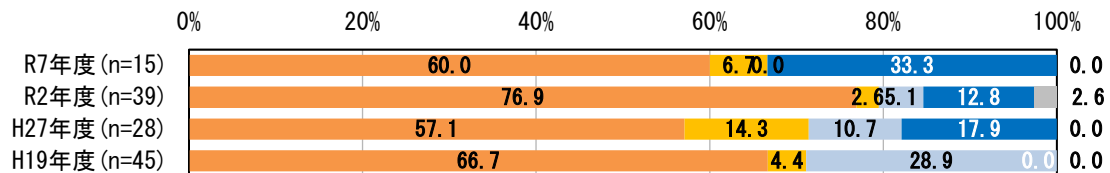
【男性 30-39 歳】



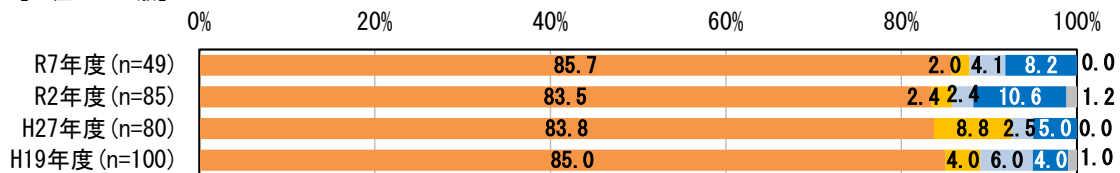
【女性 30-39 歳】



【男性 40-49 歳】



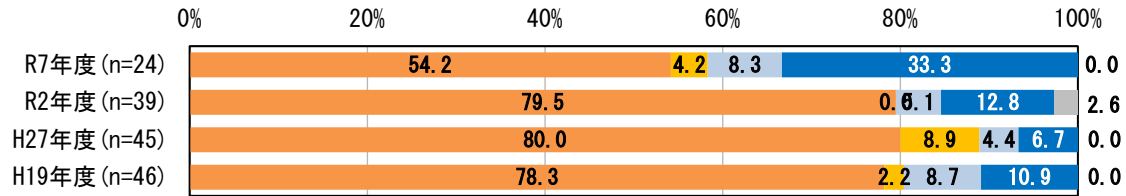
【女性 40-49 歳】



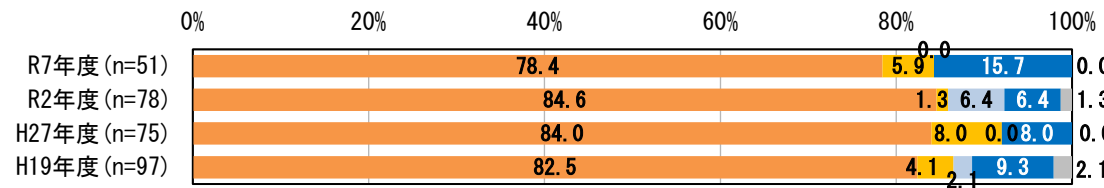
■毎日食べる ■週に4~5日程度食べる ■週に2~3日程度食べる ■ほとんど食べない ■無回答・無効

図 5a 朝食を摂る市民の割合（性別・年齢別） 結果推移

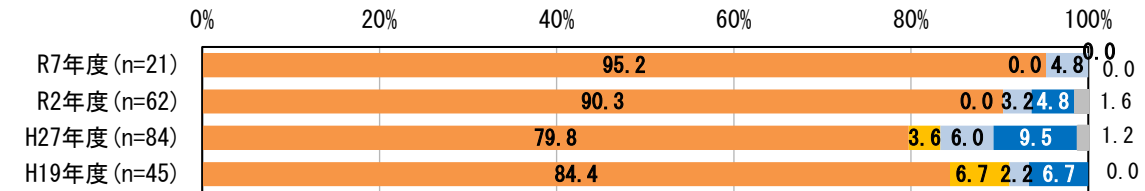
【男性 50-59 歳】



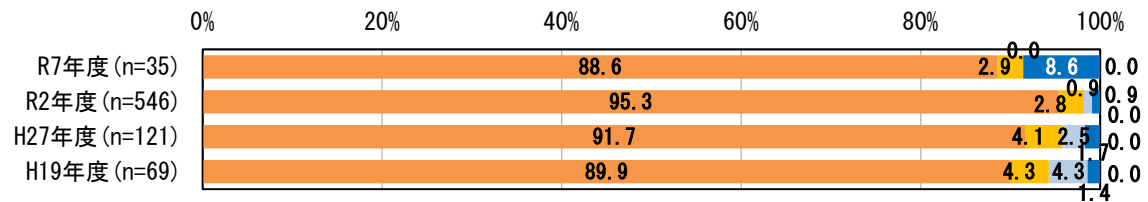
【女性 50-59 歳】



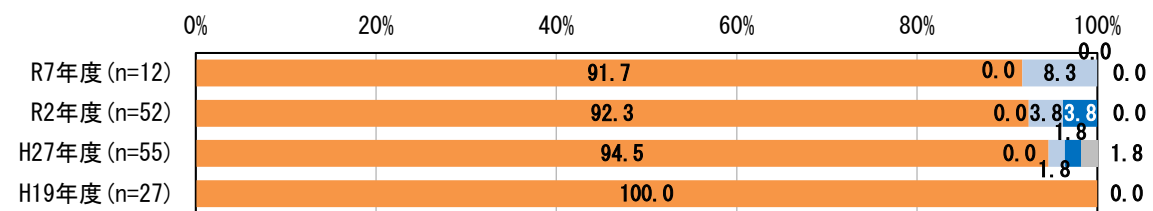
【男性 60-69 歳】



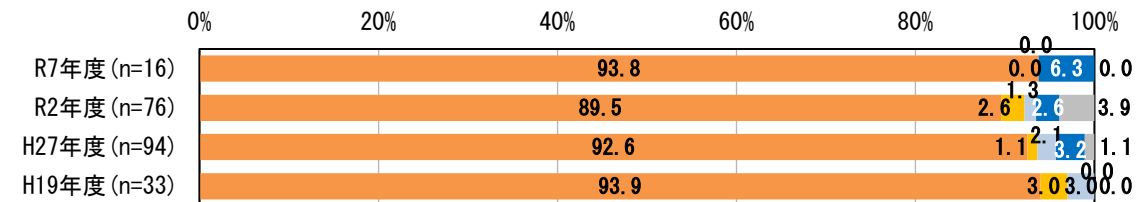
【女性 60-69 歳】



【男性 70 歳以上】



【女性 70 歳以上】



■ 毎日食べる ■ 週に4~5日程度食べる ■ 週に2~3日程度食べる ■ ほとんど食べない ■ 無回答・無効

図 5b 朝食を摂る市民の割合（性別・年齢別） 結果推移

(問3で「ほぼ毎日食べる」以外を選んだ人に)
 問3-1：朝食を食べない最も大きな理由はなんですか。(SA)

朝食を「ほぼ毎日食べる」と回答した以外の人を対象に朝食を摂らない理由を調査したところ、最も多かったのが「時間がない」であった(33.8%)。次いで「以前から食べる習慣がない」(23.9%)、「食欲がない」(21.1%)であった。

<単数回答>

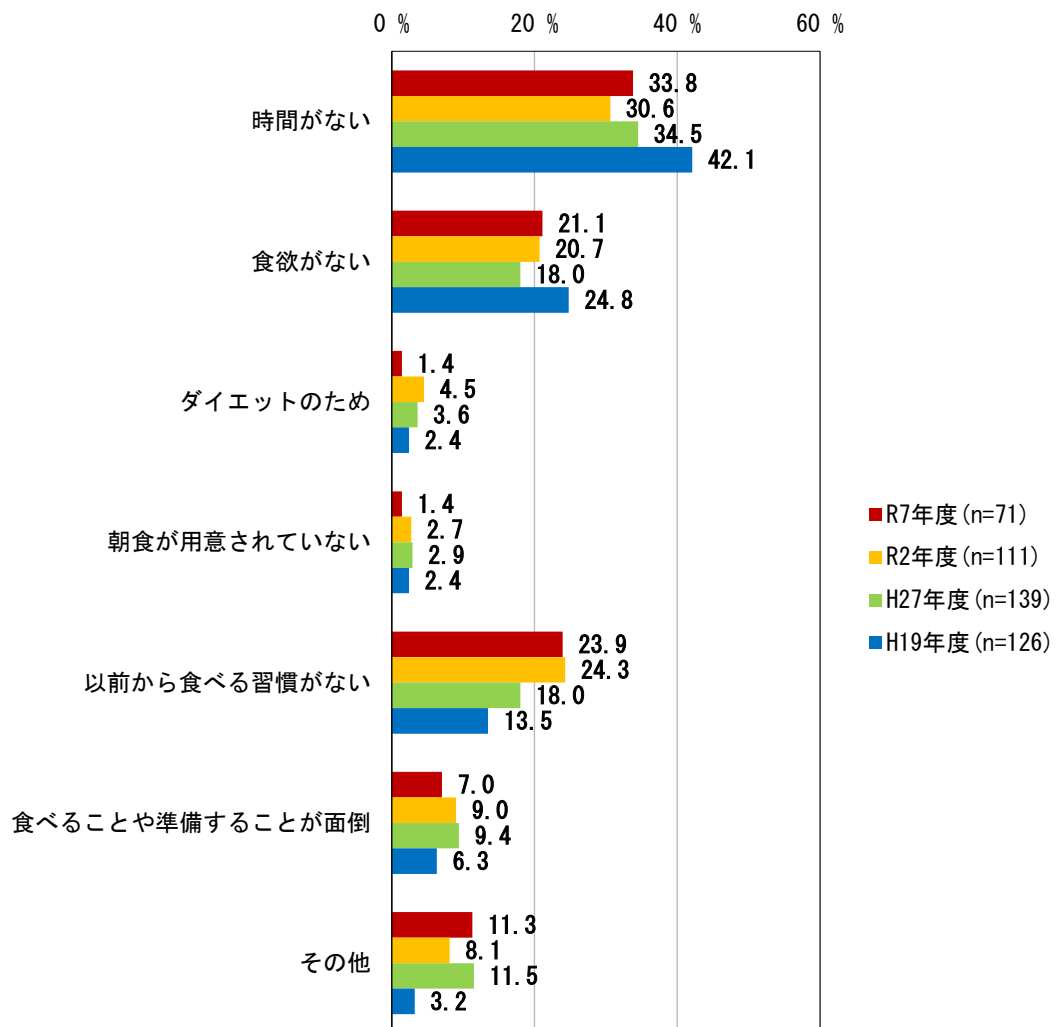


図6 朝食を摂らない理由 結果推移

問 4. あなたは、どのくらいの頻度で家族と一緒に食事をしますか。(SA)

朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数*は、一週間あたり 10.1 回（朝食 4.4 回、夕食 5.7 回の合計）であった。

*共食の回数は、「ほとんど毎日食べる」を週 7 回、「週に 4～5 日食べる」を 4.5 回、「週に 2～3 回食べる」を 2.5 回、「週に 1 日程度食べる」を 1 回とし、それぞれ朝食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を出している。

■ 朝食 (SA)

「ほぼ毎日」と回答した人の割合は前回の調査から 5.2 ポイント減少した。

<単数回答>

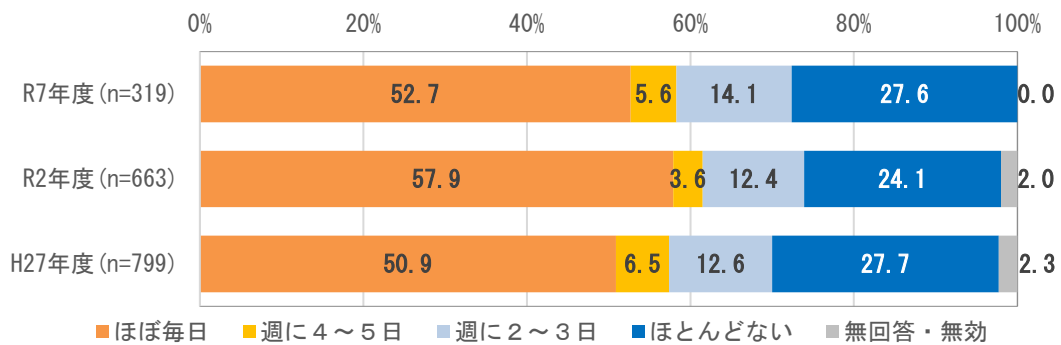


図 7 家族と一緒に食事頻度 (朝食) 結果推移

(H27 年度調査の「1 週間に 1 日」の回答を「ほとんど食べない」と回答とした)
(家族と同居している者を対象とした)

■ 夕食 (SA)

「ほぼ毎日」と回答した人の割合は前回調査から 6.5 ポイント減少した。

<単数回答>

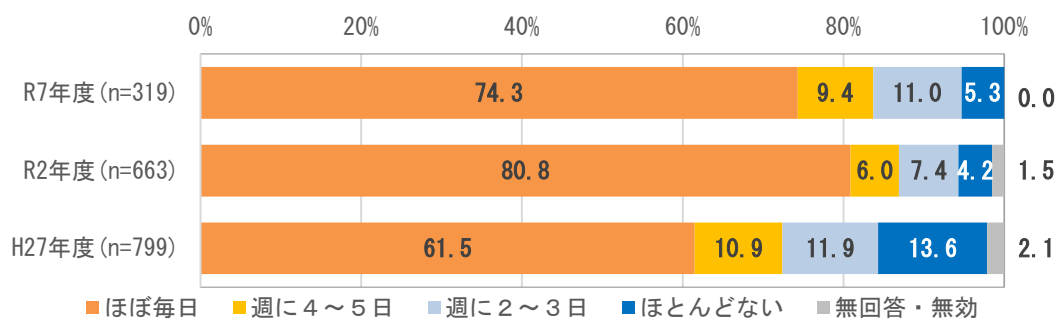


図 8 家族と一緒に食事頻度 (夕食) 結果推移

(H27 年度調査の「1 週間に 1 日」の回答を「ほとんど食べない」と回答とした)
(家族と同居している者を対象とした)

食育推進指標 14

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
14	朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	—	9.4 回	11.1 回	10.1 回	週に 10 回以上

問 5. あなたは、食事が楽しいですか。(SA)

※R2 年度調査まで「あなたは、食事を楽しみにしていますか」

食事が「楽しい」と答えた人は 83.1%で、前回調査とほぼ同じ結果であった。

<単数回答>

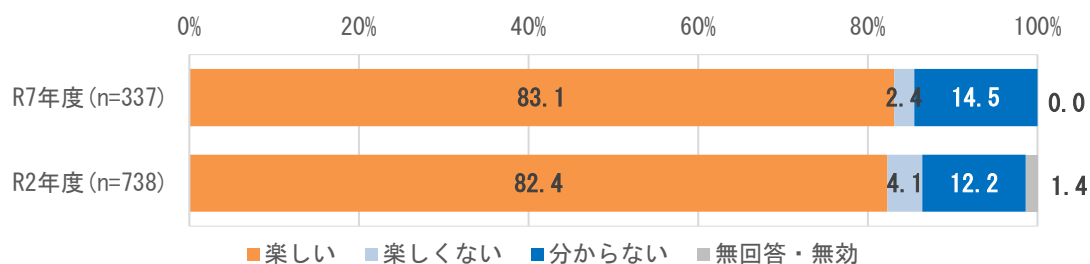


図 9 食事を楽しみにしているか

問 6. あなたは、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。(SA) (第2次福津市食育推進計画 指標13)

食事のあいさつは、食育推進計画基本目標3「豊かな心を育む」の基本方針(1)「食への感謝の気持ちを育てる」の指標である。「必ずしている」と回答した人の割合は55.5%であった。前回調査では48.1%であり、7.4ポイントの増加があった。性別にみると「必ずしている」と回答した人の割合は女性の方が多く58.3%、男性は48.5%であった。前回調査から男性は7.2ポイント、女性は6.6ポイント増加した。

<単数回答>

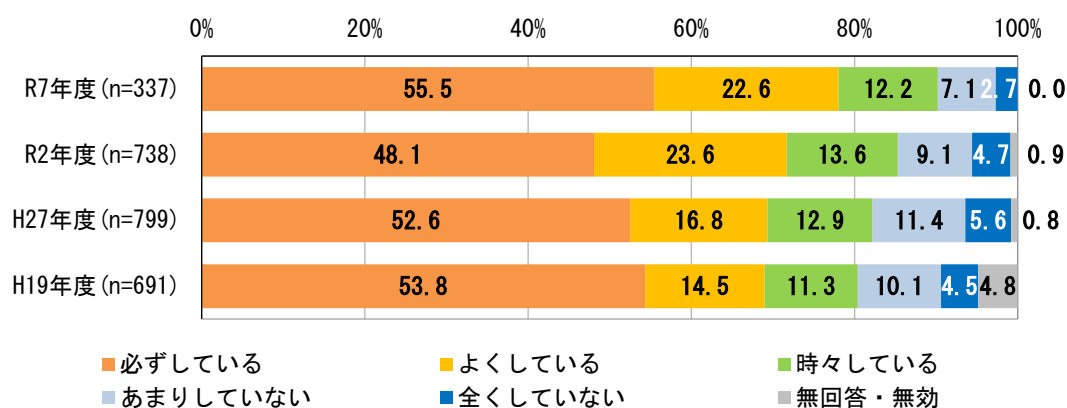


図10 食事の際のあいさつ 経年比較

食育推進指標13

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
13	「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言う市民の割合	54.8%	52.6%	48.1%	55.5%	70%

表3 食事の際のあいさつ頻度：性別・年代別の比較

	必ずしている	よくしている/ 時々している	あまりしていない/ 全くしていない	不明・無回答	計
H27 男性	115 (41.4)	85 (30.6)	74 (26.6)	4 (1.4)	278 (100.0)
R2 男性	99 (41.3)	87 (36.3)	51 (21.3)	3 (1.3)	240 (100.0)
R7 男性	47 (48.5)	35 (36.1)	15 (15.5)	0 (0.0)	97 (100.0)
18～29 歳	5 (71.4)	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
30～39 歳	10 (55.6)	5 (27.8)	3 (16.7)	0 (0.0)	18 (100.0)
40～49 歳	6 (40.0)	7 (46.7)	2 (13.3)	0 (0.0)	15 (100.0)
50～59 歳	13 (54.2)	5 (20.8)	6 (25.0)	0 (0.0)	24 (100.0)
60～64 歳	4 (36.4)	5 (45.4)	2 (18.2)	0 (0.0)	11 (100.0)
65～69 歳	4 (40.0)	6 (60.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
70 歳以上	5 (41.7)	5 (41.7)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
H27 女性	298 (59.0)	148 (29.3)	58 (11.5)	1 (0.2)	505 (100.0)
R2 女性	254 (51.7)	183 (37.3)	50 (10.1)	4 (0.8)	491 (100.0)
R7 女性	134 (58.3)	79 (34.4)	17 (7.4)	0 (0.0)	230 (100.0)
18～29 歳	13 (59.1)	7 (31.8)	2 (9.1)	0 (0.0)	22 (100.0)
30～39 歳	37 (64.9)	19 (33.3)	1 (1.8)	0 (0.0)	57 (100.0)
40～49 歳	25 (51.0)	20 (40.8)	4 (8.2)	0 (0.0)	49 (100.0)
50～59 歳	31 (60.8)	15 (29.4)	5 (9.8)	0 (0.0)	51 (100.0)
60～64 歳	10 (62.5)	5 (31.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)
65～69 歳	8 (42.1)	8 (42.1)	3 (15.8)	0 (0.0)	19 (100.0)
70 歳以上	10 (62.5)	5 (31.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)

() 内は%

問 7. あなたは、ゆっくりよくかんで食べていますか。(SA)

回答者のうち 50.2%の人が「ゆっくりよくかんで食べている」または「どちらかといえば、ゆっくりよくかんで食べている」と回答した。全国調査の 47.6%と比べて、2.6 ポイント高い結果であった。また高齢者（65 歳以上）は 57.7%であった。

<単数回答>

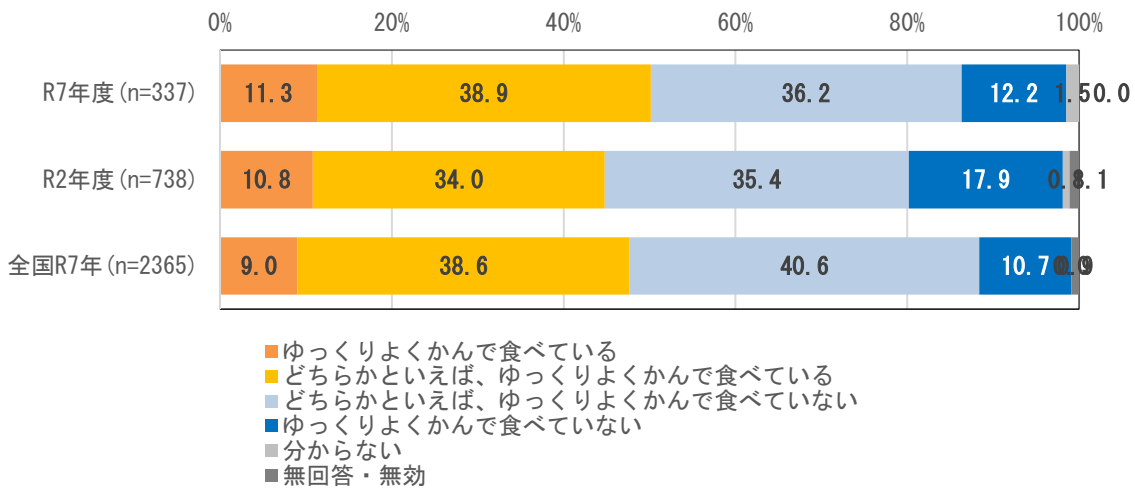


図 11-1 ゆっくりよく噛んで食べる人の割合 全国調査との比較
(全国調査は「食に関する意識調査」農林水産省の結果)

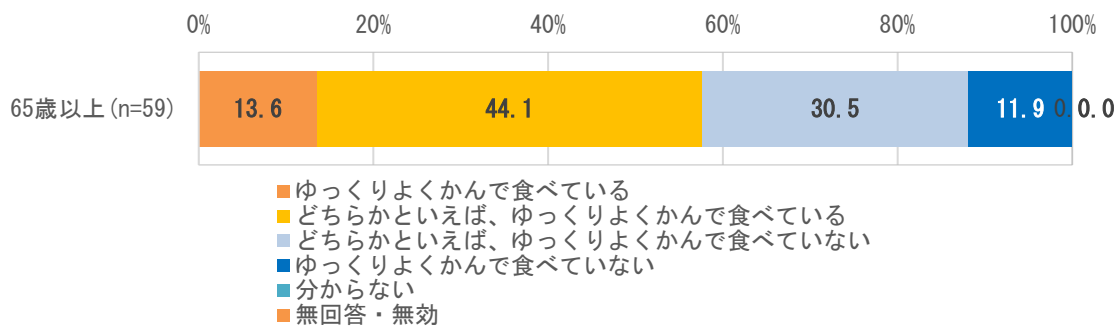


図 11-2 ゆっくりよく噛んで食べる人の割合 (65 歳以上)

食育推進指標 12

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
12	よく噛んで食べることができる高齢者の割合	—	74.0%	—	57.7%	74.0%

※「どちらかといえば、ゆっくりよくかんで食べている」を含む割合

問 8. あなたは、主食（ご飯・パン・めん等）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品等を使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻等を使った小鉢、小皿の料理）を3つそろえて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。（SA）

（第2次福津市食育推進計画 指標5, 10）

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をとることは、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の基本方針（1）「若い世代が健康や食への意識をもつ」および（3）「健康長寿につながる健康的な食習慣を身に付ける」の指標である。市民全体では36.5%が「ほぼ毎日」主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日2回以上あると回答した。前回調査では、47.4%であり10.9ポイント減少した。また、若い世代（18～39歳）は、「ほぼ毎日」が21.7%で、前回調査では、41.0%であり19.3ポイント減少した。

<単数回答>

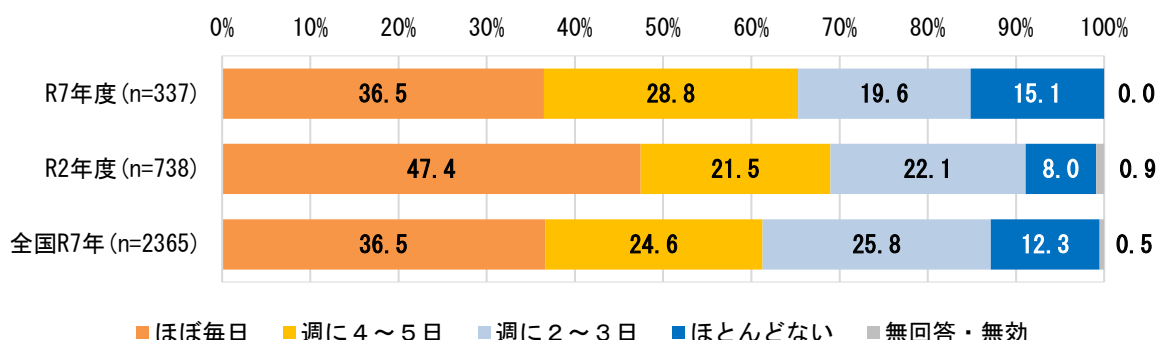


図12 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度 結果推移
（全国調査は「食に関する意識調査」農林水産省の結果）

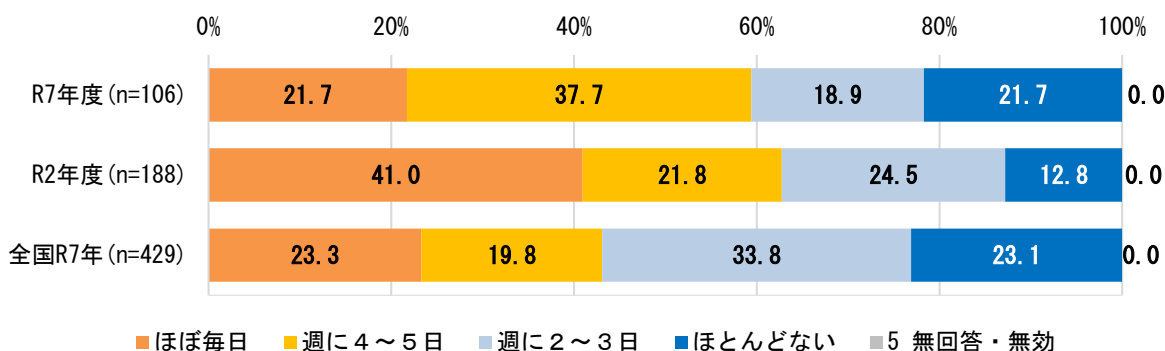


図13 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度（若い世代） 結果推移
（全国調査は「食に関する意識調査」農林水産省の結果）

（若い世代は18～39歳であるが、全国調査は20～39歳の結果を参照した）

食育推進指標 5, 10

No.	取り組み効果をはかる項目		調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
5	主食・主菜・副菜を組み合わせ た食事をとるよう心がけて いる人の割合	若い世代 18-39歳	—	—	41.0%	21.7%	60%
10		市民	—	—	47.4%	36.5%	85%以上

※第2次福津市推進計画の若い世代とは、18-39歳を指す

※主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を「ほぼ毎日」とする人の割合

問9. あなたは、毎日野菜を何皿（品）程度食べていますか。（SA）

※R2年度調査まで「あなたは、毎食野菜を食べることを心がけていますか。」

（第2次福津市食育推進計画 指標4）

野菜を毎食食べることを心がけることは、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の基本方針（1）「若い世代が健康や食への意識をもつ」の指標である。全対象者（総数）では、29.1%が「3～4皿」、5.9%が「5皿以上」と回答した。若い世代（18～39歳）については、25.5%が「3～4皿」、2.8%が「5皿以上」であった。

<単数回答>

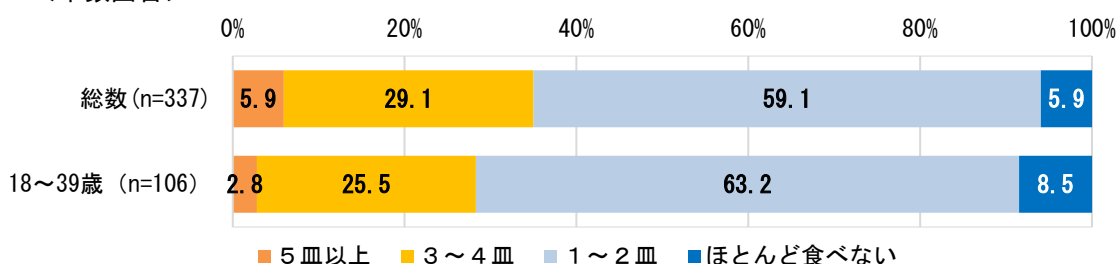


図14 野菜料理の摂取量（皿数）（全世代・若い世代）

食育推進指標 13

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
13	野菜を毎食食べることを心がけている若い世代の割合	—	—	41.5%	28.3%	60%

※第2次福津市推進計画の若い世代とは、18-39歳を指す

※R7年度では、毎食であるかは分からないが、1日3皿以上食べている者の割合を示す

問 10. あたは、生活習慣病予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持に気をつけた食生活を実践していますか。(SA)

(第2次福津市食育推進計画 指標 11)

適正体重を維持することは、食育推進計画基本目標2「健康な暮らしを実感する」の基本方針(3)「健康長寿につながる健康的な食習慣を身に付ける」の指標である。

「適正体重を維持している市民の割合」を福津市特定健診受診者に対する割合で評価する。今回調査では、食生活の実践について、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人は57.6%であり、前回調査の61.3%から3.7ポイント減少した。

<単数回答>

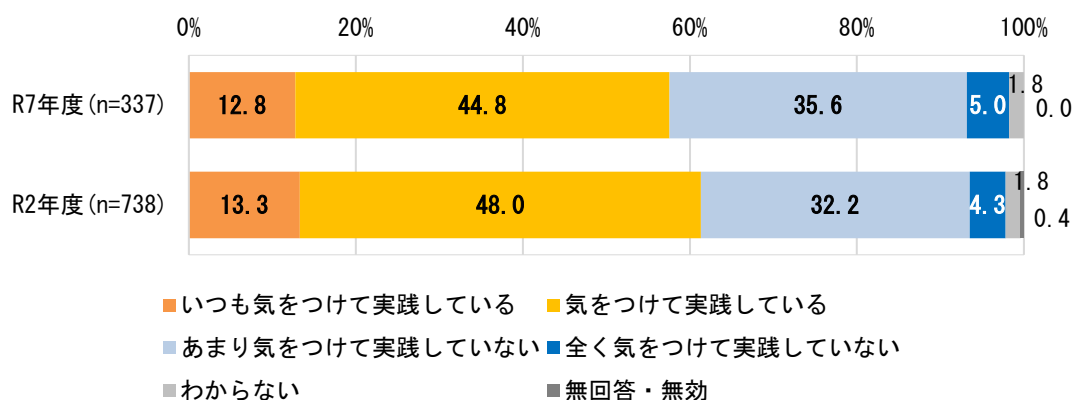


図 15 適正体重の維持に気をつけた食生活の実践度 結果推移

問 11. あたは、ふだんから減塩に気をつけた食生活を実践していますか。 (SA)
 (第 2 次福津市食育推進計画 指標 9)

減塩を心がけることは、食育推進計画基本目標 2「健康な暮らしを実感する」の基本方針 (3)「健康長寿につながる健康的な食習慣を身に付ける」の指標である。今回調査では、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人は 48.4%で、前回調査の 49.3%から 0.9 ポイント減少した。

<単数回答>

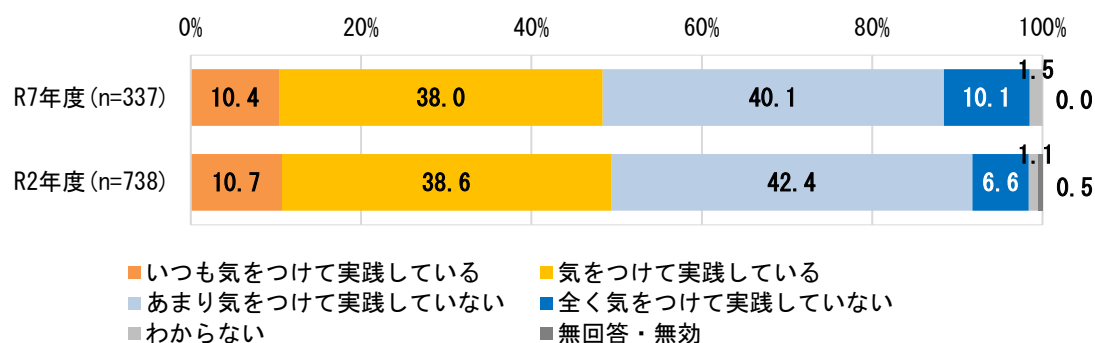


図 16 減塩に気をつけている食生活の実践度 結果推移

食育推進指標 9

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
9	減塩を心がけているの割合	—	—	49.3%	48.4%	75%以上

(問11で「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」を選んだ人に)

問11-1：具体的にどのようなことに気をつけていますか。(MA)

減塩に関する具体的な取り組みは、「野菜をしっかりとるようにしている」が最も多く(62.6%)、「めん類の汁はできるだけ残している」(57.1%)、「だしを利用したり、調味料を少なめに使う」(54.6%)、「味のついている料理に、食卓で追加の調味料をかけない」(52.8%)で、半数以上の方が取り組んでいた。

<複数回答>

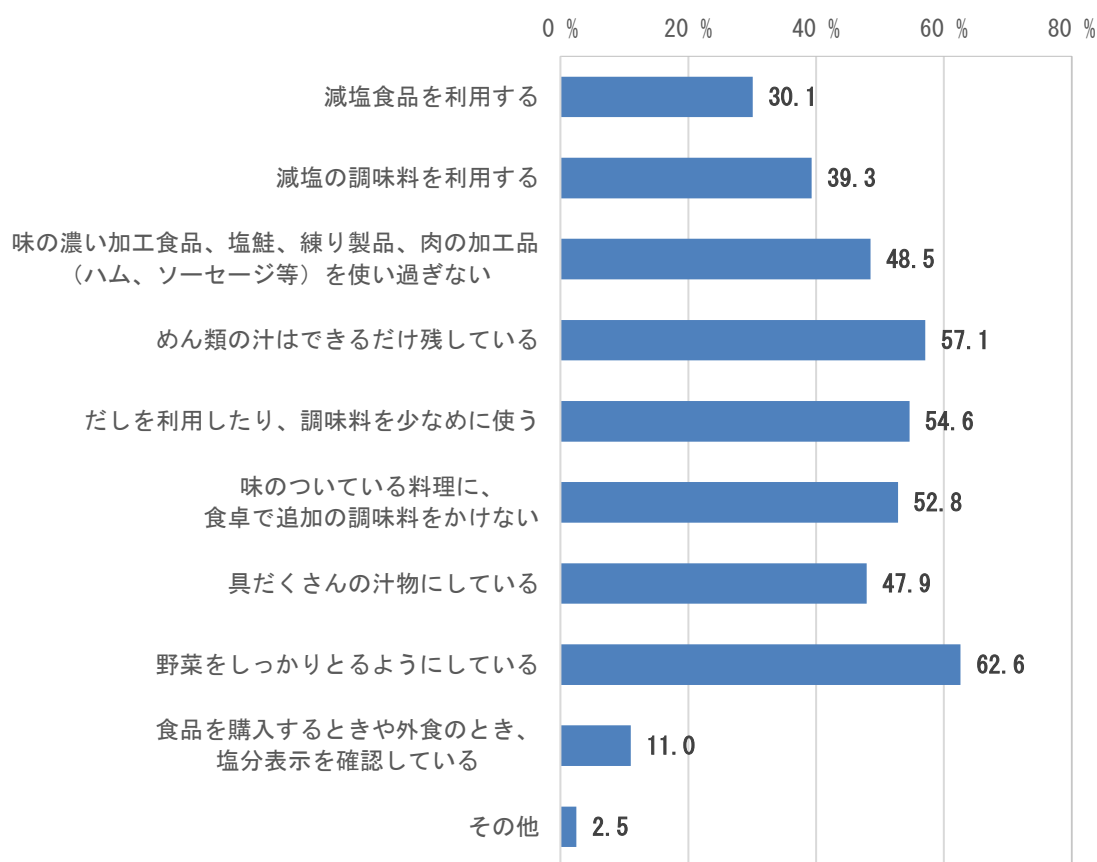


図17 減塩に取り組んでいる内容 (n=163)

問 12. あなたの世帯では、過去 1 年間に、家族が必要とする食料（菓子等の嗜好品は除く）を経済的な理由で購入できないことがありましたか。（SA）

経済的な理由で食料が購入できないことが「あった」と回答した人の割合は 12.8%で、女性が 15.2%で男性 5.2%に比べて 10.0 ポイント高かった。年代別の比較では、30～39 歳が 18.4%と最も高かった。

<単数回答>

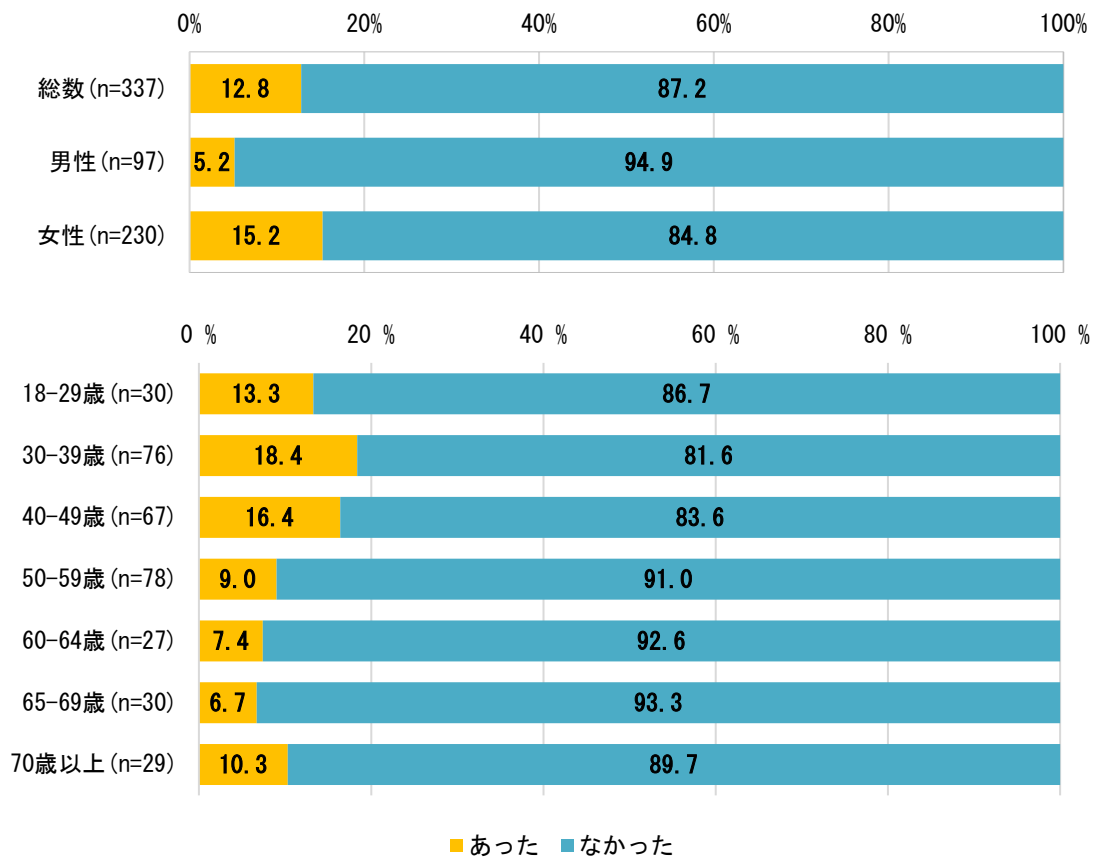


図 18 過去 1 年間に経済的理由で食料を購入できなかった経験 性別・年代比較

問 13. あなたは、フードバンクがあれば利用したいと思いますか。(SA)

フードバンクを「利用したい」と回答した人の割合は 43.3%で、女性が 46.1%で男性 37.1%に比べて 9.0 ポイント高かった。年代別の比較では、18～64 歳が半数近い割合で「利用したい」と回答したが、65 歳以上では約 3 割であった。また、半数近くの方が利用に関して「わからない」と回答した。

<単数回答>

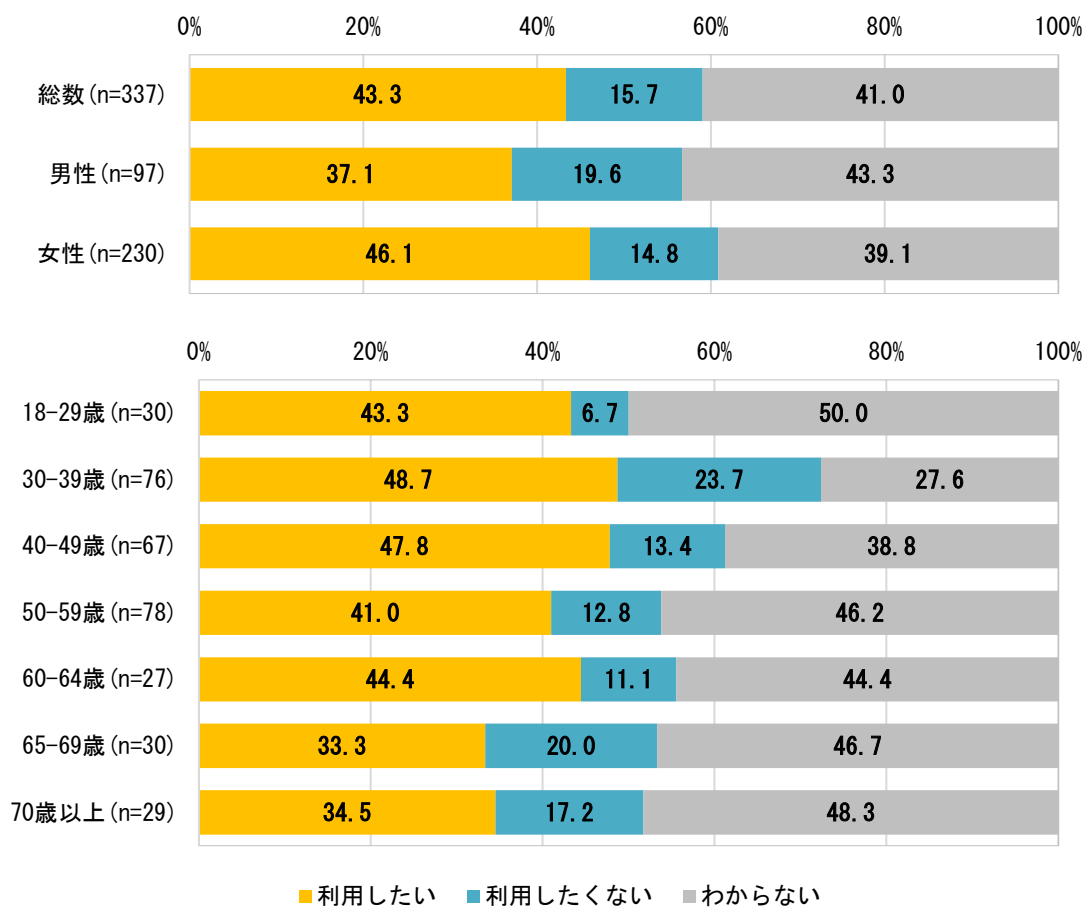


図 19 フードバンクの利用意思 性別・年代比較

問 14. あなたは、子ども食堂のような無料または低価格で食事をとることができる場所や地域での食事回答の機会があれば利用したいと思いますか。(SA)

子ども食堂のような無料や低価格の食事の場を「利用したい」と回答した人の割合は31.2%で、女性が33.9%で男性25.8%に比べて8.1ポイント高かった。年代別の比較では、18～29歳の43.3%、30～39歳の48.7%が「利用したい」と回答し、若い世代の利用意向が高かった。

<単数回答>

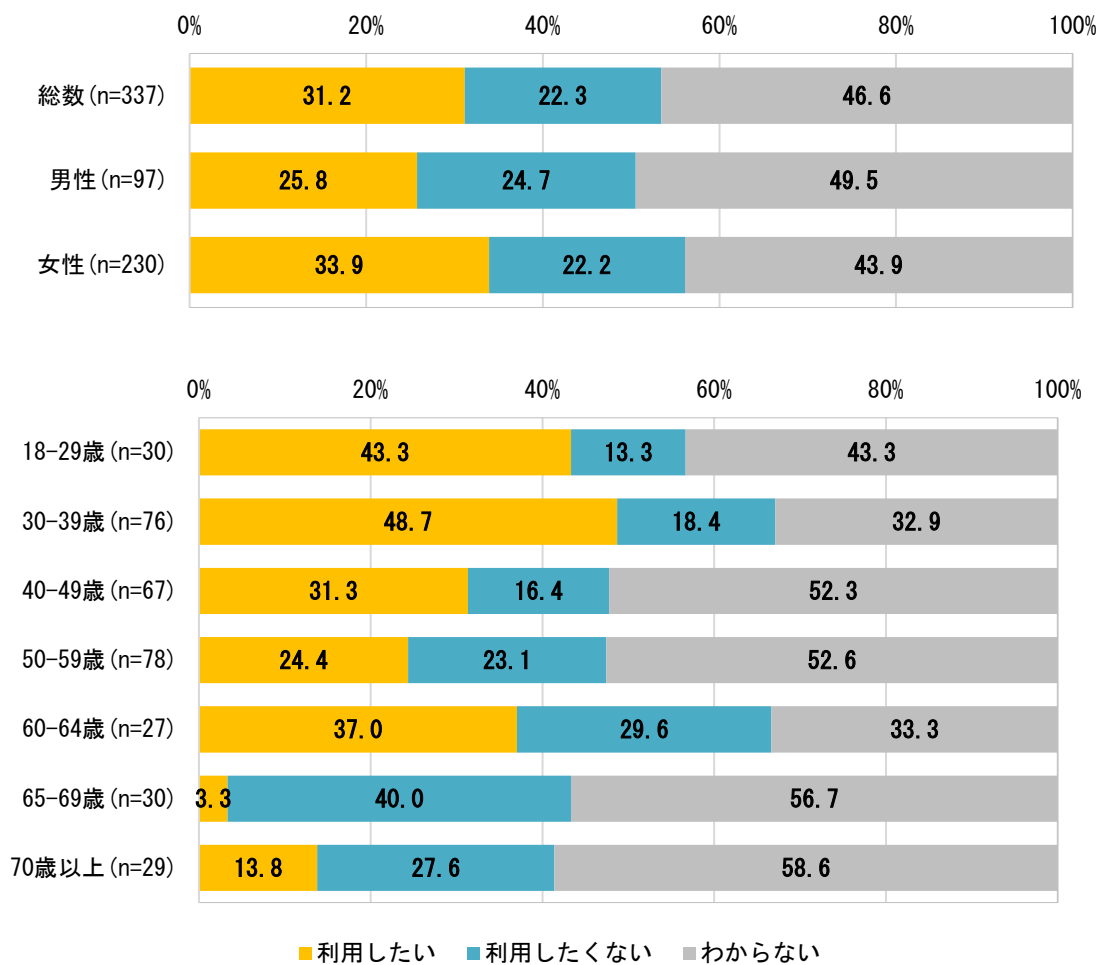


図 20 子ども食堂等の無料・低価格な食事の場の利用意思 性別・年代比較

4. 食に関する活動について

問 15. あなたは、食育の推進に関する活動に機会があれば参加してみたいと思いますか (SA)

「参加してみたい」と回答した人の割合は42.4%で、前回調査より6.8ポイント増加となった。

<単数回答>

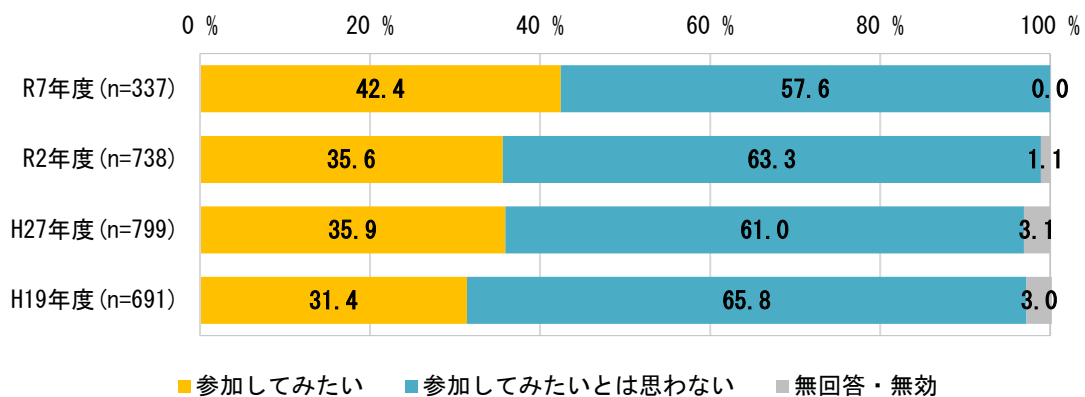


図 21 食育推進に関する活動への参加意思 結果推移

(問 15 で「参加してみたい」を選んだ人に)

問 15-1. あなたは、どのような食育の推進に関する活動に参加してみたいと思いますか。(3つまで選択) (3MA)

最も参加してみたい食育推進に関する活動は、「食生活の改善に関する項目」(43.4%)が最も多かった。次いで、「郷土料理、伝統料理などの食文化継承活動」(42.0%)、「生活習慣病予防などのための料理教室」(39.9%)であった。「農漁業体験などに関する活動」は32.2%であり、初回調査時(18.9%)から、13.3ポイント増加していた。

<複数回答>

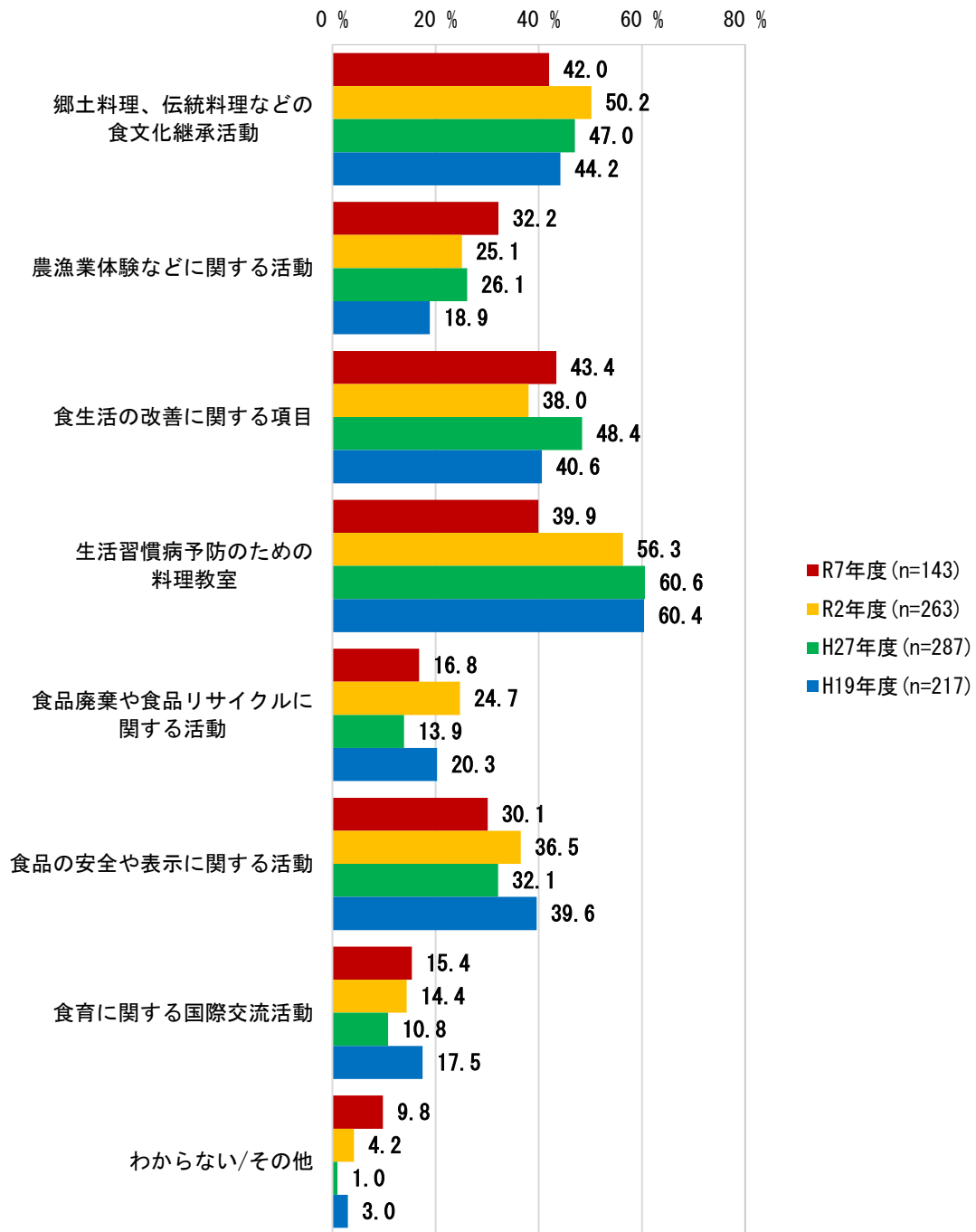


図 22 参加してみたい食育推進に関する活動の種類 結果推移

問 16. あなたが、これまでに参加した食育推進イベントや活動がありますか。
 (SA) (第2次福津市食育推進計画 指標 20)

食育推進イベントに参加することは、食育推進計画基本目標5「連携・共働で食育を進める」の基本方針(1)「行政・学校・ボランティア・関係団体の連携を強める」の指標である。食育イベント・活動への参加状況を尋ねた結果、「はい(参加した)」と回答した人は全対象者の13.1%であった。H27年度調査から少しずつ増加している。

<単数回答>

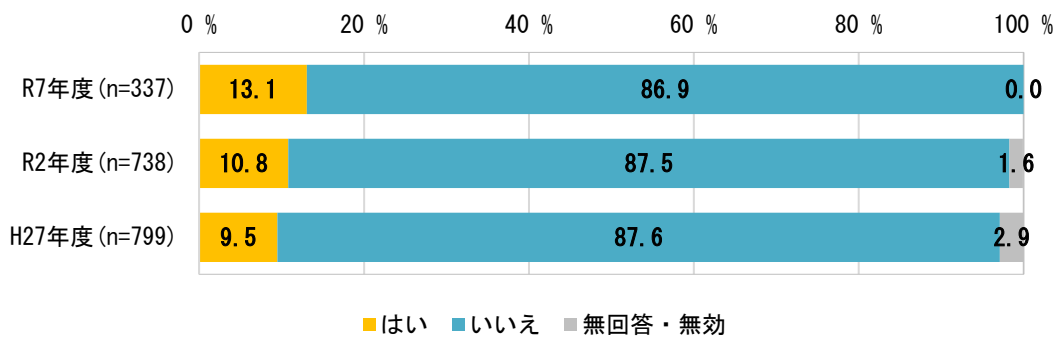


図 23 食育イベントや活動への参加の有無 結果推移

食育推進指標 20

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
20	食育イベントや活動に参加した市民の割合	—	9.5%	10.8%	13.1%	20%

※平成27年度までは、過去1年間の参加状況

(問16で「はい(参加した)」を選んだ人に)
 問16-1. それはどんな活動ですか (MA)

イベントや活動に参加した人に対して(n=44)、どのような活動に参加したのかを尋ねたところ、「食生活の改善に関する活動」が最も多く(31.8%)、続いて「生活習慣病予防などのための料理教室」(22.7%)であった。

<複数回答>

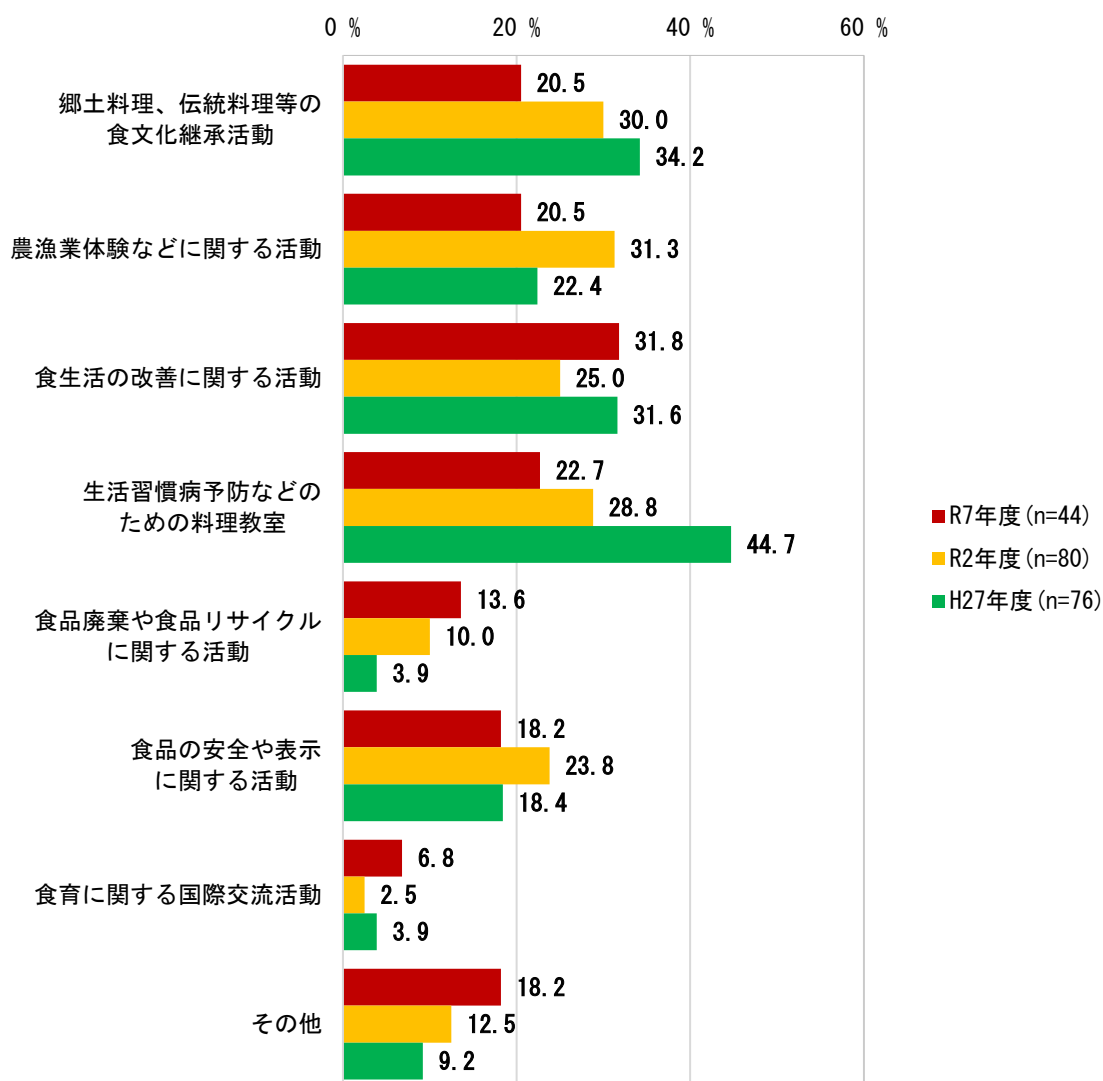


図24 参加した食育イベントや活動の種類 結果推移

(問 16 で「いいえ」を選んだ人に)
 問 16-2. 参加しなかった、または参加できなかった理由は何ですか。(MA)

食育に関するイベントや活動に実際には参加していないと回答した人(n=293)に対して、「参加しなかった/できなかった」理由を尋ねた。「イベントや活動があることを知らなかった」との回答が最も多く 54.6%であり、年々割合が高くなっている。「仕事や他の用で忙しかった」(43.7%)は前回と同じく第2位であった。第3位は「イベントや活動に興味がないから」(19.5%)であり、「一人では参加しにくかった」(17.1%)で前回調査より共に減少した。

<複数回答>

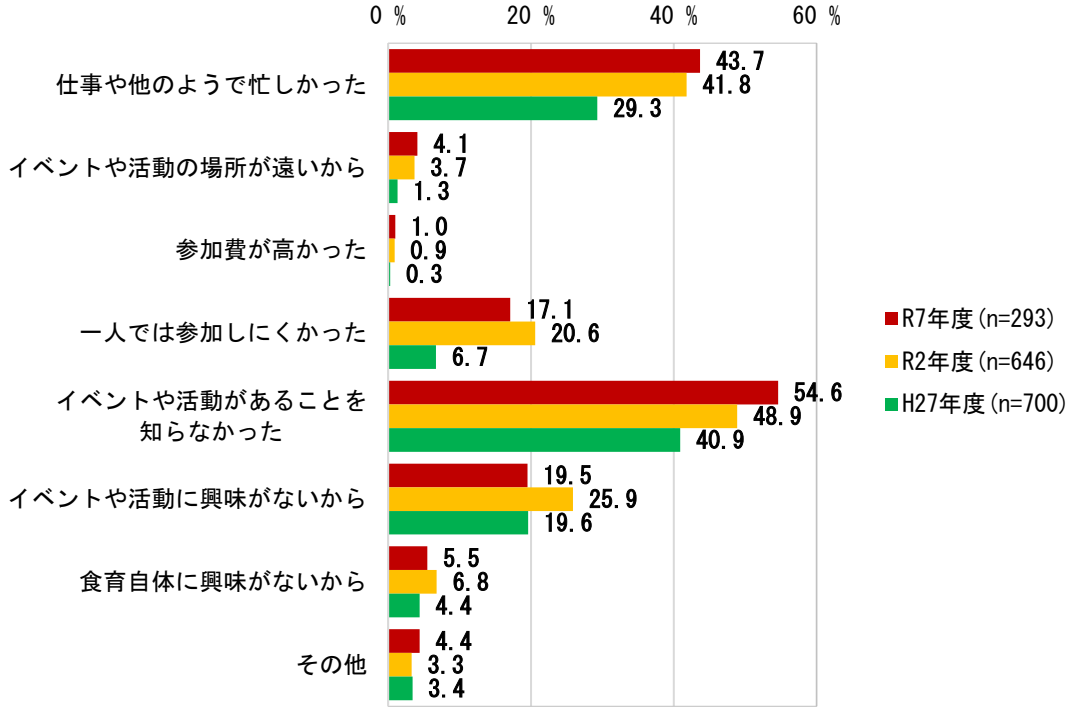


図 25 参加した食育イベントや活動へ参加しなかった/できなかった理由 結果推移
 食育推進指標 21

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
21	食育イベントや活動が開催されることを知らずに参加できなかった市民の割合	—	37%	42.8%	47.5%	30%

※全調査回答者に対する割合

問 17. あなたは、生産者と交流体験をしたことがありますか。（SA）
 （第 2 次福津市食育推進計画 指標 1）

生産者と交流することは、食育推進計画基本目標 1「元気な地域をつくる」の基本方針（1）「食を通して地域を知る」の指標である。生産者との交流体験の経験のある人は 28.5%で前回調査から 8.9 ポイント増加した。

<単数回答>

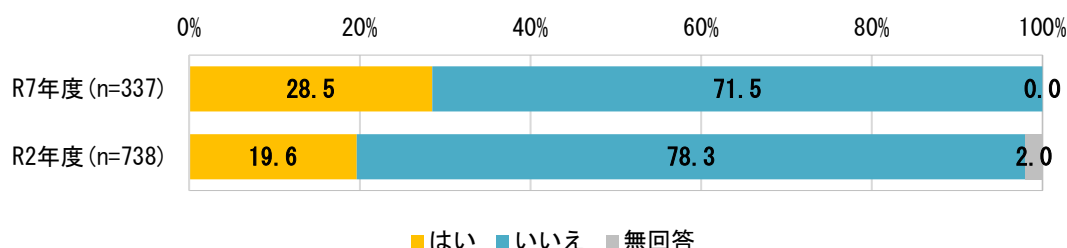


図 26 生産者との交流 経年推移

食育推進指標 1

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
1	生産者と交流体験をしたことのある市民の割合	—	—	19.6%	28.5%	50%

問 18. あなたは、「食品ロス」という問題を知っていますか。（SA）

食品ロスを「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人の合計の割合は 93.8%であり、前回調査から 5.1 ポイント増加した。

<単数回答>

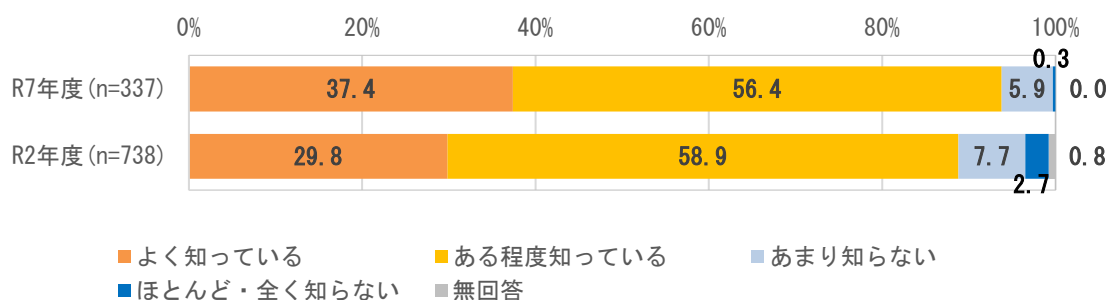


図 27 食品ロスの認知度 経年推移

(問 18 で「よく知っている/ある程度知っている/あまり知らない」を選んだ人に)
 問 18-1. あなたは、「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。(MA) (第 2 次福津市食育推進計画 指標 19)

食べ物を無駄にしないように取り組むことは、食育推進計画基本目標 4「安全・安心な環境をつくる」の基本方針 (2) 「地域の自然環境をみんなで守る」の指標である。「残さず食べる」が最も多く (75.0%)、続いて「冷凍保存を活用する」が第 2 位 (68.2%) で、第 3 位が「賞味期限を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」 (66.7%) であった。

<複数回答>

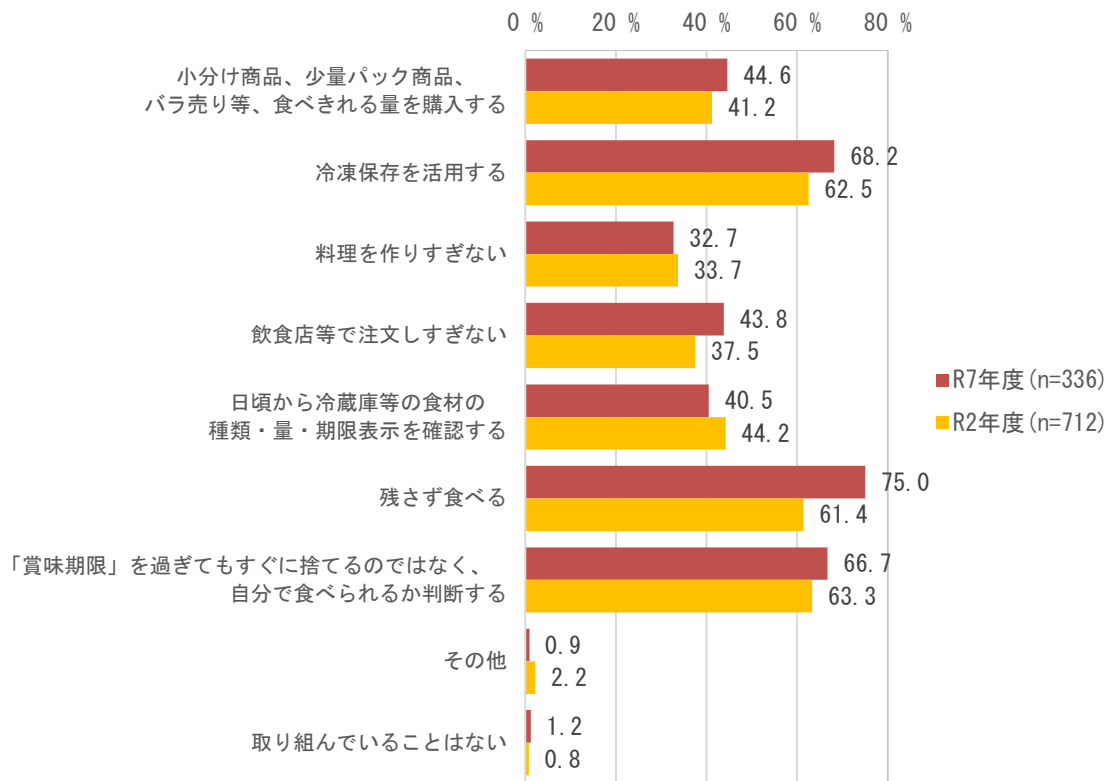


図 28 食品ロスの取組内容 経年推移

食育推進指標 19

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
19	食べ物を無駄にしないよう取り組んでいる市民の割合	—	—	99.2%	98.8%	80%以上

※「取り組んでいることはない」以外とした

問 19. あなたは、災害時に備えて飲料水や食品を備蓄していますか。(SA)

(第 2 次福津市食育推進計画 指標 19)

災害時の食料備蓄について、「3 日以上備蓄している」人の割合は 16.6%で、男性 16.5%で、女性が 16.5%であった。年代別の比較では、50～59 歳が 9.0%と最も低かったが、年齢が高くなるにつれ備蓄状況が高くなった。一方で、約 1/3 (35.6%) が「ほとんど・全く備蓄していない」ことがわかった。

<単数回答>

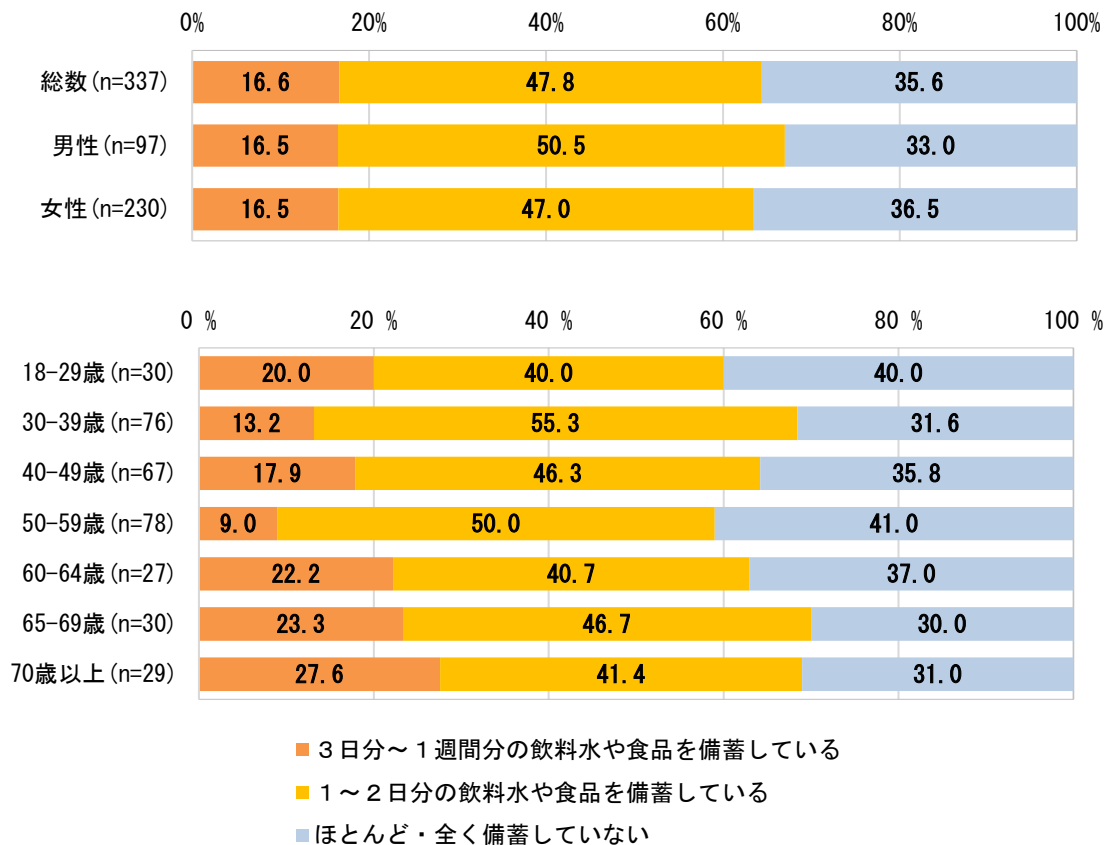


図 29 災害時の飲料水・食品の備蓄状況 性別・年代比較

問 20. あなたは、食品を購入する際に食品表示を確認しますか。(SA)

(第 2 次福津市食育推進計画 指標 18)

食品を購入する際に食品表示を確認することは、食育推進計画基本目標 4「安全・安心な環境をつくる」の基本方針 (1)「食に関する正しい知識を身につける」の指標である。R2 年度から「いつも確認している/ときどき確認している/あまり確認していない/全く確認していない」の四つに変更されている。「いつも確認している」と回答した人は、27.6%で前回調査から 9.1 ポイント減少した。

<単数回答>

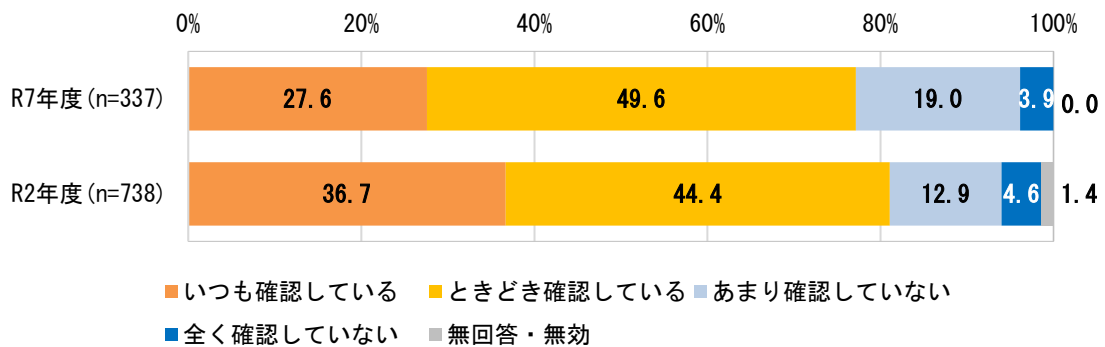


図 30 食品表示の確認 結果推移

食育推進指標 18

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
18	食品表示を必ず確認する市民の割合	-	65.5%	36.7%	27.6%	80%

※H27 年度は「はい」の割合、R2 年度以降は「いつも確認している」の割合

5. 地産・地消について

問 21. あなたの家庭では、福津市でとれた農作物や魚介類を使用していますか。(SA) (第2次福津市食育推進計画 指標2)

福津産の農作物や魚介類をよく使用することは、食育推進計画基本目標1「元気な地域をつくる」の基本方針(1)「食を通して地域を知る」の指標である。福津市産の農水産物を「毎日使用している」(6.2%)、「よく使用している」と回答した人(40.7%)と合わせた割合は46.9%、前回調査時から1.6ポイント増加した。

<単数回答>

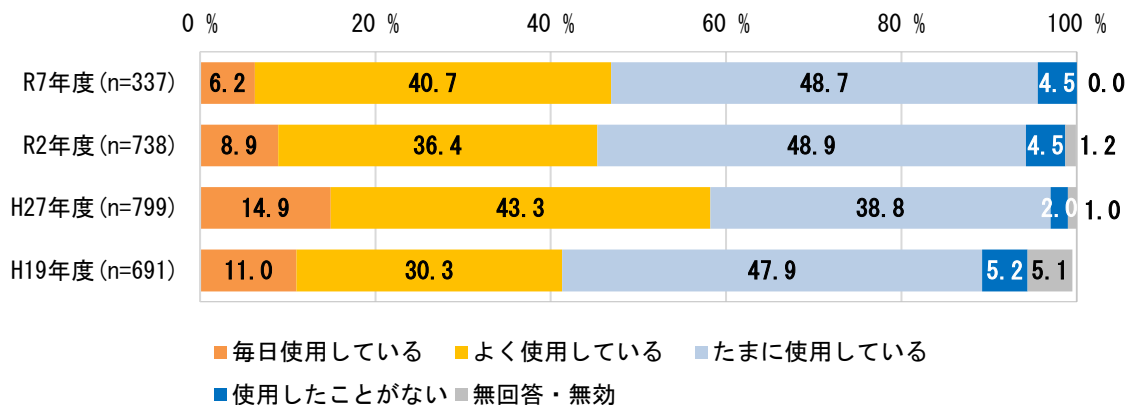


図 31 福津市でとれた農水産物使用頻度 結果推移

食育推進指標 2

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
2	毎日の食事に、旬のものや地元産の食材をよく使う市民の割合	41.3%	58.2%	45.3%	46.9%	70%

(問 21 で「よく知っている/ある程度知っている/あまり知らない」を選んだ人に)
問 21-1 あなたは、福津市でとれた農産物や海産物をどこで購入していますか。
(MA)

福津市産の農産物や海産物の購入場所については、福津市内の施設（スーパー等）が最も多く（68.2%）、次いで市内の産直施設（ふれあい広場ふくま・お魚センターうみがめ・あんずの里市）が62.9%であった。

<複数回答>

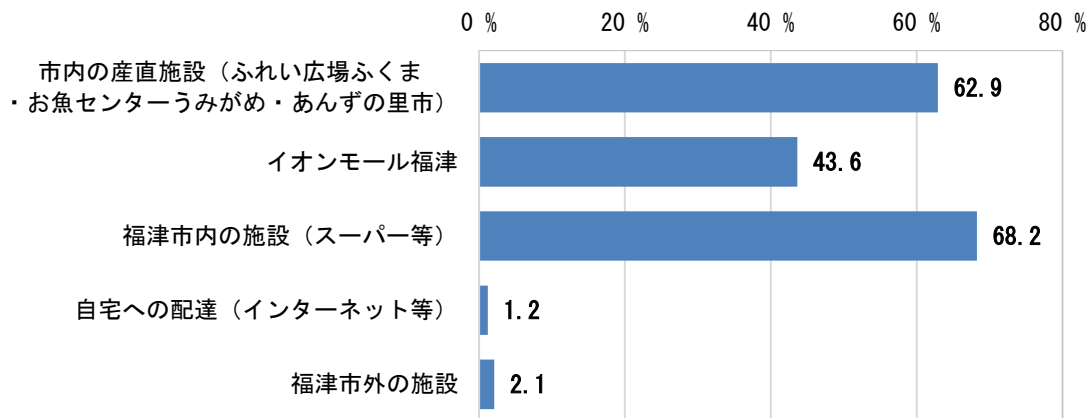


図 32 福津市産の農産物・海産物の購入場所 (n=322)

6. 食文化・伝統料理について

問 22 あなたは、伝統料理や郷土料理について知っていますか。(SA)
 (第2次福津市食育推進計画 指標 16)

伝統料理や郷土料理を知っていることは、食育推進計画基本目標3「食への感謝の気持ちを育てる」の基本方針(2)「食文化を次世代につなげる」の指標である。伝統料理や郷土料理の認知について「はい」と回答した人の割合は82.8%で、前回調査時から10.7ポイント増加した。

<単数回答>

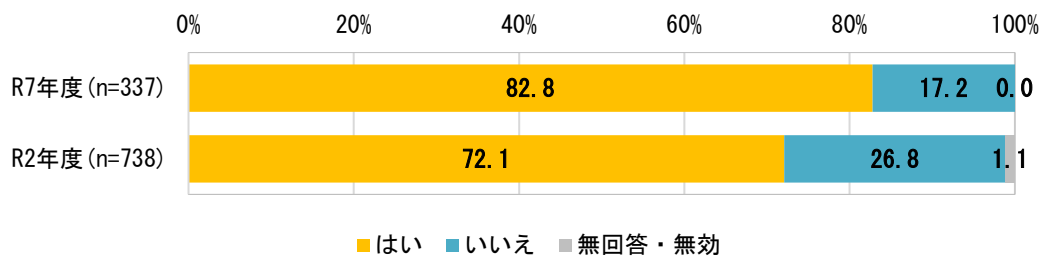


図 33 伝統料理・郷土料理の認知度 経年推移

食育推進指標 16

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
16	伝統料理や郷土料理を知っている市民の割合	—	—	72.1%	82.8%	90%以上

問 23. あなたは、食に関する作法や望ましい食生活（行事食を取り入れた食生活）に関心がありますか。（SA）（第2次福津市食育推進計画 指標17）

「食に関する作法や望ましい食生活に関心があること」は、食育推進計画基本目標3「豊かな心を育む」の基本方針（2）「食文化を次世代につなげる」指標の一つである。食に関する作法や望ましい食生活について「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は、74.5%で、前回調査から0.6ポイント増加した。

<単数回答>

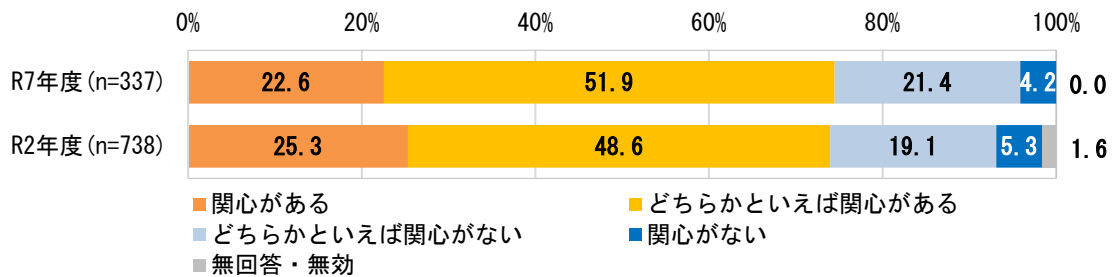


図 34 食に関する作法や望ましい食生活への関心 経年推移

食育推進指標 17

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
17	食に関する作法や望ましい食生活に関心ある人の割合	—	—	73.9%	74.5%	60%以上

7. その他

※問 24 性別、問 25 年齢、問 26 住所（小学校校区）、問 27 家族構成、問 28 職業は、1. 対象者の属性に結果を掲載した。

問 29. あなたの暮らし向きはいかがですか。（SA）

回答者の暮らし向きは、「ゆとりがある」「ややゆとりがある」と回答した人の割合は、39.5%であった。「ゆとりがない」「まったくゆとりがない」は 24.6%であった。

<単数回答>

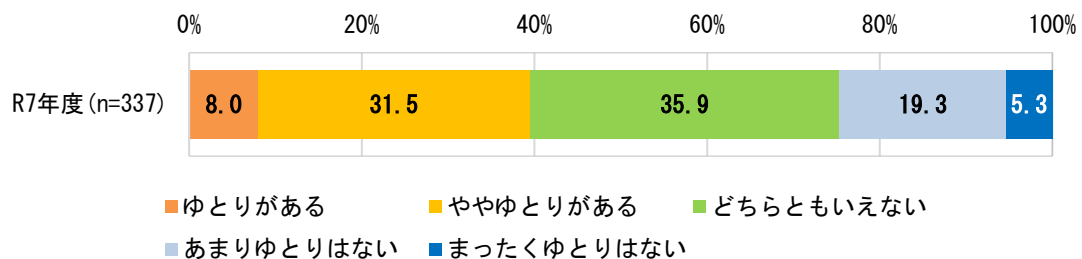


図 35 暮らし向き

問 30. あなたは日々の生活に時間的なゆとりを感じますか。（SA）

回答者の時間的なゆとりは、「時間的なゆとりを感じる」「やや時間的なゆとりを感じる」と回答した人の割合は、35.9%であった。「あまり時間的なゆとりを感じない」「まったく時間的なゆとりを感じない」は 37.9%であった。

<単数回答>

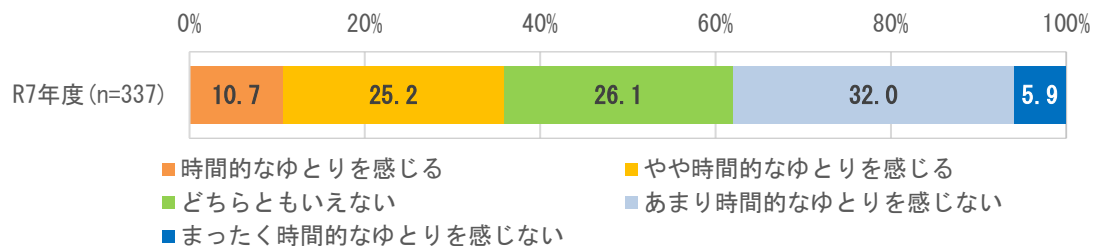


図 36 時間的なゆとり

問 31. あなたは自分の健康状態について、どのようにお感じですか。(SA)

回答者の健康状態は、「とても良い」「まあ良い」と回答した人の割合は、57.8%であった。「あまり良くない」「良くない」は16.1%であった。

<単数回答>

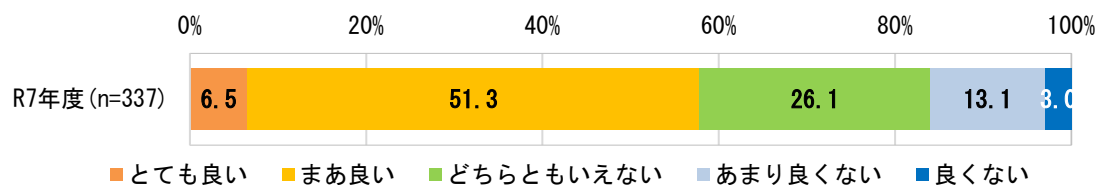


図 37 健康状態

問 32. ご自身や家庭の日々の生活の中で食育に関することで行っていることがございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

53名（15.7%）から自由記載欄に食育の実践内容が寄せられた。

表4 「食育」の実践に関する自由記載抜粋

料理に関すること
食事は味噌汁を作り、野菜サラダやおひたしと果物等、バランスよく食べるようにしている。
極力自炊。家庭菜園。コンポスト。子どもとの調理。腸活。献立を考えて買い物に行き、日にちに間に合えば期限の短いものを選ぶ。
家族に職場でのお昼は弁当を入れる事。塩分に気をつけてます。
素材の味がわかるように、煮込み料理はあまりしないで、各自で少なめの調味料(ドレッシング等)で味わっている。
食事で心が豊かになることができればと思い、家族が笑顔になれるような献立を考えている。
SNSで献立探し
麴を使った料理
旬の食材に関すること
できるだけ国産のものを食べるようにしている。メディアやSNSに過剰に反応しないようにしている。食品を捨てることや食べ残しにはものすごく抵抗があるため体には良くないかもしれないが、無理しても食べきるようにしている。
旬の食材をなるべく取り入れている
野菜摂取に関すること
朝食、昼食、夕食に必ず野菜（緑黄色）
感謝して食べることを、必ず野菜を摂ることを意識してます
毎日3食野菜を摂る
毎日の料理に色々な種類の野菜を使うように心がけている。
地産地消に関すること
コンビニ弁当は出来るだけ購入せずに、手作りするか、パン屋や道の駅を利用している。産地を見て、出来るだけ九州産を購入している。
出来合いを購入せず地産地消を心掛けて使うようにしている
できるだけ福津の野菜を使う
健康な食べ方に関すること
生活習慣病予防の為に料理に取り組んだりしています。
素材の味を大事にして減塩には心がけてます。
毎朝必ず朝食を食べる。土日はテレビを消してご飯をたべる
健康を意識した生活や食事の情報をTVや雑誌などで見かけたらすぐに家族と共有している。
出来るだけ品目を多くするように心がけている。
子どもへの食育
子どもと一緒に料理をする。
トマト狩り、とうもろこし狩り、じゃがいも掘り等地域の農業体験に親子で毎年参加しています。
ご飯を食べ残すのは勿体ないと子供に話をする・食べ物には多くの人や生き物が関わって食べさせてもらってる、関わる全ての物や人に日々の感謝を忘れないことを伝える・嫌いなものでも、出されたものは食べられるようになること、などを話したりしています。
家族3人揃っていただきますすること。美味しいねと子どもに問いかけながら笑顔で食べる。
普段は最低限自分達の食事を気をつける程度、孫が来た時はもっと意識して声掛けもしています
子どもの食事の際、いただきます、ごちそうさまを言う習慣をつけている

栽培に関すること
母が畑をしているので、自分で収穫し、食べるように促している。
農薬を使わず自分で育てた農産物を食べてもらう
自宅の庭で、有給野菜を作っている。虫も食べない綺麗な野菜は購入したくありません。
少しだけ自分で野菜を育てている。
環境に関すること
食品ロスを出さないよう心がけている
できる限り無農薬野菜を取り入れ、SPFの肉を買いに回っている。環境に配慮した生活（化学物質を使わない）を心がけ、環境に付加のかからない生活を模索している。私たちの健康は、すべての環境の循環によって成り立つもので、人間様にならない取り組みを模索している。
コンポストを使い、生ごみは捨てずに堆肥にしています。出る生ごみの量を知ること、買いすぎたり作りすぎたりすることが少なくなり、生ごみ以外のごみも少なくなりました。
食べれる分だけ買うようにしている
食品安全・衛生に関すること
嫌いなものでも災害時に何でも食べれるようになることを推進してます
商品購入の際には裏面の添加物を確認して、体に悪い物が入っている物は買わないようにしている

問 33. 「食育」の推進に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

18歳以上の市民では、32名（9.5%）から自由記載欄に「食育」の推進に関する意見が寄せられた。

表5 「食育」の推進に関する自由記載抜粋

子どもの食育に関して
小学校から中学校では食べ物に関する授業をしっかりして欲しい。たばこや酒の飲み過ぎの悪影響をしっかり伝えて欲しい。
子どもたちにも、自身で健康的な料理ができるように、働きかけて欲しいなと思います！
保育園や幼稚園にコンポストを導入するのはいかがですか？生ごみを捨てずに堆肥にすることで、循環について教える事ができ、食育や食ロスに家族で取り組める用になると思います。
幼保の時や小学校で食育を広め、中学生や若い世代、保護者にも食育が浸透して広まって行けば10年20年先には「当たり前」になるのではないかと期待したい
子供の内においしい物を食べる、食文化に触れる事はとても大事な事と考えます。経済的な背景から限界もあるかと思えます。小学生の子達に様々な経験を通じて食べ物に興味を持つきっかけを作ってほしいです。
子どもたちには、人間の体は食べたものでできていることを自覚して、自分で食べるものを考えられる人間になって欲しい
○子どもたち（小、中、高校生）の健康促進のための活動を増やしてほしい <ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんの大切さ（親子） ・栄養教室？添加物や栄養の偏り（親子） ・お菓子やジュースの有害さ（親子） ※例えば学校行事の中の交通安全教室などのように、毎年、専門の方が来られて親子に向けて話しをしてもらう機会を毎年強制的に取るようにする？ ○介護中の方（実際私も102歳の母の食事等の介護の日々ですか…）のための栄養学や食べやすくするための工夫などの援助や支援？訪問やネット送信、病院との連携

体験型食育に関して
食は人生を豊かにすると思います。サラリーマンをしており、平凡な日々の中では家族と一緒に夕食を食べることが唯一の楽しみであります。食に関して知識を持って正しく判断したいと思いますが、楽しく食事することが何よりだと思います。豊かな食生活を送れるよう学習と体験が両立して料理教室や農・漁業体験などの食育を推進してもらえると嬉しいです。
家庭農園をしてみたい。農薬を使わない野菜作り。
食環境整備に関して
スーパーなどにレシピを置いてもらえると手軽に読みます。
未就学児への食育をどのような形で実践すればよいのかを広報誌や子どもサロンでの講座、チラシ等で教えていただけると嬉しい。
日本はあまりにも添加物が多すぎる。無添加食品を増やすべきです。子供たちに添加物の知識を教えて欲しいです。
行政主導で野菜農家に不良品の野菜を継続的に提供して貰える仕組みを構築する。
フードバンク(支援側)を気軽に出来るといいと思う。受け付け窓口が多数あると良い。情報も欲しい。
その他のご意見
これを機会に食育にもう少し関心を持って積極的に参加したいと思います
市民の方々の体験談を紹介して参考にしていけば良いのではと思います。
感覚過敏・少食の人間もいるので、嫌いなものでもむりやり食べろとか、苦い・酸っぱい・辛いものを我慢してでも食べろとか、強要することは絶対にしないでほしいです。
「食育」自体が、よくわからない。

Ⅲ 幼児の保護者対象調査の結果

1. 対象者と子どもの属性

1-1 性別年齢構成

男 性	人数	%	女 性	人数	%
18～29 歳	0	0.0	18～29 歳	6	3.5
30～39 歳	22	71.0	30～39 歳	113	65.3
40～49 歳	6	19.4	40～49 歳	51	29.5
50～59 歳	3	9.7	50 歳以上	3	1.7
計	31	100.1	計	173	100

性別不明 2 名

1-2 子どもの年齢構成

年齢	人数	%
3 歳	47	22.8
4 歳	53	25.7
5 歳	52	25.2
6 歳	54	26.2
計	206	99.9

性別不明 7 名

1-3 子どもの就園状況

所属	人数	%
保育園	93	45.1
幼稚園	82	39.8
認定こども園	25	12.1
通っていない	6	2.9
その他	0	0.0
計	206	99.9

1-4 職業

職 業	人数	%
会社員・団体職員	66	32.0
公務員	31	15.0
自営業（農林漁業除く）	14	6.8
農林漁業	0	0.0
学生	0	0.0
パート・アルバイト	50	24.3
家事専業	41	19.9
無職	1	0.5
その他	3	1.5
計	206	100

1-5 居住地区

居住地区	人数	%
福間南小学校区	69	33.5
福間小学校区	68	33.0
神興小学校区	12	5.8
神興東小学校区	16	7.8
上西郷小学校区	6	2.9
津屋崎小学校区	34	16.5
勝浦小学校区	1	0.5
計	206	100

1-6 同居家族（対象児の他）※複数回答

同居者	人数	%
配偶者	194	94.2
親（三世代同居）	11	5.3
こども（未就学児）	81	39.3
こども（小・中学生）	95	46.1
こども（16 歳以上）	5	2.4

同居者	人数	%
いない	1	0.5
その他	1	0.5

2. 子どもの食生活について

問1. お子さんは、毎日朝食を食べますか。(SA)

子どもの朝食摂取状況について、「毎日食べる」と回答した人の割合は 95.1%であり、前回調査からは 0.2 ポイントの増加があった。

<単数回答>

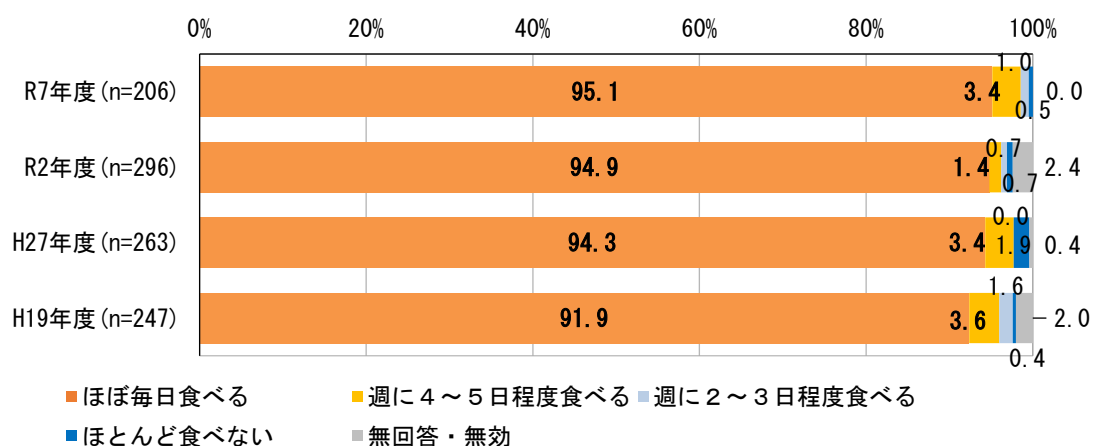


図38 子どもの朝食摂取頻度 結果推移

(問1で「毎日食べる」以外を選んだ人に)

問1-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(SA)

朝食を食べない理由として最も多かったのは「食欲がない」(4人)であった。「以前から食べる習慣がない」(2名)、「その他」(2名)は、嫌いなものが出されると食べなくなるという回答であった。

<単数回答>

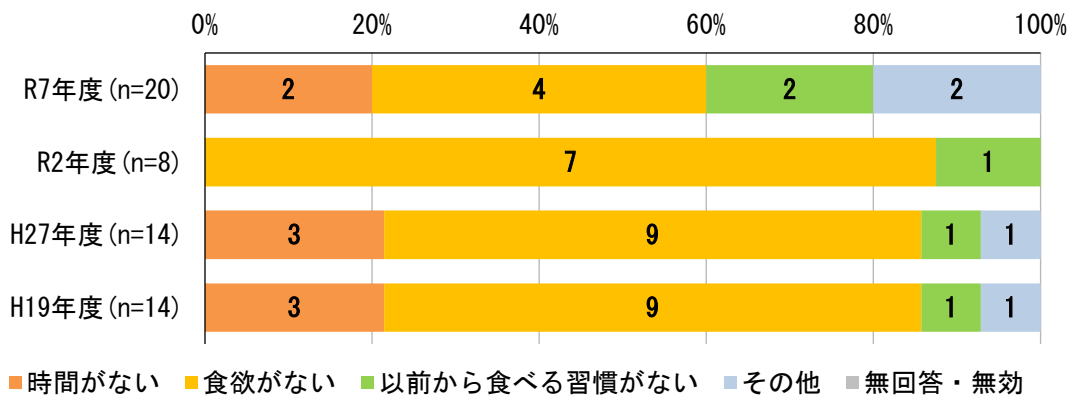


図 39 子どもが朝食を食べない理由 結果推移
(グラフ内の数値は人数)

問 2. お子さんはどのくらいの頻度で家族と一緒に食事をしますか。

朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数*は、一週間あたり 13.1 回（朝食 6.5 回、夕食 6.8 回の合計）であった。

*共食の回数は、「ほとんど毎日食べる」を週 7 回、「週に 4~5 日食べる」を 4.5 回、「週に 2~3 回食べる」を 2.5 回、「ほとんど食べない」を 1 回とし、それぞれ朝食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を出している。

■ 朝食 (SA)

朝食では家族と一緒に「ほぼ毎日食べる」と回答した人の割合は 87.9% であり、前回調査から 5.1 ポイント増加した。

<単数回答>

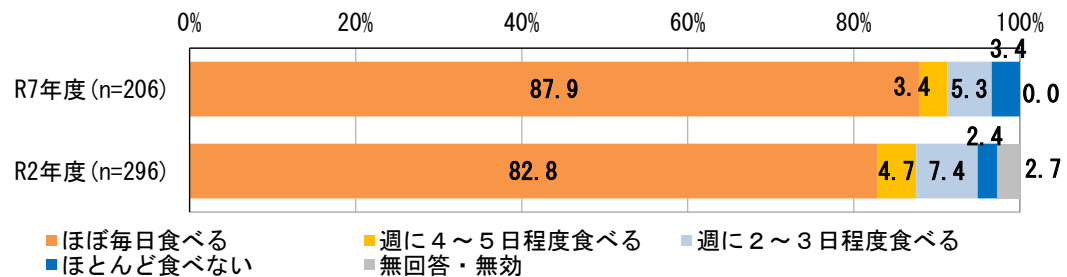


図 40 朝食と一緒に食べる家族 結果推移

■夕食（SA）

夕食では、家族と一緒に「ほぼ毎日食べる」と回答した人の割合は96.6%で、前回調査から3.4ポイント増加した。

<単数回答>

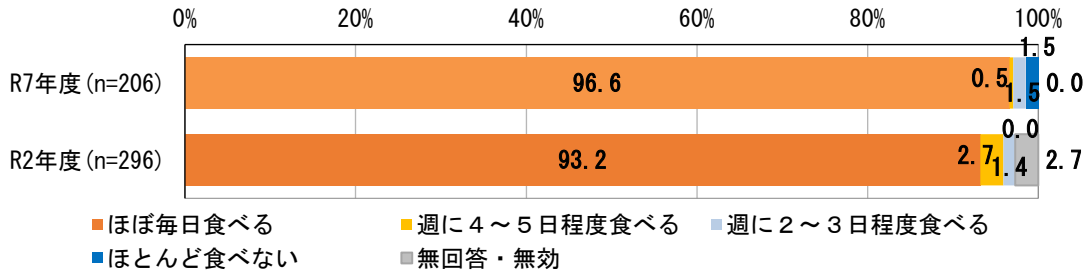


図 41 夕食を一緒に食べる家族 結果推移

問 3. お子さんの食事の時間は決めていますか。（SA）

子どもの食事時間については、「決めている」、「決めていないがだいたい同じ時間」と回答した人を合わせると 96.6%であり、前回調査時から変化はほとんどなかった。

<単数回答>

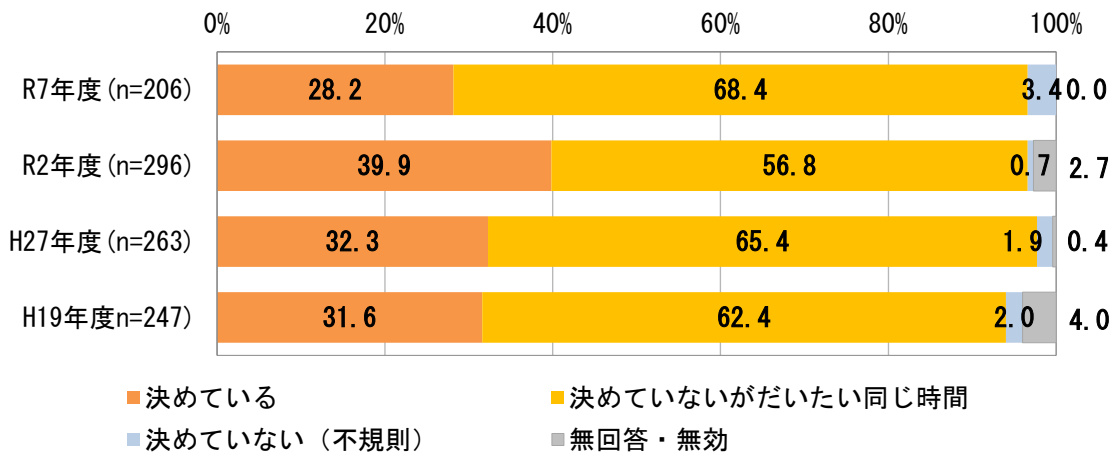


図 42 食事の時間はきめているか 結果推移

問 4. お子さんは、食事を楽しみにしていますか。(SA)

子どもが「食事を楽しみにしている」と回答した人の割合は 79.1%であり、前回調査から 0.7 ポイント増加したが、大きな変動はない。

<単数回答>

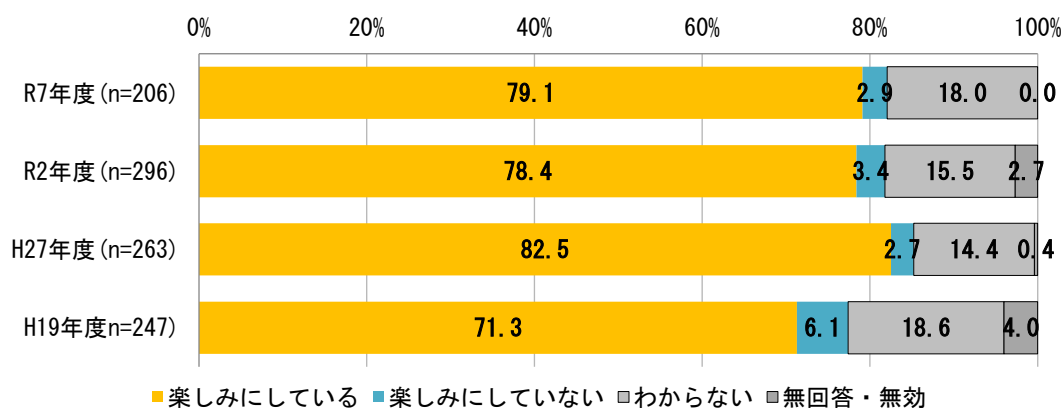


図 43 食事を楽しみにしているか 結果推移

問 5. お子さんは、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。(SA)

令和 7 年度において、食事の際の挨拶を「必ずしている」と回答した人の割合が前回調査に比べて 1.2%低下した。「必ずしている」と「よくしている」を合わせた割合は 82%で、前回調査の 84.5%よりも 2.5%ポイント減少した。

<単数回答>

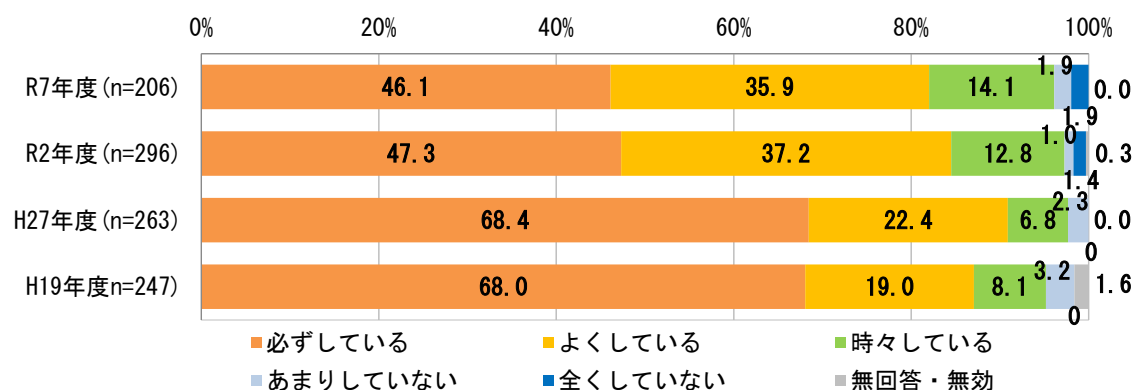


図 44 食事の際のあいさつ (幼児) 結果推移

問6 お子さんは、ゆっくりよくかんで食べていますか。(SA)

子どもが「ゆっくりよく噛んで食べている」「どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べている」と回答した人の割合は70.9%で、前回調査から3.1ポイント減少した。

<単数回答>

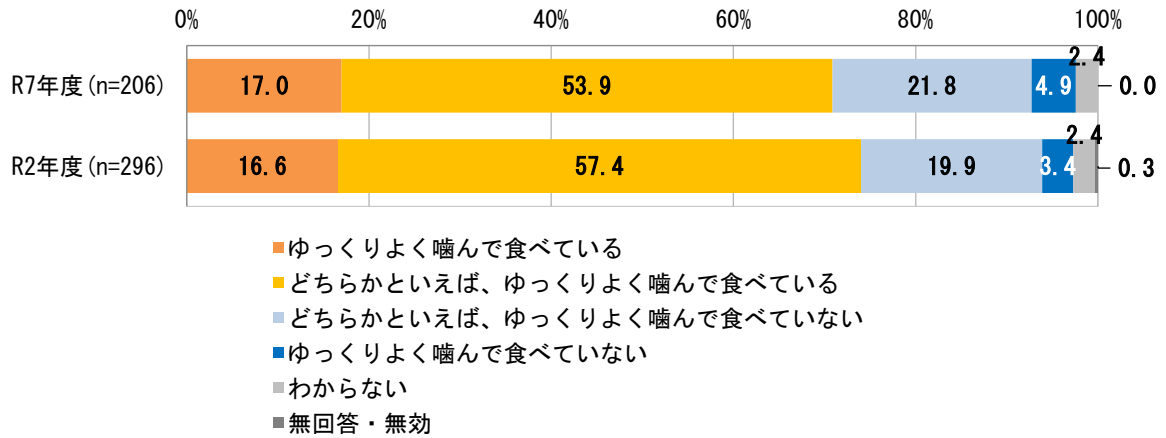


図45 ゆっくりよくかんで食べているか 結果推移

問7. お子さんの食生活に関して、何か心配ごとはありませんか。(MA)

子どもの食生活上の心配ごととして最も多かったのは「むら食いがある」(35.9%)、次いで「間食(おやつ)が多い」(33.5%)であった。

<複数回答>

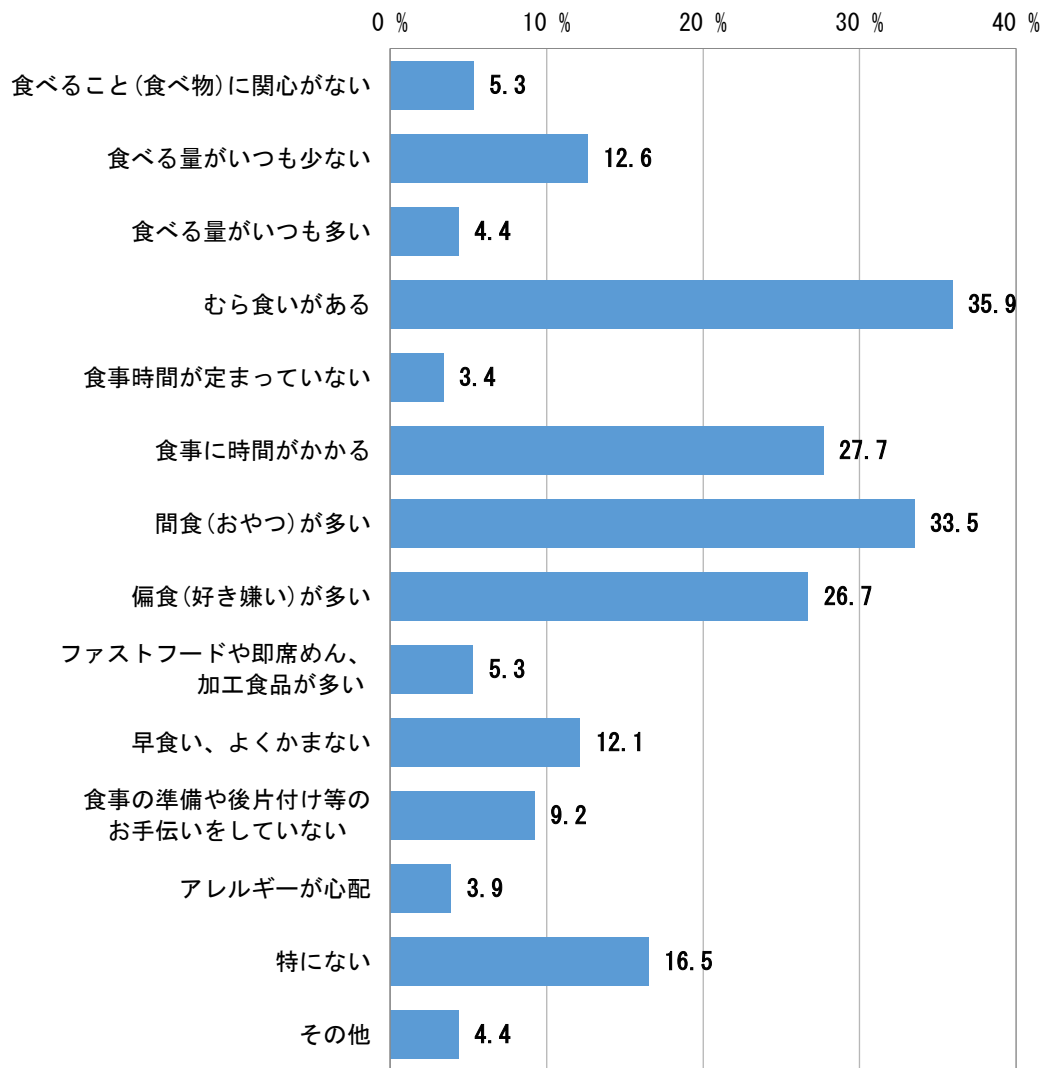


図46 子ども食生活上の心配ごと (n=206)

3. 子どもの生活について

問 8 お子さんは、平日の夜は何時頃に寝ることが多いですか。(SA)

平日夜の就寝時刻は、「午後 9 時台」と回答した人の割合は 48.1%と最も割合が高く、就寝時刻が午後 10 時以降である子どもは 19.4%で前回調査から 2.1 ポイント増加した。

<単数回答>

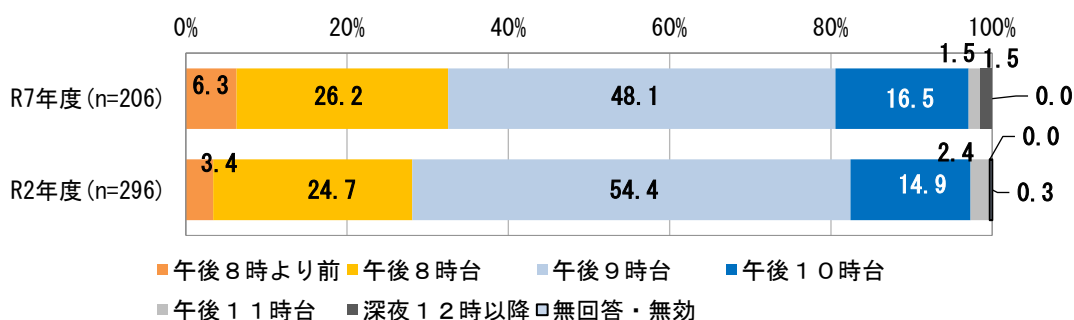


図 47 子どもの平日就寝時刻 結果推移

問 9 お子さんは、平日の朝はだいたい何時に起きますか。(SA)

平日朝の起床時刻は、「午前 6 時台」と回答した人の割合が 49.0%と最も高かった。起床時刻が午前 8 時以降である子どもは 4.4%であり、前回調査から 0.3 ポイント減少した。

<単数回答>

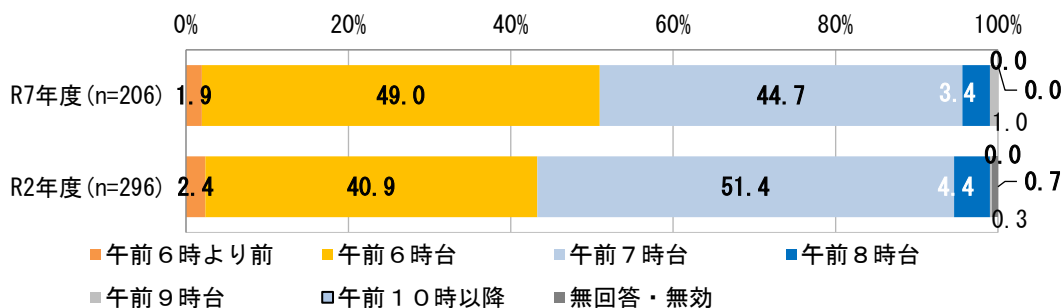


図 48 子どもの平日起床時刻 全国調査との比較

4. 「食育」について

問 10 あなた（保護者）は「食育」に関心がありますか。（SA）

食育に「関心がある」または「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は88.3%で、初回調査時から大きな変化は見られなかった。

<単数回答>

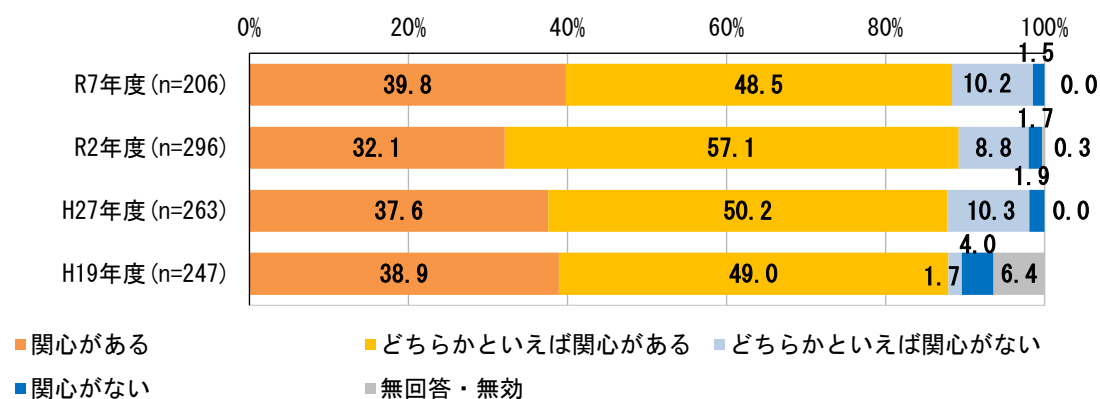


図 49 「食育」への関心度 結果推移

問 11 あなた（保護者）の家庭では、お子さんの食生活に関して、どのようなことを教えていますか。（MA）

子どもに教えている事として最も多くの人を選択した項目は「食べるときのあいさつ」(71.4%)、「食べるときの姿勢」(71.4%)、「残さず食べること」(68.9%)であった。経年推移については、いずれも減少がみられる。

<複数回答>

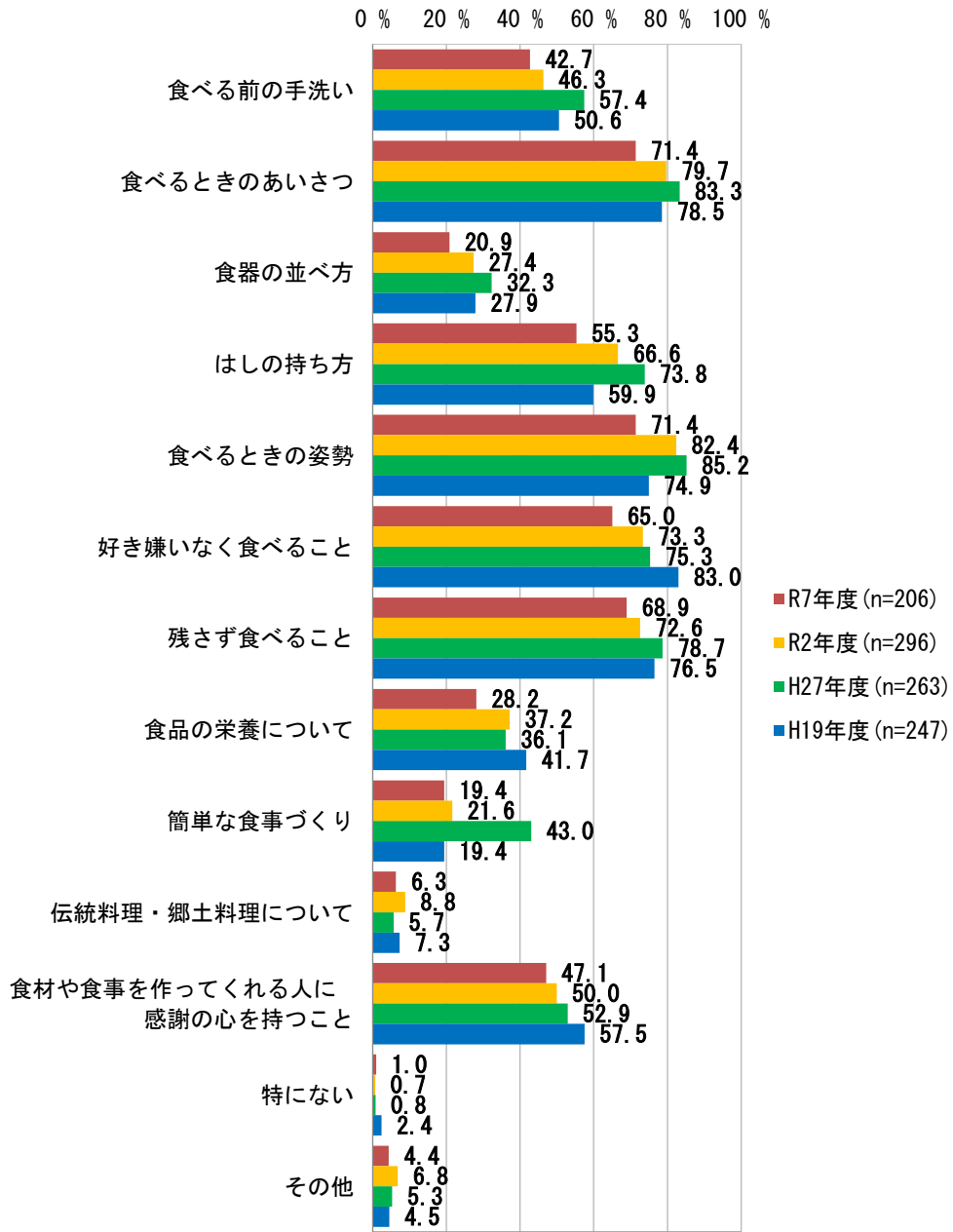


図 50 食生活に関して子どもに教えていること 結果推移

問 12 あなた（保護者）が、家庭以外での「食育」で力を入れて欲しいと思うことは何ですか。（3つまで選択）（3MA）

最も多くの人を選択した項目は「食事のマナー」（54.4%）、「バランスの良い食事の仕方」（51.0%）「自然の恵みや作り手への感謝の気持ち」（48.1%）である。前回調査と比べて、「農業や漁業体験」は2.8ポイント増加していた。

<複数回答>

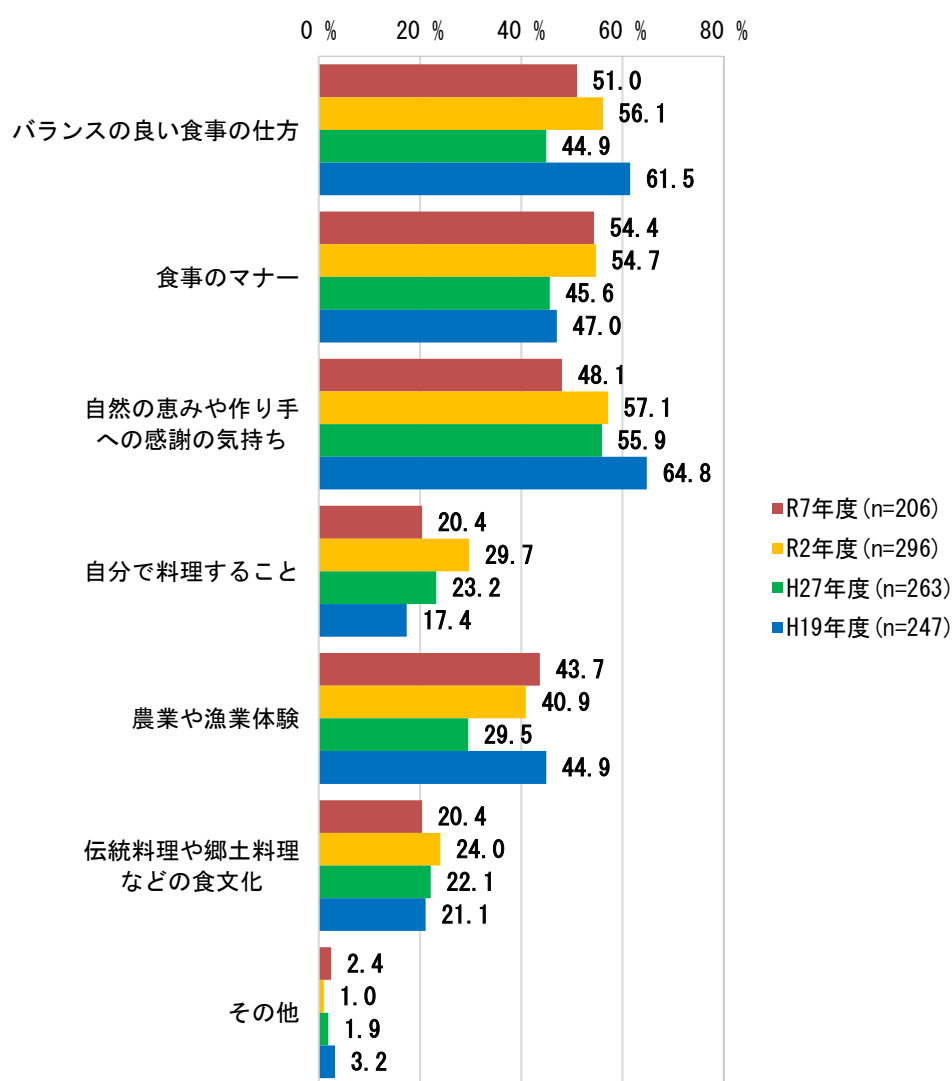


図 51 家庭以外での「食育」として力を入れて欲しいこと 結果推移

問 13 あなた（保護者）は、伝統料理や郷土料理について知っていますか。
（SA）

伝統料理や郷土料理の認知について「はい」と回答した人の割合は80.6%で、前回調査からほとんど変化しなかった。

<単数回答>

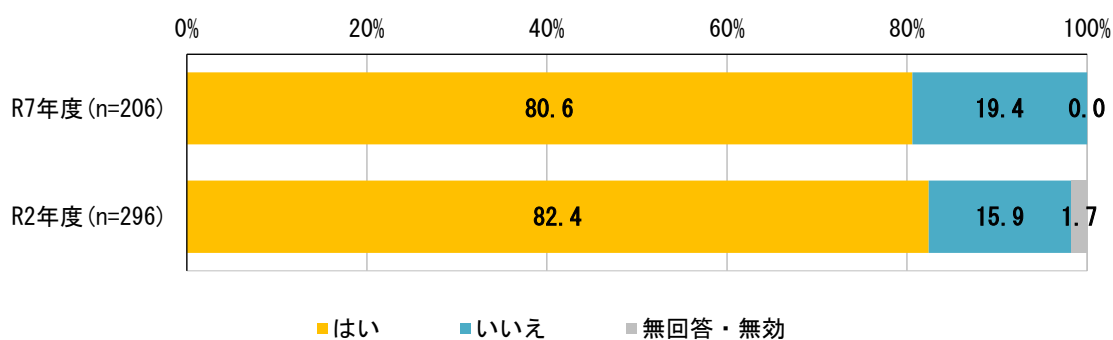


図 52 伝統料理や郷土料理の認知度 結果推移

5. 保護者の食生活について

問 14 あなた（保護者）は、朝食を食べていますか。（SA）

保護者のうち「朝食をほぼ毎日」食べている人の割合は81.6%で、週に1日以上欠食する者は、18.5%であった。

<単数回答>

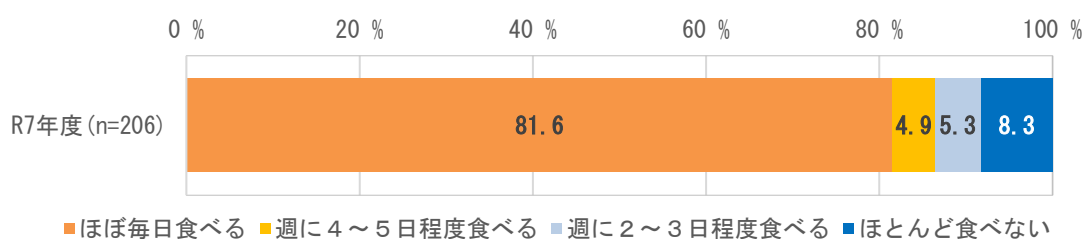


図 53 朝食摂取状況（保護者）

（問 14 で「ほぼ毎日食べる」以外を選んだ人に）

問 14-1 あなたが（保護者）が朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。（SA）

朝食を食べない理由として最も多かったのは「時間がない」（19名）であった。次いで「以前から食べる習慣がない」（6名）、「食欲がない」（5名）が理由として多かった。

<単数回答>

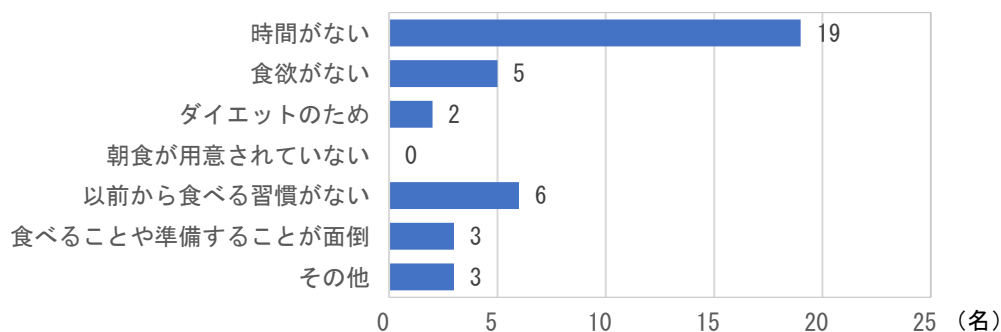


図 54 朝食を欠食する理由（保護者）

問 15 あなた（保護者）は、食事が楽しいですか。（SA）

保護者のうち「食事が楽しい」人の割合は 85.0%で、「楽しくない」は 4%であった。

<単数回答>

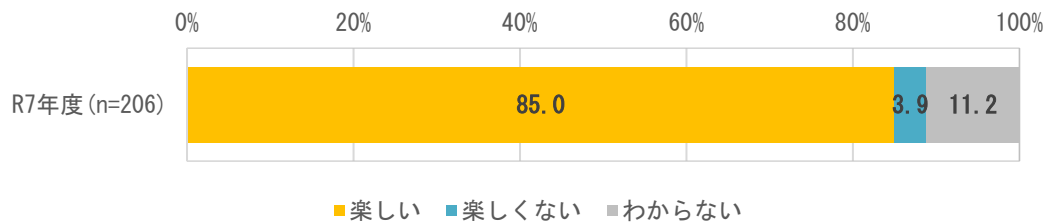


図 55 食事が楽しいか（保護者）

問 16 あなた（保護者）は、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。（SA）

保護者のうち、食事のあいさつを「必ずしている」「よくしている」人の割合は 83.9%で、「あまりしていない」「全くしていない」は 6.4%であった。

<単数回答>

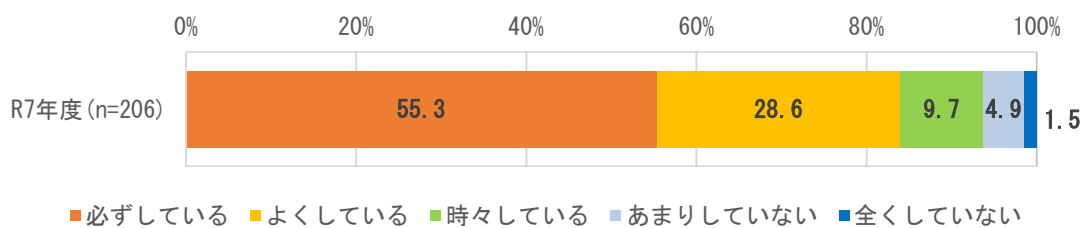


図 56 食事の挨拶状況（保護者）

問 17 あなた（保護者）は、ゆっくりよくかんで食べていますか。（SA）

「ゆっくりよくかんで食べている」「どちらかといえば、よくかんで食べている」人の割合は48.6%であった。

<単数回答>

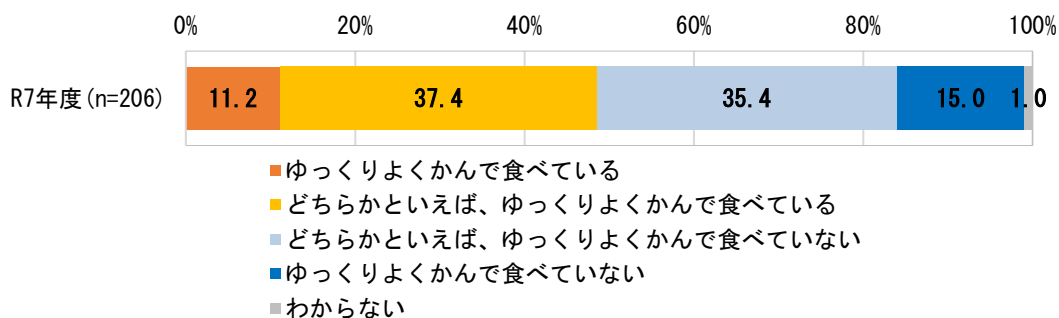


図 57 ゆっくりよくかんでいるか（保護者）

問 18 あなた（保護者）は、主食（ご飯・パン・めん等）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品等を使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻等を使った小鉢、小皿の料理）を3つそろえて食べることが1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。（SA）

主食・主菜・副菜を3つそろえて食べていることが1日2回以上ある日が週に「ほぼ毎日」である人は36.4%であった。

<単数回答>

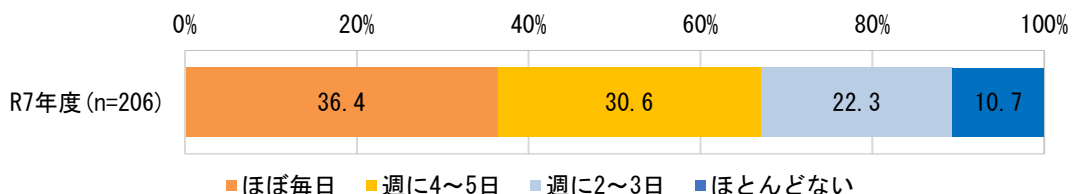


図 58 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度（保護者）

問 19 あなた（保護者）は、毎日野菜を何皿（品）程度食べていますか。（SA）

野菜を毎日「5皿以上」食べている人は3.9%で、「3～4皿」は29.6%であった。

<単数回答>

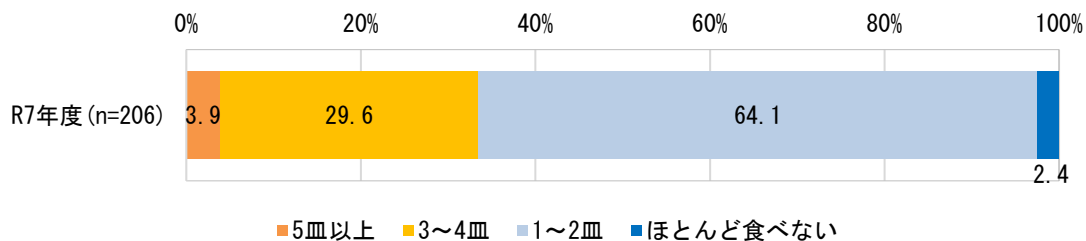


図 59 野菜料理の摂取頻度（保護者）

問 20 あなた（保護者）は、生活習慣病予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持に気をつけた食生活を実践していますか。（SA）

適正体重の維持に気をつけた食生活の実践について、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人は、51.9%であった。

<単数回答>

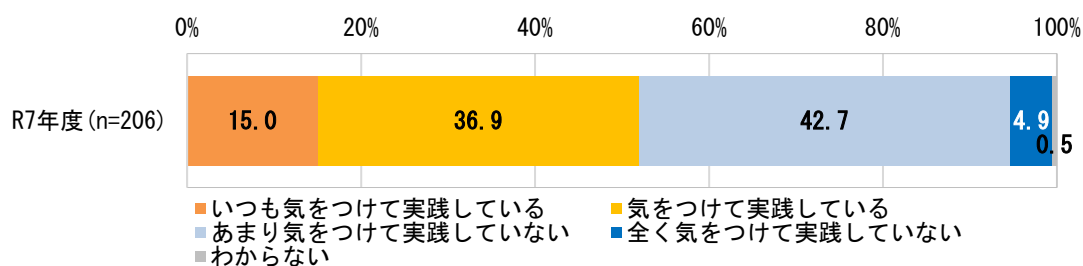


図 60 適正体重の維持に気をつけた食生活の実践度（保護者）

問 21 あなた（保護者）は、ふだんから減塩に気をつけた食生活を実践していますか。（SA）

減塩に気をつけた食生活の実践について、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人は、41.8%であった。

<単数回答>

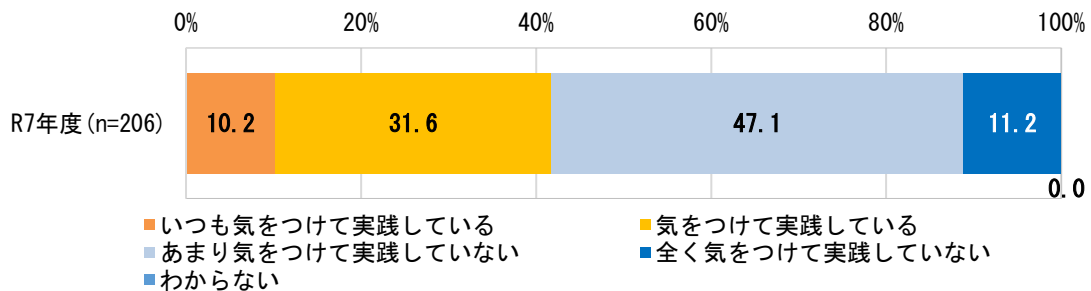


図 61 減塩に気をつけた食生活の実践度（保護者）

（問 21 で「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」を選んだ人に）

問 21-1 具体的にどのようなことに気をつけていますか。（MA）

減塩に関する具体的な取り組みは、「野菜をしっかりとるようにしている」が最も多く（62.8%）、「だしを利用したり、調味料を少な目に使う」（57.0%）、「味の濃い加工食品、塩鮭、練り製品、肉加工品（ハム、ソーセージ等）を使い過ぎない」「めん類の汁はできるだけ残している」、「具だくさんの汁物にしている」（55.8%）で、半数以上の保護者が取り組んでいた。

<複数回答>

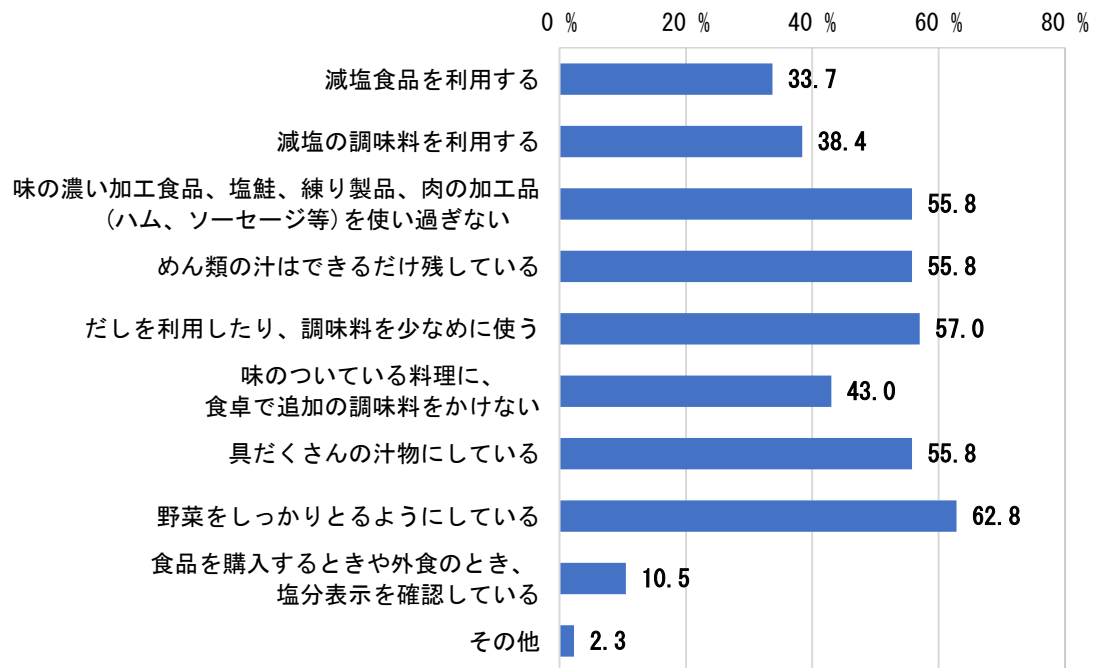


図 62 減塩に取り組んでいる内容（保護者）（n=86）

問 22 あなた（保護者）の世帯では、過去 1 年間に、家族が必要とする食料（菓子等の嗜好品は除く）を経済的な理由で購入できないことがありましたか。
 (SA)

経済的な理由で食料が購入できないことが「あった」と回答した人の割合は 17.0% だった。

<単数回答>

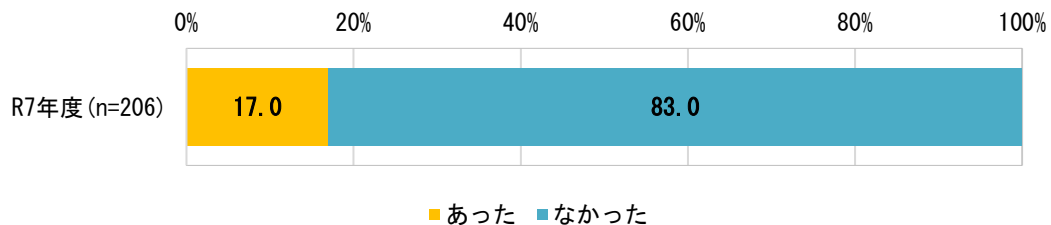


図 63 過去 1 年間に経済的理由で食料を購入できなかった経験（保護者）

問 23. あなた（保護者）は、フードバンクがあれば利用したいと思いますか。
（SA）

フードバンクを「利用したい」と回答した人の割合は44.2%で、利用に関して「わからない」は39.3%であった。

<単数回答>

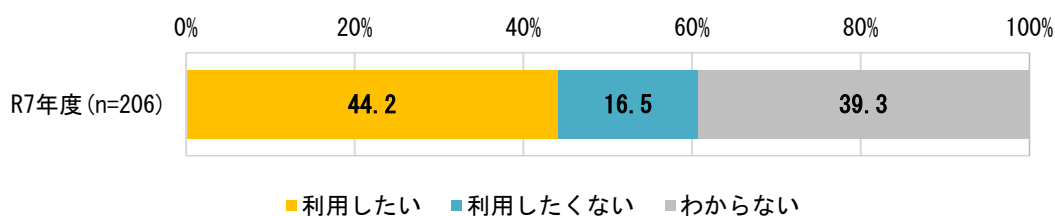


図 64 フードバンクの利用意思（保護者）

問 24. あなた（保護者）は、子ども食堂のような無料または低価格で食事をとることができる場所や地域での食事回答の機会があれば利用したいと思いますか。（SA）

子ども食堂のような無料や低価格の食事の場を「利用したい」と回答した人の割合は44.7%で、利用に関して「わからない」は38.4%であった。。

<単数回答>

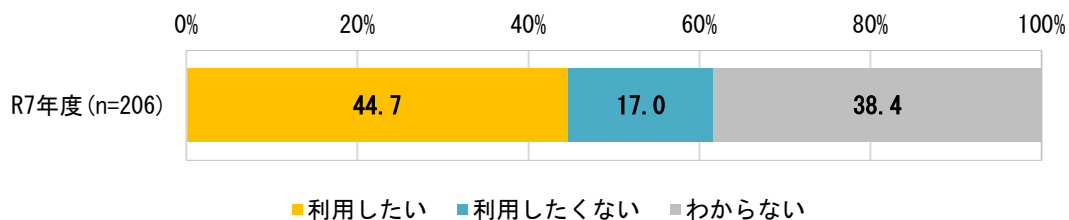


図 65 子ども食堂等の無料・低価格な食事の場の利用意思（保護者）

6. その他

※問 25 年齢、問 26 就園状況、問 27 保護者の性別、問 28 保護者の年齢、問 29 住所（小学校校区）、問 30 家族構成、問 31 職業は、1. 対象者の属性に結果を掲載した。

問 32. あなた（保護者）の暮らし向きはいかがですか。（SA）

回答者の暮らし向きは、「ゆとりがある」「ややゆとりがある」と回答した人の割合は、36.9%であった。「ゆとりがない」「まったくゆとりがない」は 34.0%であった。

<単数回答>

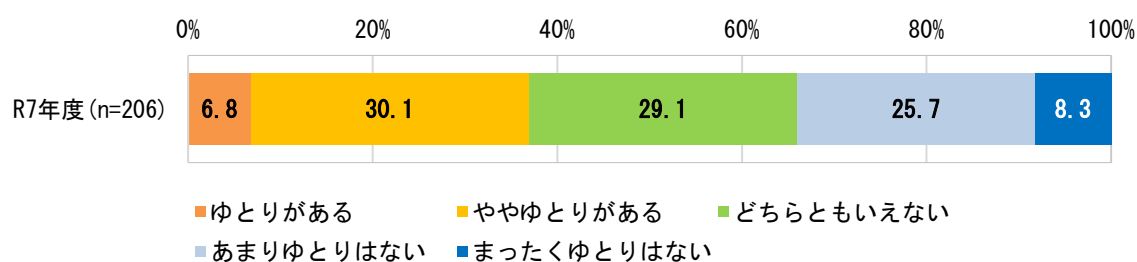


図 66 暮らし向き（保護者）

問 33. あなた（保護者）は日々の生活に時間的なゆとりを感じますか。（SA）

回答者の時間的なゆとりは、「時間的なゆとりを感じる」「やや時間的なゆとりを感じる」と回答した人の割合は、24.7%であった。「あまり時間的なゆとりを感じない」「まったく時間的なゆとりを感じない」は56.3%であった。

<単数回答>

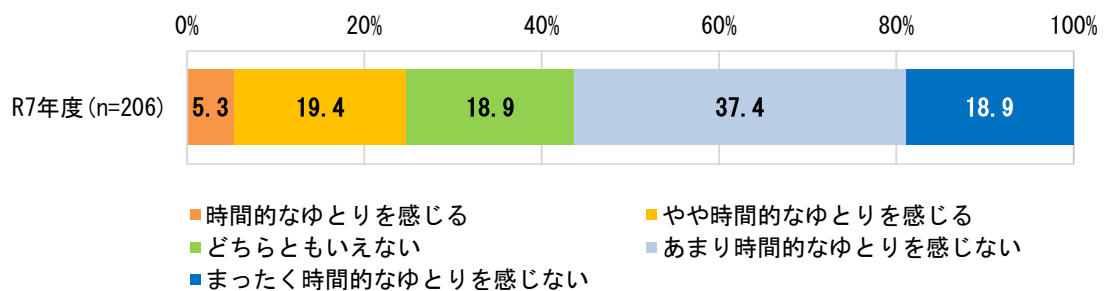


図 67 時間的ゆとり（保護者）

問 34. あなた（保護者）は自分の健康状態について、どのようにお感じですか。（SA）

回答者の健康状態は、「とても良い」「まあ良い」と回答した人の割合は、57.8%であった。「あまり良くない」「良くない」は14.0%であった。

<単数回答>

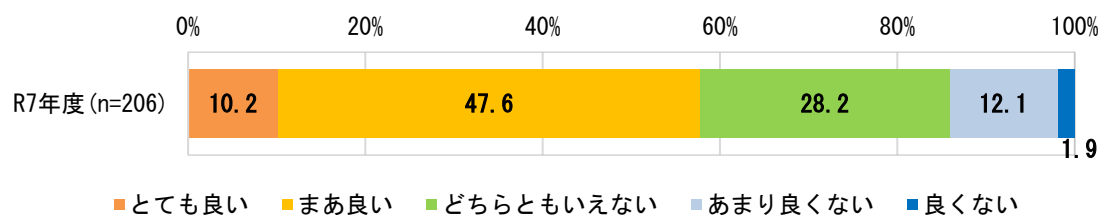


図 68 健康状態（保護者）

問 35. あなた（保護者）ご自身や家庭の日々の生活の中で食育に関することで行っていることがございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

53 名（25.7%）から自由記載欄に食育の実践内容が寄せられた。

表 6 「食育」の実践に関する自由記載抜粋

料理づくりに関すること
一緒に料理をする
一緒に包丁で野菜を切る(時々)、食器の準備と片付け
一緒にキッチンに立ち、ミニトマトのヘタを取ったり、枝豆を出したりしながら、自分で食べるまでの流れをやったりします。
魚を丸の状態から料理し、命に感謝することや美味しさを教えている
子供の意思で野菜の皮剥きや食器洗いなどを手伝ってもらっている
美味しい喜んでもらえる食事作り頑張ります。
栽培に関すること
家庭菜園(子がしたいと言い出したので)、食事の際の挨拶、食べ物にまつわるクイズ、感謝の気持ち、など
プランターで野菜を育てて食べる
庭の畑で野菜をつくる、子どもたちに水やり、収穫など一部分だけでもお願いします。
苦手な野菜を育てて収穫させる
家族みんなでトマトの苗を植えて育てている
野菜と一緒に育てる、捌く前に魚を観察する
野菜がどうやって出来るか話したり、作り方を教えたりしてます。
生ゴミコンポスト、プランターで稲栽培
食べ方に関すること
外食は極力せず、家で作って食べる。苦手なものも、一口は挑戦させる。味覚の成長を褒める。採って食べる楽しさを知る。
いただきますとごちそうさまでしたを言う事。
テレビやタブレットを見ないで食べる
食物の栄養が自分の体にどうプラスに働くかをしっかり説明している。苦手なものでも一口は食べる事。調理法を工夫して食べられたら誉めること。
最後まで食べること。嫌いと言ったものを分けて考えること。
孤食をさせない
好き嫌いをなく食べるように推進している
ご飯を美味しく食べるため、できるだけ身体を動かす。
外食に頼りすぎない。
食べ残しはしない！
家族で話をしながら楽しく食事をする
食事のマナーについては、本人が楽しく食べることはもちろんだけど、一緒に食べている人が不快にならないように食べなさいと伝えています。
また、出されたものは苦手でも、一口食べるようにしています。
苦手は仕方ないですが、嫌いにならないように味付けや量を気をつけています。
食材選びに関すること
お惣菜 レトルト などの作られているものや、予め味が作られているものは出来る限り利用しません。また選ぶ時は国産であること 食費添加物の表示を確認して選びます
添加物をできるだけ避けるよう、(商品の裏を見てカタカナが多いものは避ける)教えている。
無添加のものを選ぶようにしている
人工調味料(味の素など)を使ったとしてもおいしいものを食べてほしいと思う

無添加やオーガニックを意識している
天然素材を使う[調味料などは特に]。地産地消。作物を作ってくれる人に感謝すること。
できるだけ福津の野菜を使う
初物は必ず子どもにあたえ、珍しい食材(ラディッシュやおかワカメなど)を積極的に食卓にあげるようにしている
食品・栄養の摂り方に関すること
極力調味料は使わない、食品購入時は成分表を見ている、簡単なお菓子は買わない、バランス良い食事
小麦粉、植物油、乳製品、甘い物を可能なら限り控えるようにしている。
お菓子で砂糖を摂取するので、料理は甘酒で砂糖の代用をしている。
なるべくいろんな野菜を使う。
食材に含まれる栄養を教える

問 36. 「食育」の推進に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

18 歳以上の市民では、32 名（9.5%）から自由記載欄に「食育」の推進に関する意見が寄せられた。

表 7 「食育」の推進に関する自由記載抜粋

学校給食・教育に関すること
学校の給食を充実させてほしい。
質素な給食が話題になっていましたが、1日でもそんな給食の日があって欲しくないと思います。
給食の食材をできるだけ地産地消にしてほしい
市長が前におっしゃっていた給食のオーガニック化、ぜひ進めてほしいです！ また、福岡南小は児童の人数過多で、給食の内容がどうしても限られてしまうので、何か改善できる方法があったらいいなと思います。
学校給食のオーガニック化と無償化で安心してしっかり食べられる環境を作ってほしい。また、農家さんへ有機農法や無農薬の支援をしてほしい。
無農薬など体に良いものを食べさせたいが、そういった食材は高くても安い食材ばかりになる。学校や地域で食育するならば、やはり添加物の影響など考えた学習がいいと思う。
ご飯作ることがしんどいので月1回土日祝とかに小学校で給食とか提供してもらって食べたいです。親は楽ができるし、小学校がどんどこかわかっておもしろそう。
小学校、中学校での給食が子供達の体をしっかり作り、おいしく、量も十分なものになりますように。福津市の給食って凄い！って全国でも言われるようなものになってほしいです。
小中学校の給食で栄養や種類の充実
体験型食育に関すること
6ヶ月検診の時に離乳食教室でだしの味を実際に試食してうまみについて教えていただいたことがすごくよかったと感じたのでこれからも続けていただきたいなと思いました。
芋掘りやいちご狩りはよく見かけるが、田植えや収穫などの米に関することを経験させ、米の大事さを伝えたい。
とても大切なことだと思います。 農業体験などにも参加したいのですが、なかなか都合がつかず参加できていません。いつの日か参加したいので、郷育カレッジや郷づくりのイベントでも続けてほしいです。
味噌作りなどを子どもとできる機会があれば是非利用したいです。
子供が食事を楽しめると思うキッカケになるイベントがあったら是非参加したいです。

毎日必要な栄養をどれだけとったら良いのか気になります。また、料理を学びたいです。
野菜の可食部について子供と参加できる企画
子どもと一緒に料理ができるイベントが欲しい
子供達は料理を試みる機会が多いと良いと思う。特に魚料理はハードルが高いため、触れる機会があると良いです。
問題に感じること・要望
大人より子供が心配
物価高なのでなにもできません。
食育も何もこの物価高で、それどころじゃないです。
こども食堂作って下さい。昼も夜も働いていて、疲弊して作る余裕や買う時間もないです。食事がカップラーメンの時もあります。経済的にも共働きですが給料も上がらず困窮しています。野菜はもやしと小松菜しか買えません。あとは豆腐です。お肉は牛肉は児童手当がもらえる月しか買えません。子供がご飯にのりも付けてと言うのですが、高くて買えなくなりました。子供には高くて買えない。といつも言っています。
食育も含め、これだけ福津市には子育て世帯が増えてきているのですから、もっと手厚い支援をお願いしたいです。 子どもの人数に応じた支援をお願いしたいです。
たまに極端な食思考(動物性タンパク質完全除去、過度な自然嗜好)を正義のように語る団体がいるので、市はきちんと精査するようにしてほしいです。
食育=食べてはいけないものや栄養素の表などのイメージです。昔に比べて良くも悪くも加工した商品は増え、ゆったり献立や料理なんてできないほど圧倒的に時間は減っています。添加物、糖分、塩分などから始まっても「分かっているけど」と興味を持たない。恥ずかしながら、最近、たった3回の食事で自分の体に何をチャージしてあげれば元気に動くのか。と思い、不要なもの、必要なものについてイメージできるようになりました。 選び方の視点、考え方のコツをもう少し反映し、生活目線の食育をお願いします。食育という言葉自体、もっと柔らかく未来にいいことがあるようなワクワクできる教育分野になったらいいなと思います。

IV 小学生・中学生・高校生対象調査の結果

1. 対象者の属性

1-1 性別構成（小学生）

性別	人数	%
男子	339	47.9
女子	350	49.4
答えたくない	19	2.7
計	708	100.0

1-2 性別構成（中学生）

性別	人数	%
男子	343	51.3
女子	315	47.1
答えたくない	11	1.6
計	669	100.0

1-3 性別構成（高校生）

性別	人数	%
男子	282	56.1
女子	217	43.1
答えたくない	4	0.8
計	503	100.0

1-4 通学校（小学生）

学校	人数	%
福間南小学校	185	26.1
福間小学校	209	29.5
神興小学校	55	7.8
神興東小学校	125	17.7
上西郷小学校	16	2.3
津屋崎小学校	111	15.7
勝浦小学校	7	1.0
計	708	100.0

1-5 通学校（中学生）

中学校	人数	%
津屋崎中学校	143	21.4
福間中学校	404	60.4
福間東中学校	122	18.2
計	669	100.0

1-6 通学校（高校生）

高等学校	人数	%
光陵高校	374	74.4
水産高校	129	25.6
計	503	100.0

1-7 居住地区（高校生）

居住地区	人数	%
福津市内	101	20.1
福津市外	402	79.9
計	503	100.0

2. 食生活について

問1. あなたは、朝ごはんを食べていますか。(SA)

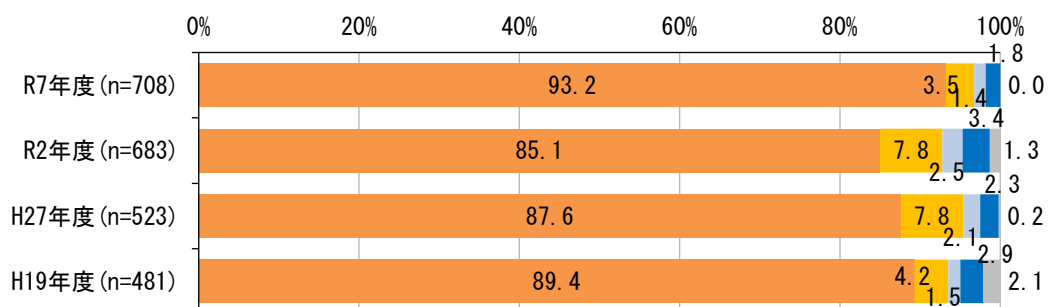
(第2次福津市食育推進計画 指標7)

第2次食育推進基本計画2「健康な暮らしを実感する」の基本方針(2)「規則正しい生活リズムをつくる」の指標の一つである。小学生では「毎日食べる」と回答した人の割合は93.2%で前回調査から8.1ポイントの増加、中学生では86.8%で前回調査からは4.6ポイントの増加、高校生では73.6%で1.0ポイントの減少となった。

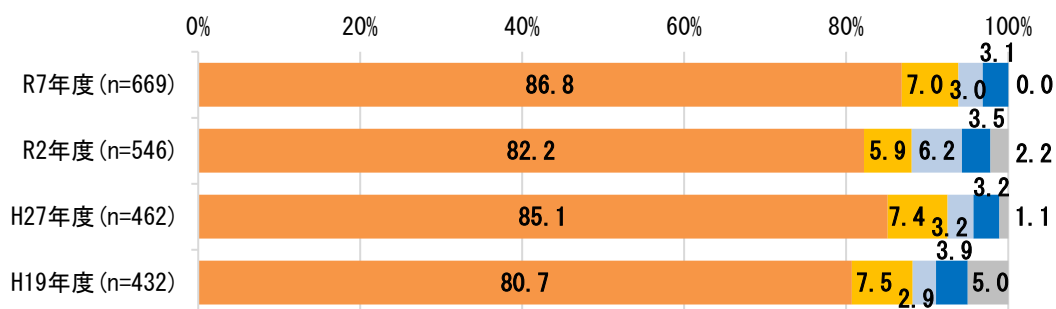
食育推進指標7

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)	
7	朝食を毎日食べる子どもの割合	小学生	89.4%	87.6%	85.1%	93.2%	100%
		中学生	80.7%	85.1%	82.2%	86.8%	100%

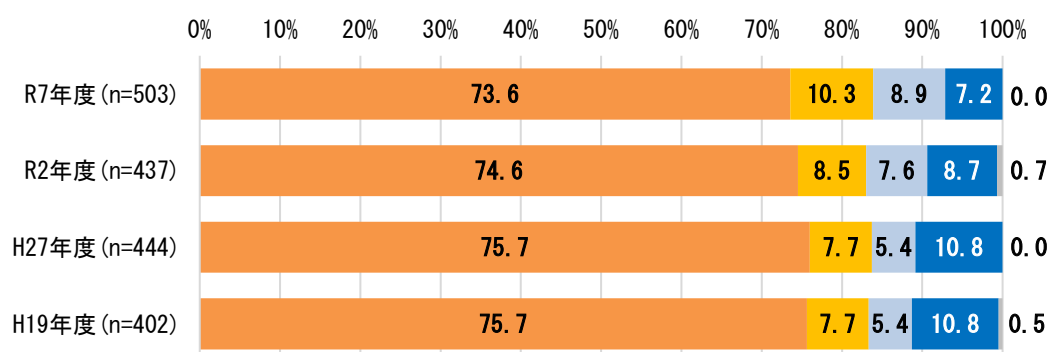
<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生



■ ほぼ毎日食べる
 ■ 週に4~5日程度食べる
 ■ 週に2~3日程度食べる
■ ほとんど食べない
 ■ 無回答・無効

図 69 朝食摂取状況 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

(問1で「毎日食べる」以外を選んだ人に)

問1-1 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(SA)

朝ごはんを食べない理由として、「時間がない」が最も多く、小学生で39.6%、中学生で58.0%、高校生で60.2%であり、いずれも初回調査以降で最も高かった。

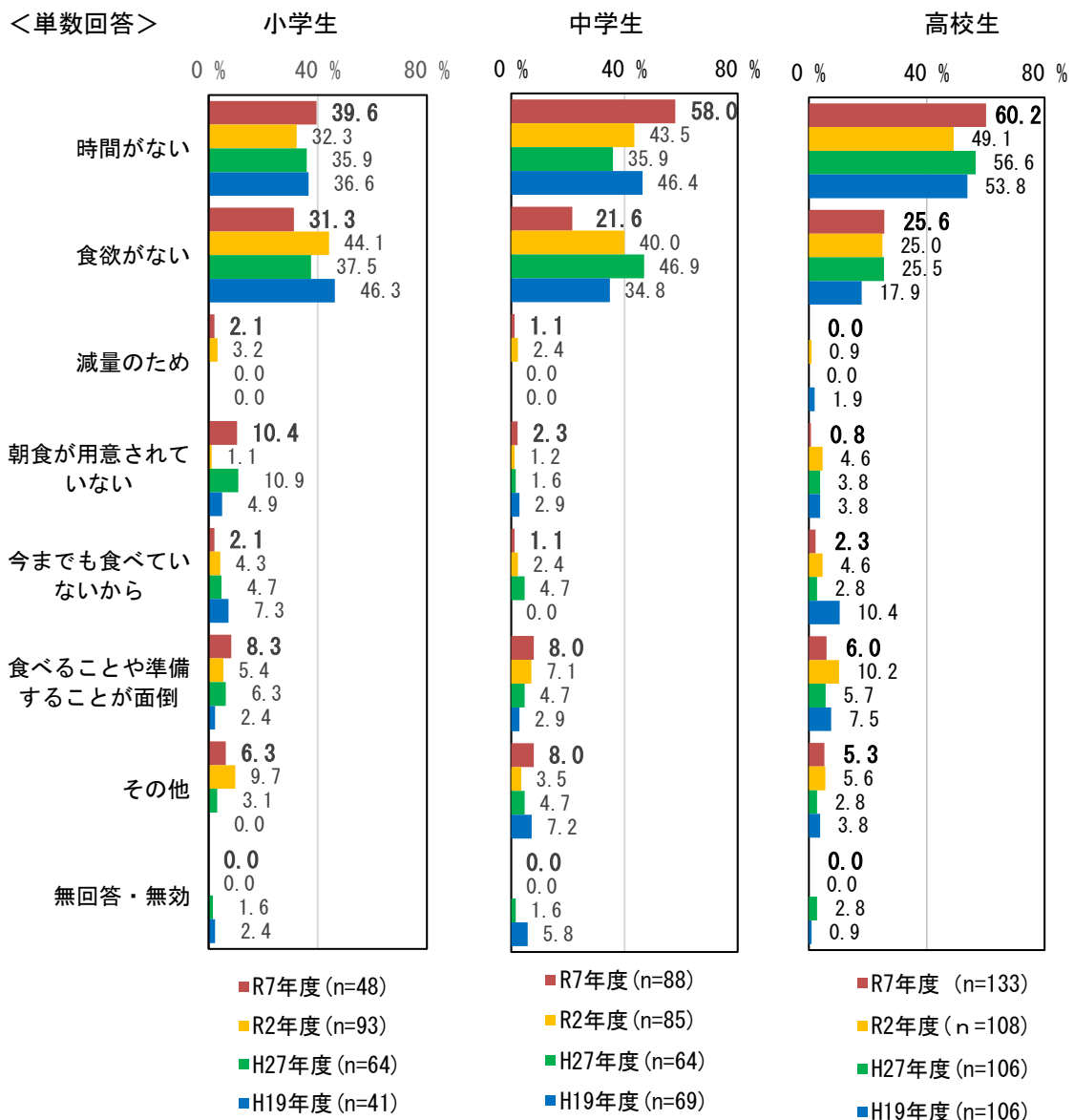


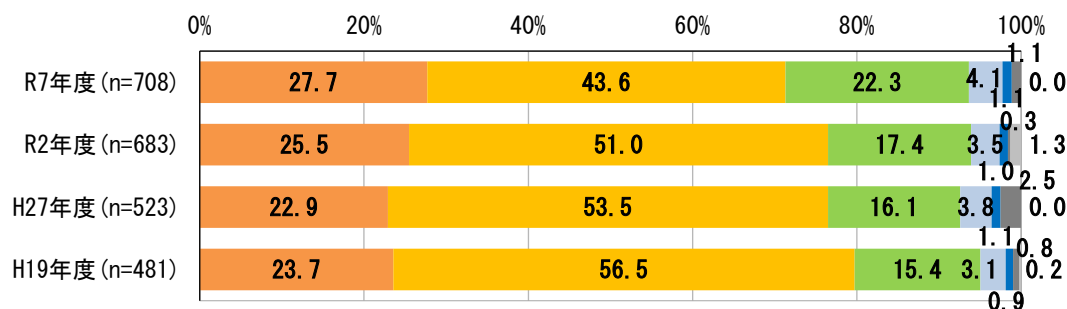
図 70 朝食を摂らない理由 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

問 2. あなたは、夕食を何時ごろ食べますか。(SA)

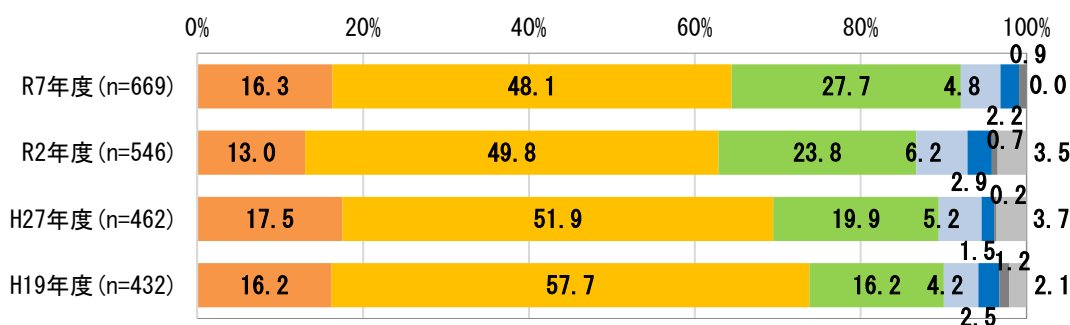
夕食が食べられている時間について、小学生、中学生は「午後 7 時から 8 時」と回答した人の割合が最も多く、43.6%、48.1%であった。高校生は、「午後 8 時から 9 時」と回答した人が最も多く 39.4%であった。全ての対象で「午後 8 時から 9 時」と回答した人の割合は前回調査時よりも多く、全体的に夕食の時間が遅くなっていた。

<単数回答>

【小学生】



【中学生】



【高校生】

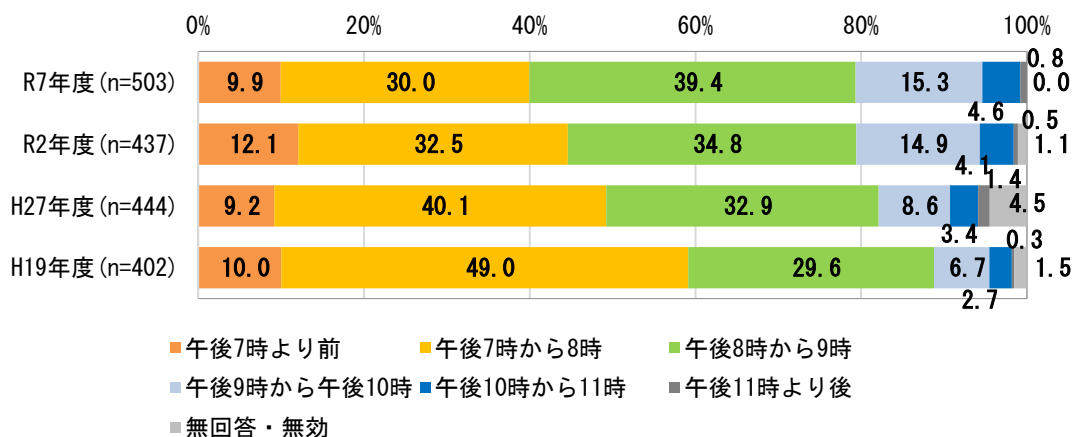


図 71 夕食の時間 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

問3. あなたは、1週間に何日くらい家族と一緒に食事をしますか。(SA)

朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の一週間あたりの回数*は、小学生では12.8回（朝食6.0回、6.8夕食回の合計）で前回調査の10.4回より2.4回増え、中学生では11.7回（朝食5.2回、夕食6.5回の合計）で前回調査の10.5回より1.2回増え、高校生で10.3回（朝食4.1回、夕食6.2回の合計）で前回調査の8.9回より1.4回増えた。

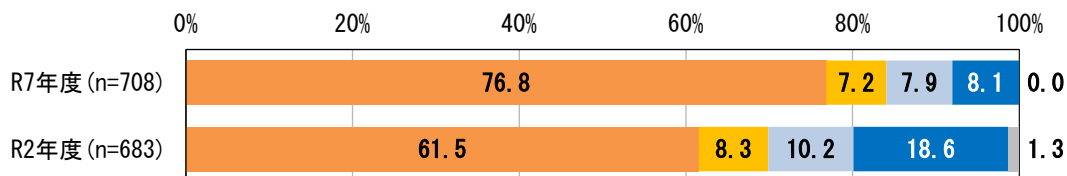
*共食の回数は、「ほとんど毎日食べる」を週7回、「週に4～5日食べる」を4.5回、「週に2～3回食べる」を2.5回、「週に1日程度食べる」を1回とし、それぞれ朝食・夕食ごとに、該当人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を出している。

■ 朝食 (SA)

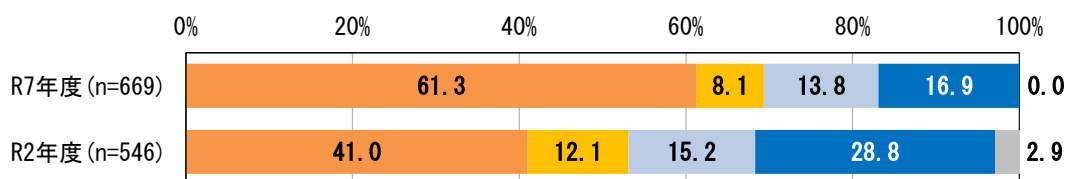
家族と一緒に食べる食事について、朝食では「ほぼ毎日食べる」と回答した人の割合は小学生76.8%、中学生61.3%、高校生39.4%であり、前回調査から増加した。

<単数回答>

【小学生】



【中学生】



【高校生】

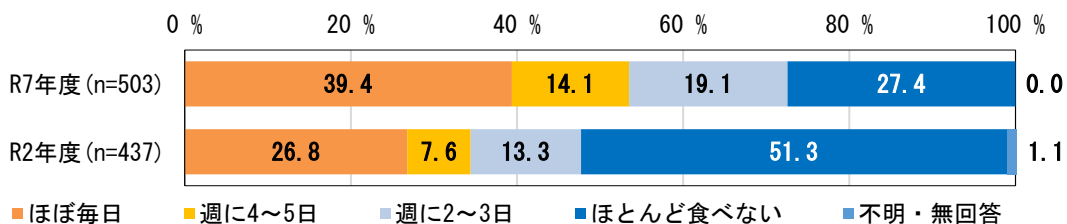


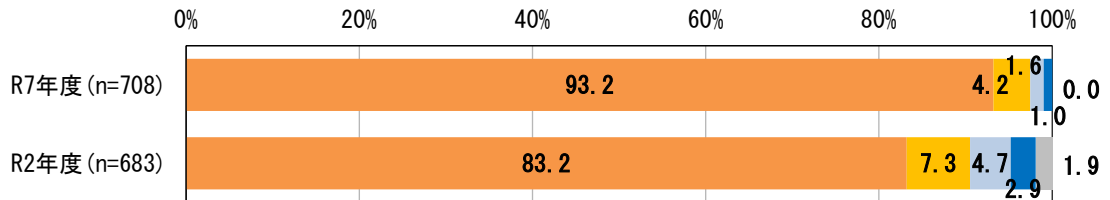
図72 朝食を家族と一緒に食べる頻度 (小学生・中学生・高校生)

■夕食（SA）

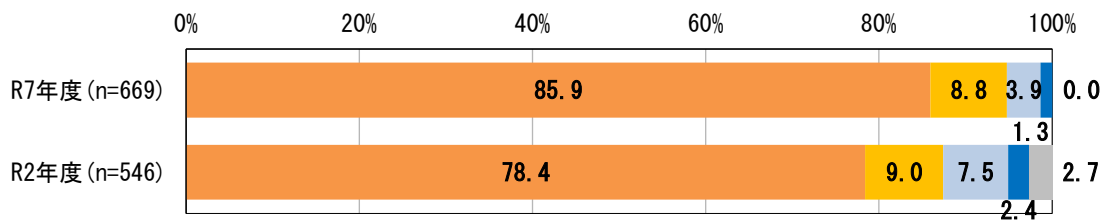
家族と一緒に食べる食事について、夕食を「ほぼ毎日食べる」と回答した人の割合は小学生 93.2%、中学生 85.9%、高校生 77.7%であり、前回調査から増加した。

<単数回答>

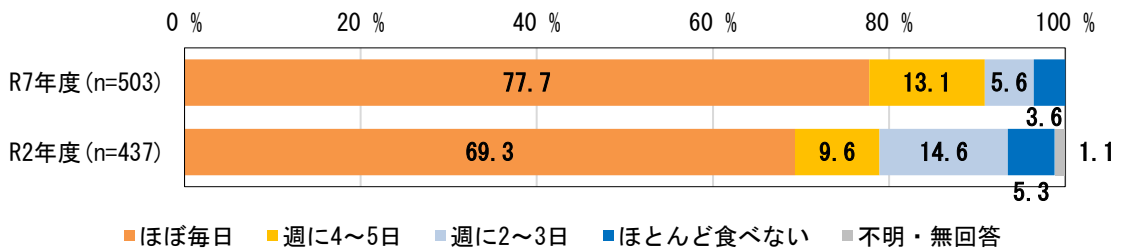
【小学生】



【中学生】



【高校生】



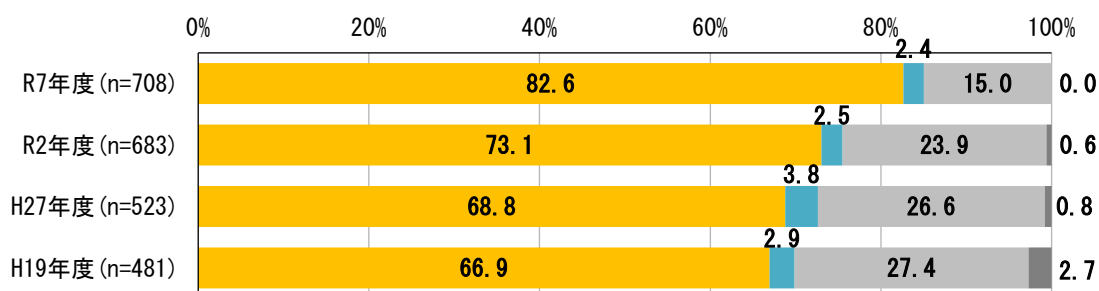
■ほぼ毎日 ■週に4~5日 ■週に2~3日 ■ほとんど食べない ■不明・無回答

図 73 夕食を家族と一緒に食べる頻度（小学生・中学生・高校生）

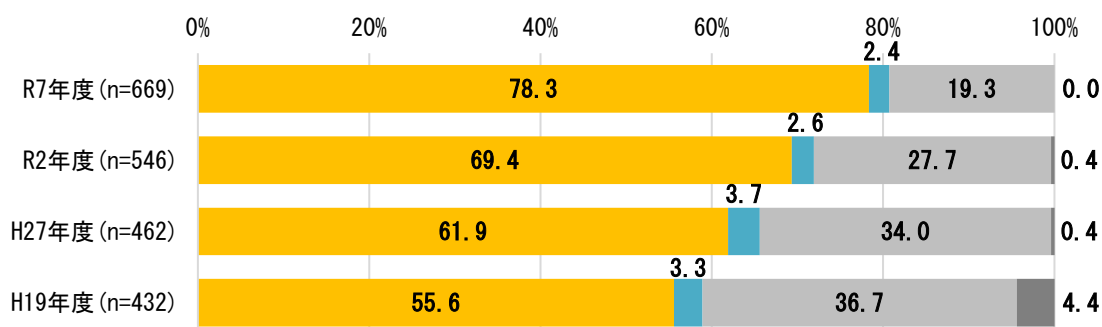
問 4. あなたは、食事が楽しいですか。(SA)

「食事が楽しい」と回答した人の割合は、小学生が 82.6%で、中学生が 78.3%、高校生が 79.3%であった。小学生、中学生、高校生ともに初回調査以降で最も高くなった。

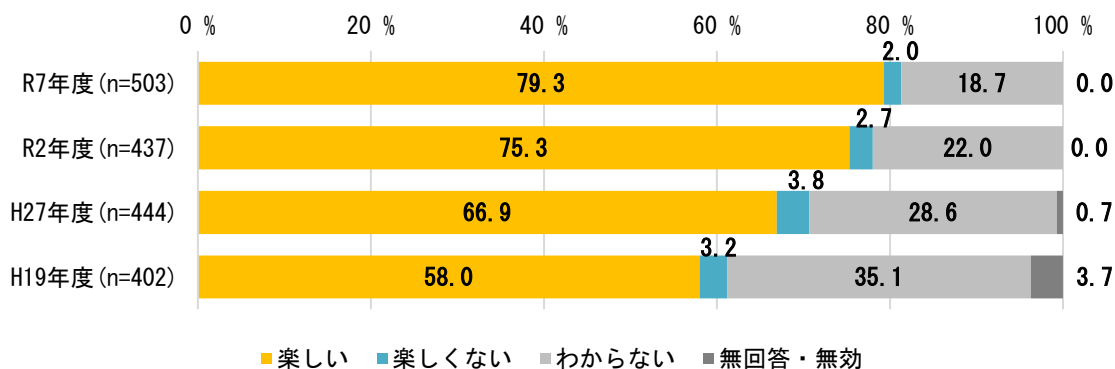
<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生



■ 楽しい ■ 楽しくない ■ わからない ■ 無回答・無効

図 74 食事を楽しみにしているか 結果推移

【小学生・中学生のみ】

問 5. 家で飲むスープや味噌汁の味つけは、給食のスープや味噌汁と比べ、どうですか。(SA)

「給食の方が濃い」と回答した人の割合は、小学生が 18.0%で、中学生が 17.6%、「家の方が濃い」と回答した人の割合は、小学生が 25.3%で、中学生が 33.2%であった。

<単数回答>

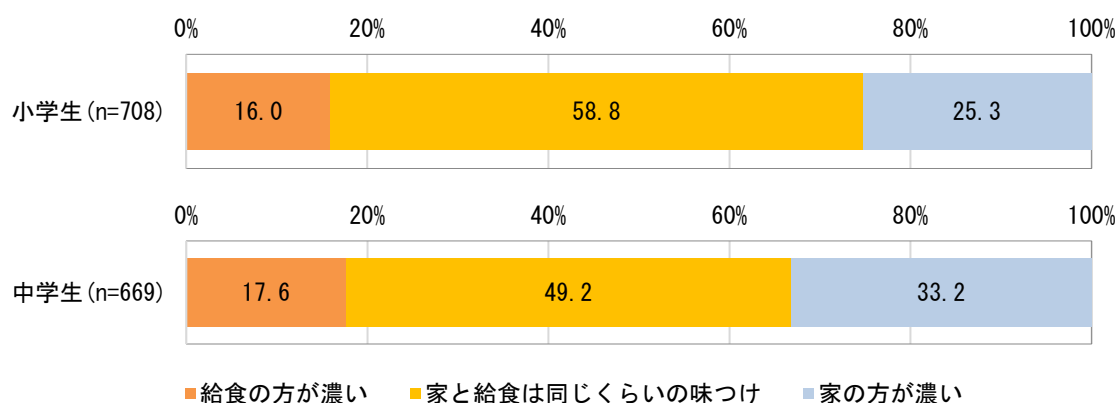


図 75 給食と家庭のスープ・味噌汁の味つけの比較 結果推移

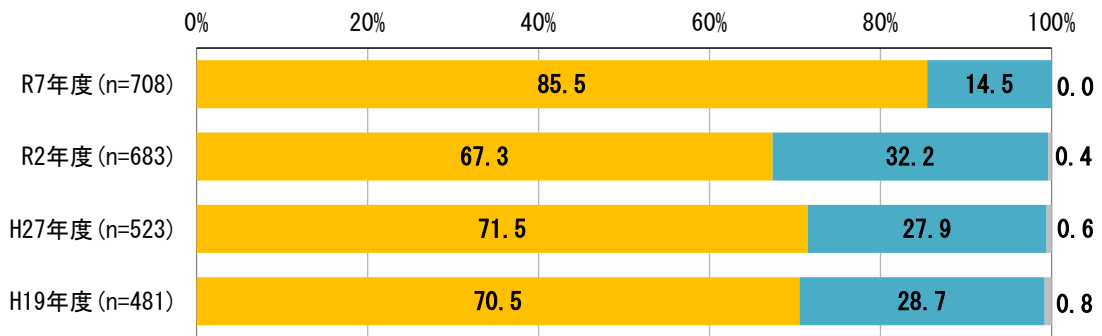
問 6 . あなたは、自分だけで料理を作ること（ご飯を炊く、味噌汁を作る等）ができますか。（高校生は問5）（SA）（第 2 次福津市食育推進計画 指標 6）

第 2 次食育推進基本計画 2「健康な暮らしを実感する」の基本方針（1）「若い世代が健康や食への意識を持つ」の指標の一つである。小学生では「自分だけで料理を作ることができる」と回答した人の割合は 85.5%で前回調査から 18.2 ポイントの増加、中学生では 87.0%で 17.4 ポイントの増加、高校生では 89.7%で 21.1 ポイントの増加となった。

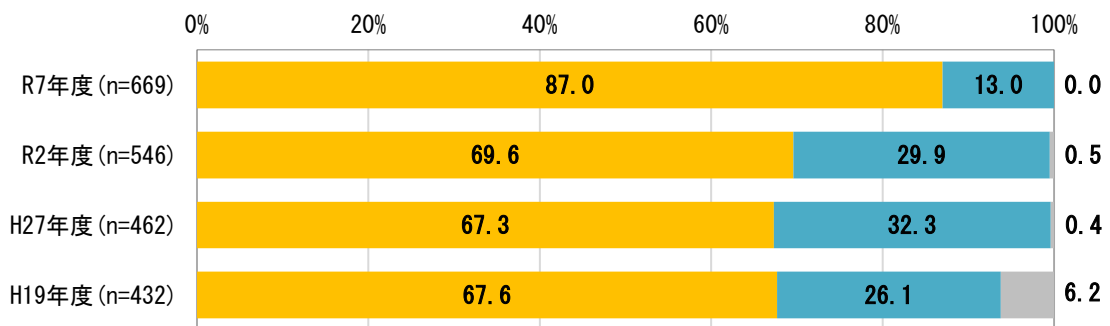
食育推進指標 6

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)	
6	自分だけで料理をすることができる子ども割合	小学生	70.5%	71.5%	67.3%	85.5%	75%
	中学生	67.6%	67.3%	69.6%	87.0%	75%	

<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生

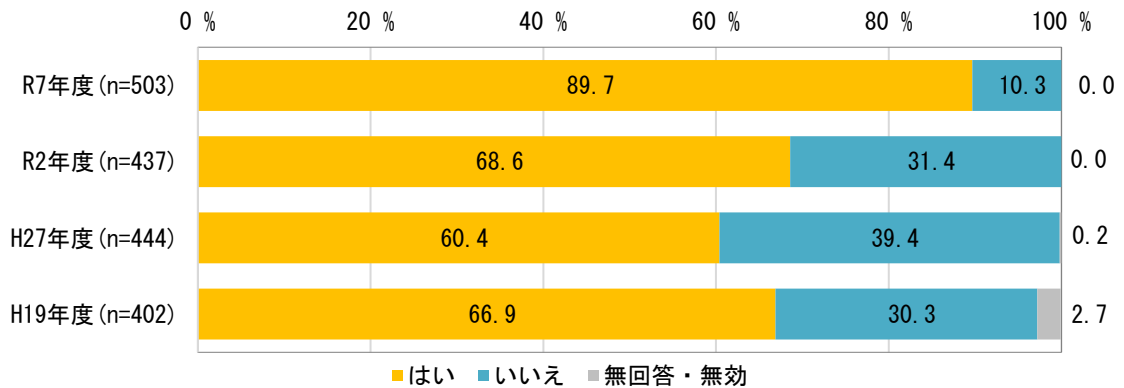


図 76 自分だけで料理ができるか 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

【高校生のみ】

高校生問 6. あなたは、ふだんから減塩に気をつけた食生活を実践していますか。(SA)

ふだんから減塩に気をつけている食生活の実践を「必ずしている」「よくしている」と回答した高校生の割合は、16.3%であった。また、実践者のうち73.2%が「野菜をしっかりとるようにしている」と回答した。

<単数回答>高校生

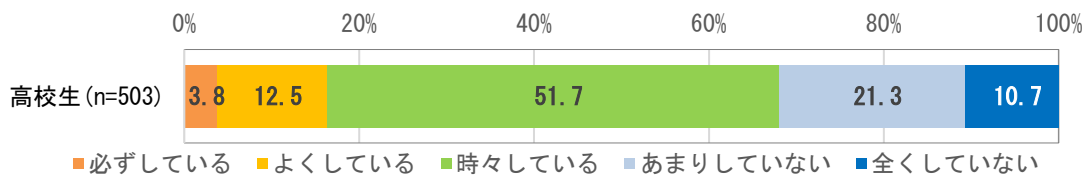


図 77 減塩に気をつけた食生活の実践 (高校生)

(問 6 で「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」を選んだ人に) 高校生問 6-1. 具体的にどのようなことに気をつけていますか。(MA)

<複数回答>高校生

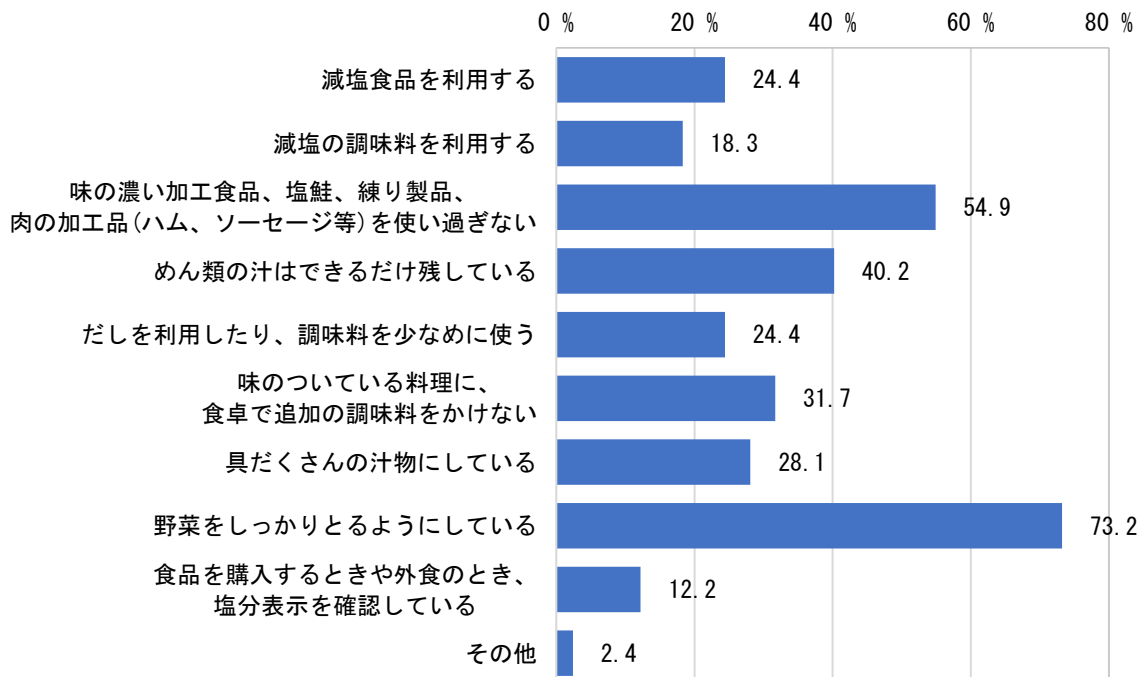


図 78 減塩の実践内容 (高校生 n=82)

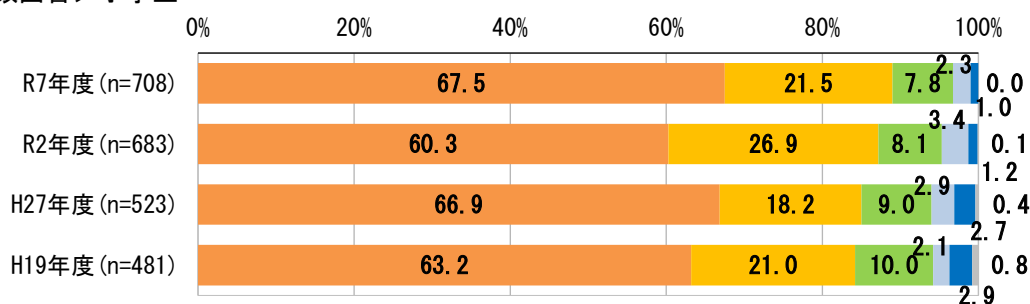
問 7. あなたは、食事の際に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。(SA) (第2次福津市食育推進計画 指標13)

第2次食育推進基本計画3「豊かな心を育む」の基本方針(1)「食への感謝の気持ちを育てる」の指標の一つである。小学生では「必ずしている」と回答した人の割合は67.5%で前回調査から7.2ポイントの増加、中学生では67.6%で6.2ポイントの増加、高校生では57.3%で0.4ポイントの減少となった。

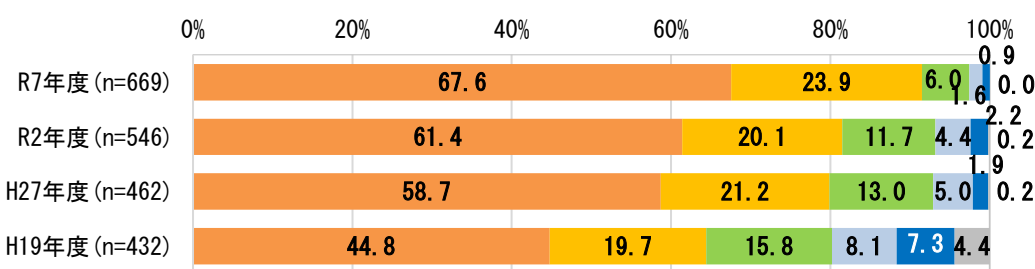
食育推進指標13

No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19年度)	基準値 (H27年度)	中間結果 (R2年度)	調査結果 (R7年度)	目標値 (R7年度)
13	小学生	63.2%	66.9%	60.3%	67.5%	100%
	中学生	44.8%	58.7%	61.4%	67.6%	100%

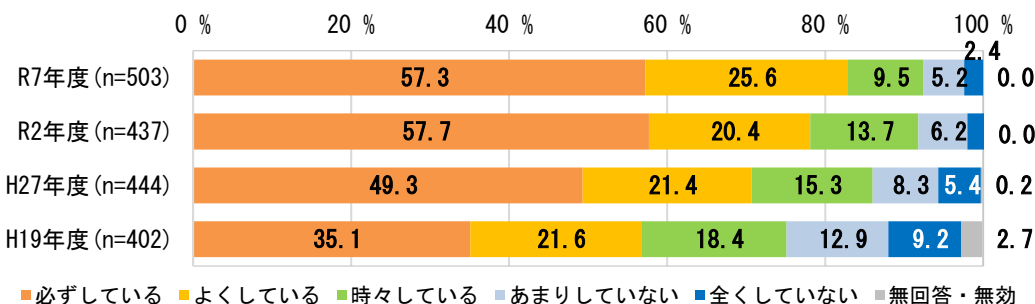
<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生



■必ずしている ■よくしている ■時々している ■あまりしていない ■全くしていない ■無回答・無効

図 79 食事の際のあいさつ 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

問 8. あなたはゆっくりよくかんで食べていますか。(SA)

(第 2 次福津市食育推進計画 指標 12)

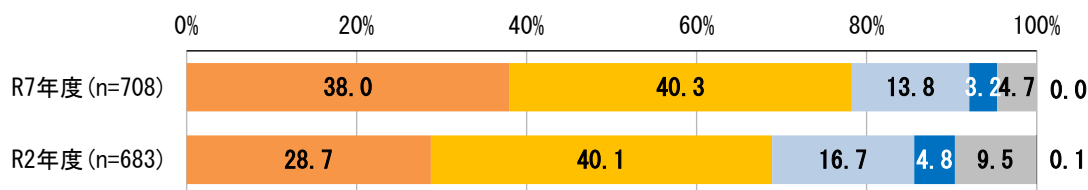
第 2 次食育推進基本計画 2「健康な暮らしを実感する」の基本方針 (3) 「健康長寿につながる健康的な食習慣を身につける」の指標の一つである。小学生では「ゆっくりよく噛んで食べている」または「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」と回答した小学生の割合は 78.3%で、前回調査より 9.5 ポイントの増加、中学生では 63.7%で 2.1 ポイントの減少、高校生では 60.0%で 5.4 ポイントの増加であった。

食育推進指標 12

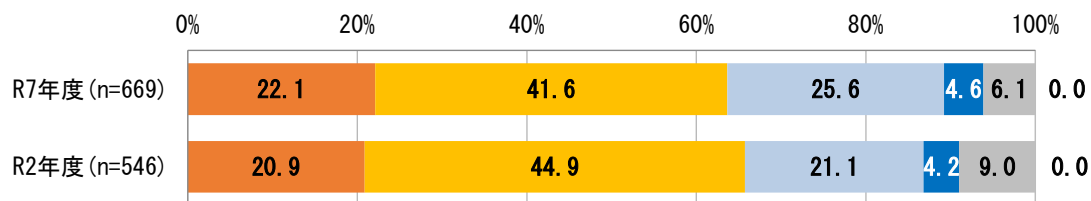
No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
12	小学生	—	57.9%	68.8%	78.3%	63%
	中学生	—	52.5%	65.8%	63.7%	58%

H27 年度は市民の健康に関するアンケート結果による

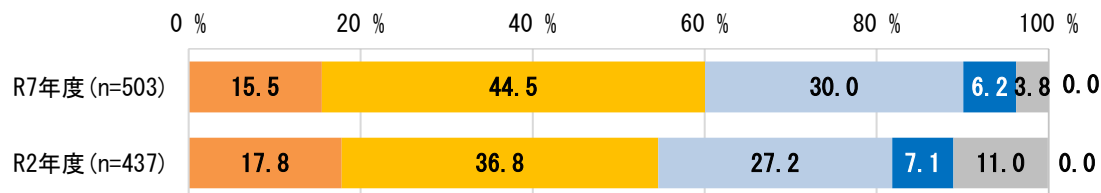
<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生



- ゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べている
- どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べていない
- ゆっくりよく噛んで食べていない
- わからない
- 無回答・無効

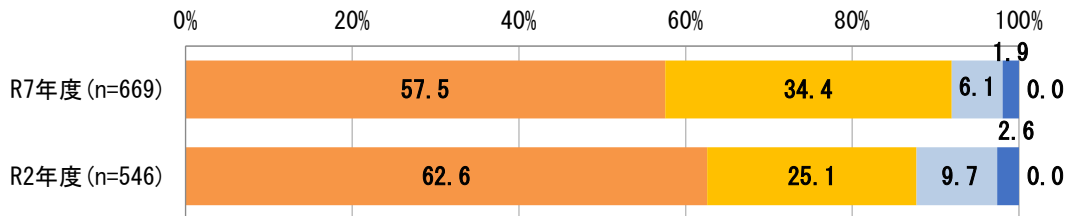
図 80 ゆっくりよくかんで食べているか (小学生・中学生・高校生)

【中学生・高校生のみ】

問 9. あなたは、主食（ご飯・パン・めん等）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品等を使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻等を使った小鉢、小皿の料理）を3つそろえて食べることが1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。（SA）

主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日2回以上あることが「ほぼ毎日」と回答した生徒は、中学生では57.5%で前回調査から5.1ポイント減少し、高校生では41.2%で7.8ポイント減少した。

<単数回答>中学生



<単数回答>高校生

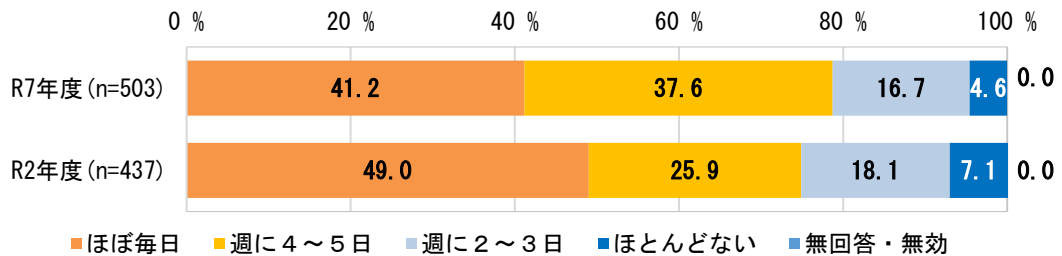


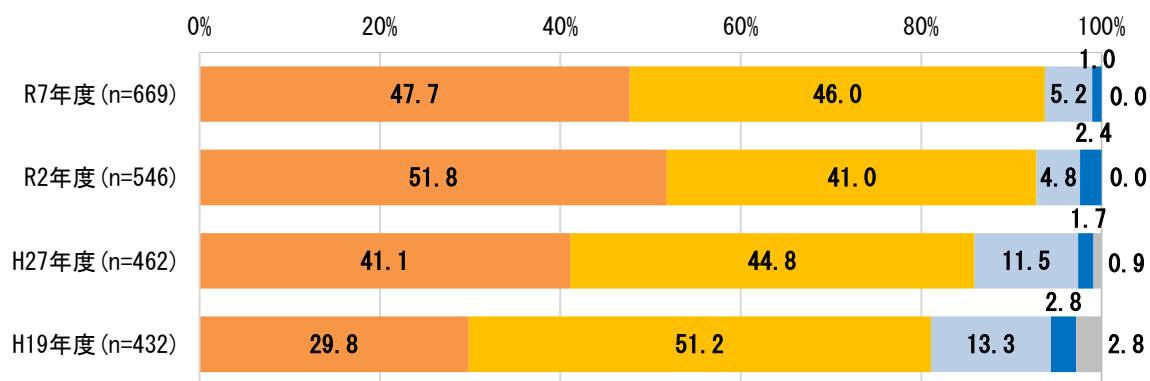
図 81 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度（中学生・高校生）

【中学生・高校生のみ】

問 10. あなたは、自分の食生活をどう思いますか。(SA)

自身の食生活に対して、「よいと思う」または「少し問題があるが、おおむね良いと思う」と回答した生徒は、中学生が 93.7%であり前回調査と比較して 0.9 ポイント増加した。高校生は 88.7%で前回調査から 3.6 ポイント減少ではあるがほぼ変化していなかった。

<単数回答>中学生



<単数回答>高校生

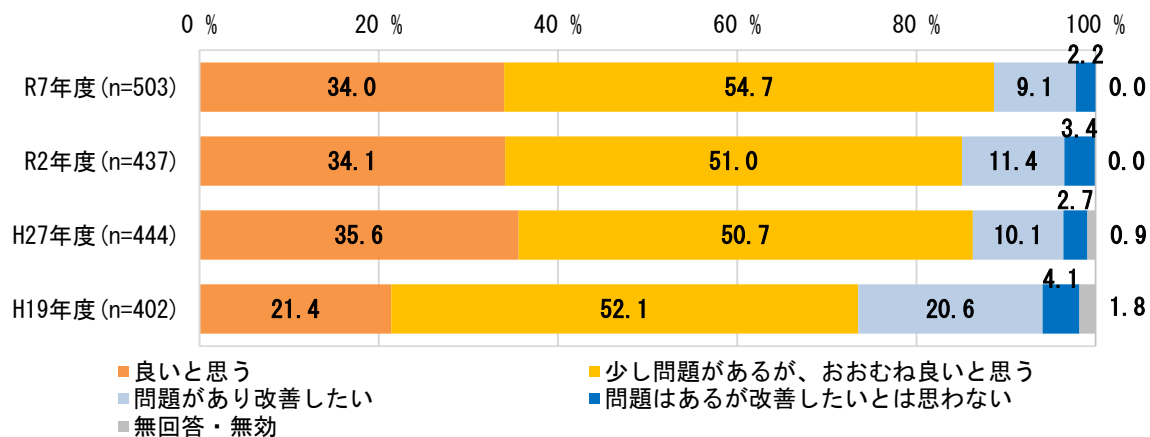


図 82 自身の食生活について 結果推移 (中学生・高校生)

(問 10 で「問題があり改善したい」を選んだ人で)
 問 10-1. 改善したいと答えた方は、誰に相談しますか。(MA)

相談する相手として、中学生 82.9%、高校生 76.1%で「親」と回答した生徒が最も多かった。

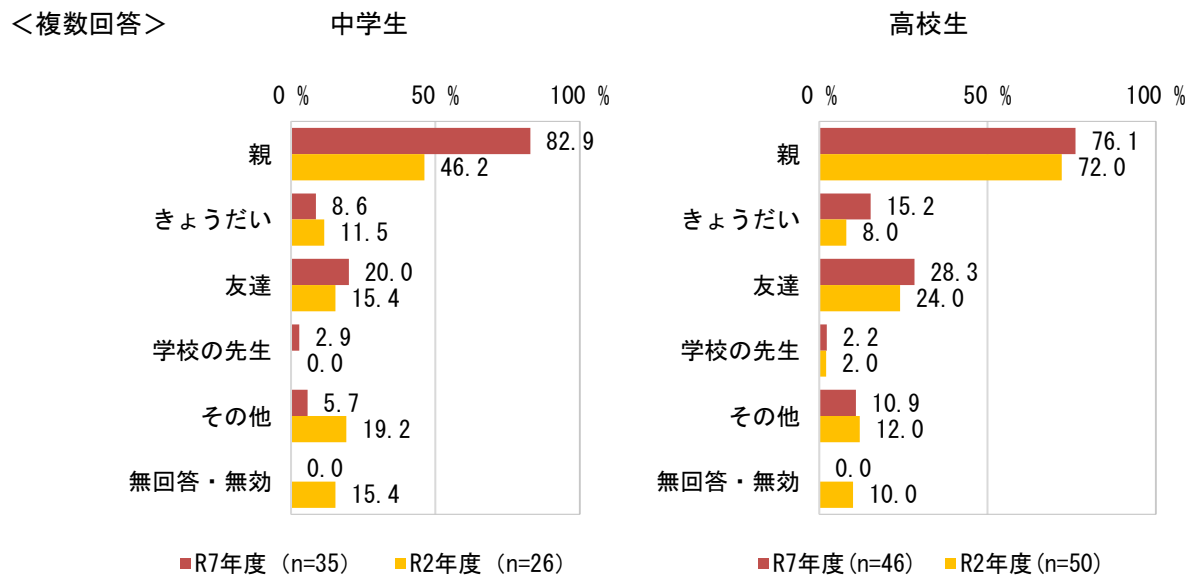


図 83 食生活に関して相談する相手 (中学生・高校生)

（問10で「問題があり改善したい」または「問題があるが改善したいとは思わない」を選んだ人で）

問10-2. あなたの食生活の問題点はどのようなものですか。（MA）

食生活の問題点として、「食事のバランスが悪い」が中学生・高校生ともに最も多くの生徒が選択した。中学生では61.9%で前回調査の43.6%から18.3ポイント増加し、高校生では70.2%で前回調査から6.1ポイント増加した。

<複数回答>

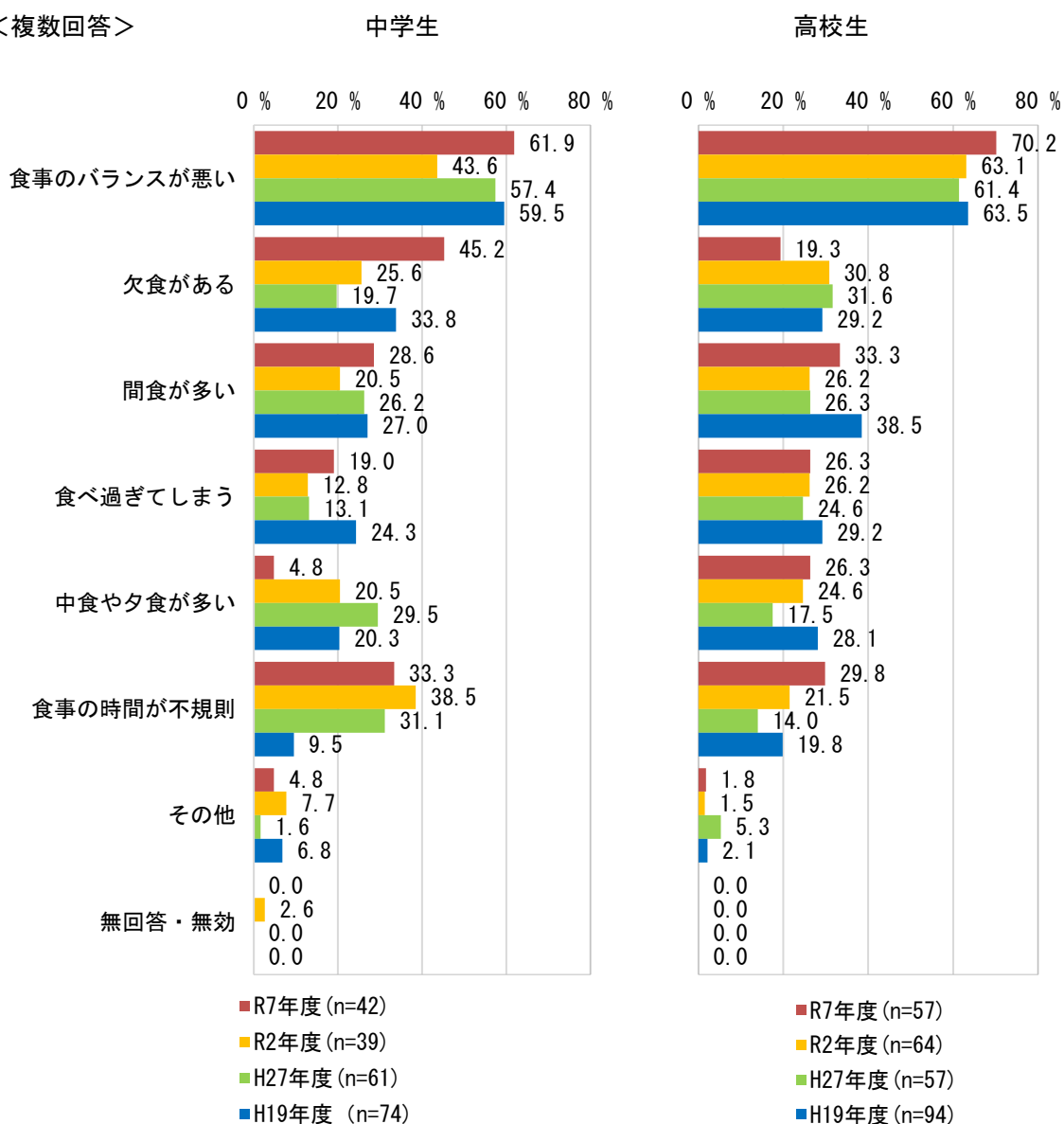


図84 食生活の問題点 結果推移（中学生・高校生）

問 11. (小：問 9) あなたは、フードバンクがあれば利用したいと思いますか。(SA)

※フードバンク：まだ十分に食べられるにもかかわらず、様々な理由により捨てられたし
まう食品を寄附していただき、必要とする人に無料で提供するしくみ

フードバンクを「利用したい」と回答した児童・生徒の割合は、小学生が 53.2%
で、中学生では 39.6%、高校生は 47.5%であった。「利用したくない」は 10%未満
で、半数近くが利用に関して「わからない」と回答した。

<単数回答>

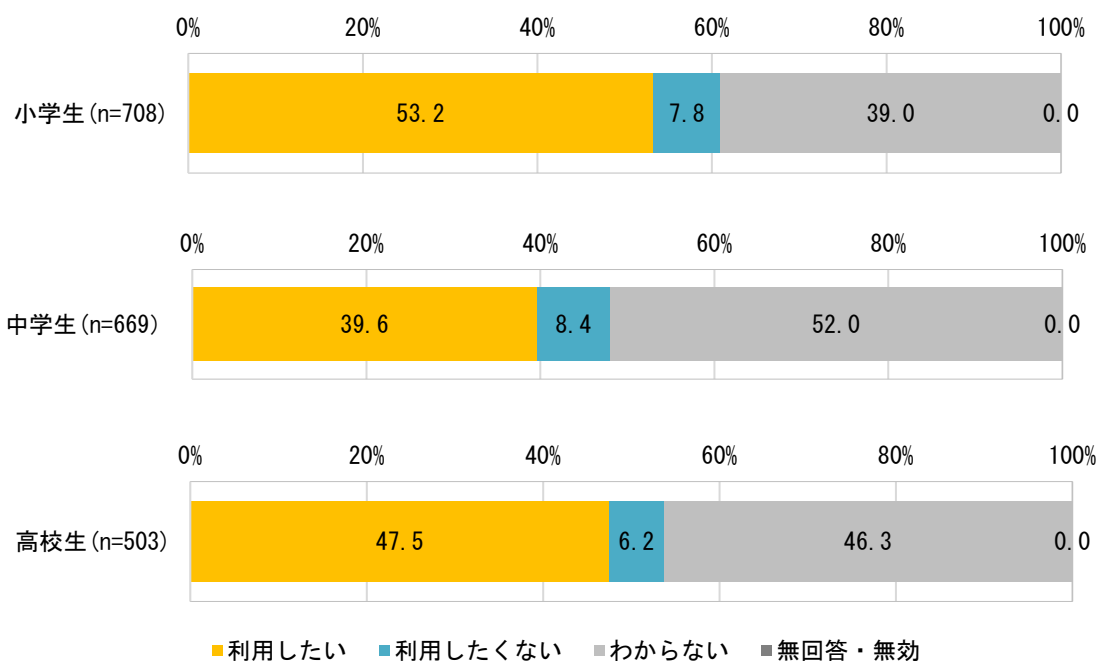


図 85 フードバンクの利用意思 (小学生・中学生・高校生)

問 12. (小：問 10) あなたは、こども食堂のような無料または低価格で食事をとることができる場所や地域での食事会等の機会があれば利用したいと思いますか。(SA)

※こども食堂：子どもが一人でも気軽に利用できる無料または低価格で食事を提供する場所。NPO や地域のボランティア団体等が運営しており、子どもだけでなく地域の人も利用できる。

こども食堂のような無料や低価格の食堂の場を「利用したい」と回答した児童・生徒の割合は、小学生が 57.8%で、中学生では 48.1%、高校生は 50.1%であった。

「利用したくない」は 10%前後で、約 30~40%が利用に関して「わからない」と回答した。

<単数回答>

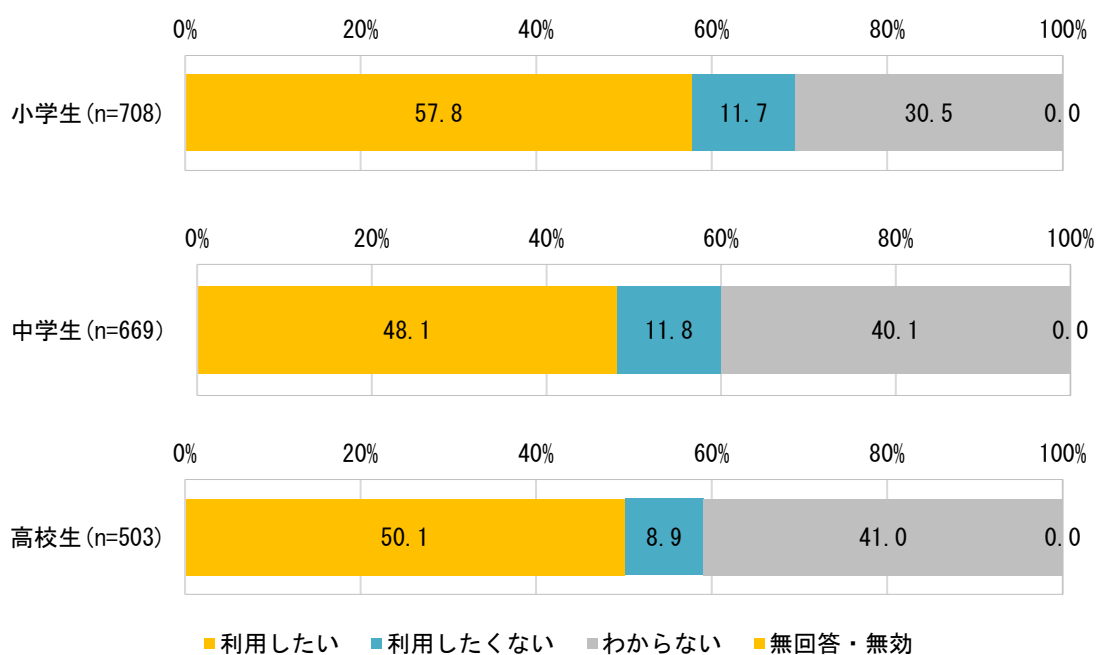


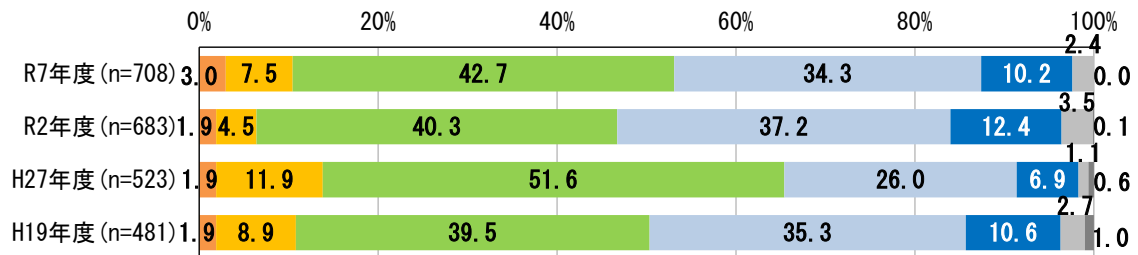
図 86 こども食堂等の無料・低価格な食事の場の利用意思
(小学生・中学生・高校生)

3. 生活リズムについて

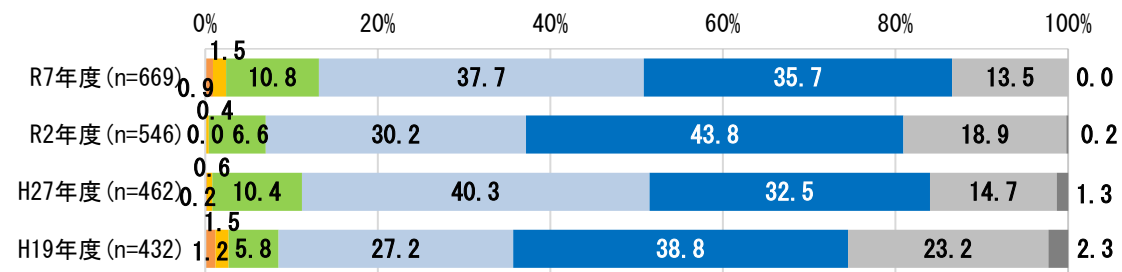
問 13 (小：問 11) . あなたは、学校に行く前の日、夜何時ごろに寝ることが多いですか。(SA)

小学生において「午後9時から10時」と回答した人の割合が42.7%で最も多く、10時以降に寝る割合は46.9%で前回調査に比べて6.2ポイント低くなった。中学生では「午後10時から11時」に寝る生徒が37.7%と最も多く、11時以降に寝る割合は49.2%で前回より13.5ポイント低くなった。高校生では「午前0時より後」が51.1%と最も多く、前回より2.7ポイント低くなった。

<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生

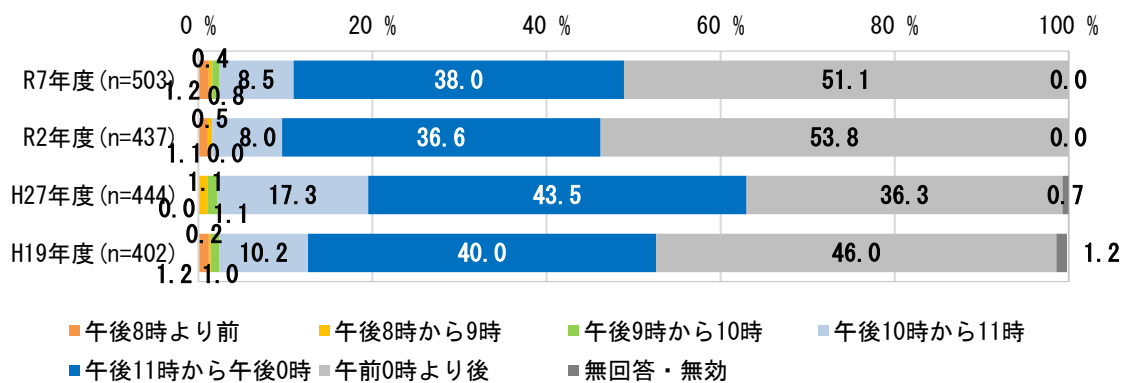
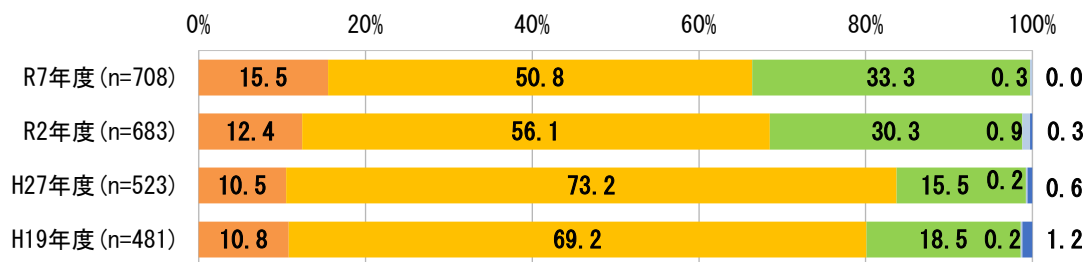


図 87 就寝時刻 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

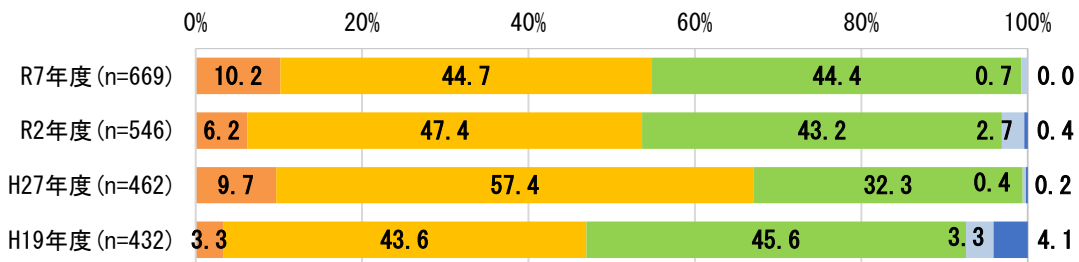
問 14 (小 : 問 12) . あなたは、学校に行く日、朝何時ごろに起きることが多いですか。(SA)

起床時間は、「午前 6 時から 7 時」と回答した人の割合は、小学生 50.8%、中学生 44.7%、高校生 42.7%と最も多かった。7 時以降に起きる割合は小学生 33.6%、中学生 45.1%、高校生では 45.9%であり、中高生が遅く起きる生徒が多い傾向にあった。小学生、高校生では起床時間が遅い児童・生徒の割合が前回調査より高くなった。

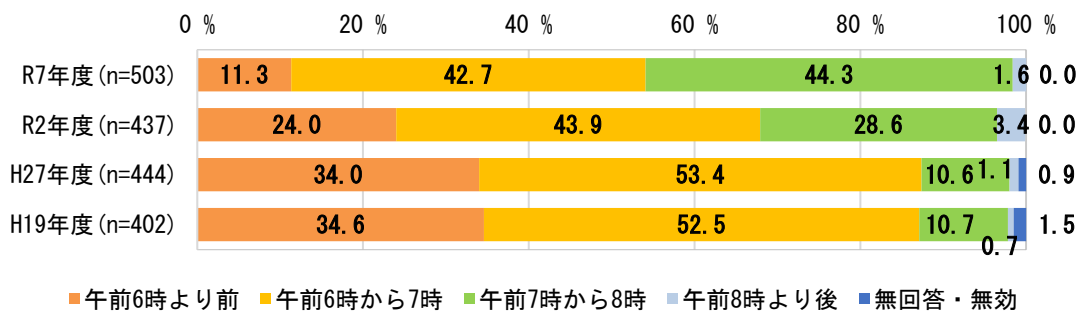
<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生



■ 午前6時より前 ■ 午前6時から7時 ■ 午前7時から8時 ■ 午前8時より後 ■ 無回答・無効

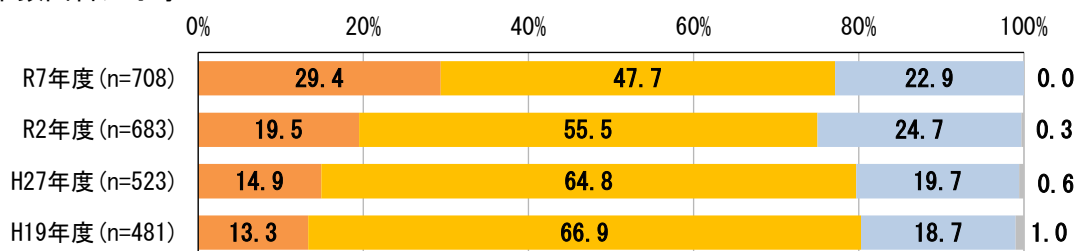
図 88 起床時刻 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

4. 「食育」について

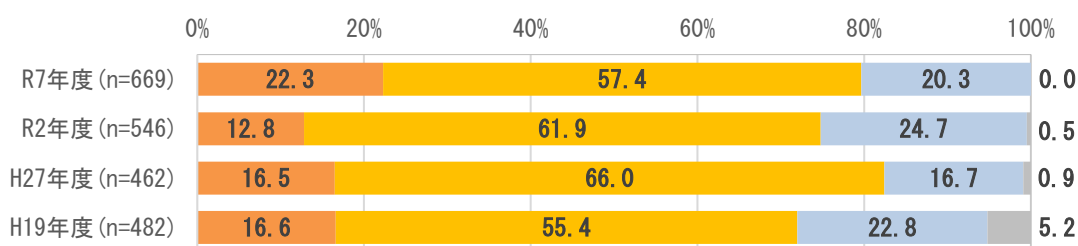
問 15 (小 : 問 13) . あなたは、「食育※」という言葉を知っていましたか。
 (SA) ※食育 : いろいろな経験を通して「食」について知り、体に良いものを選ぶ力をつけて、健康的な食生活ができる人を育てることです。食育をすすめることは、とても大切なことです。

「食育」という言葉を「言葉も意味も知っていた」と回答した児童・生徒の割合は小学生 29.4%、中学生 22.3%、高校生は 21.7%で、前回調査時からそれぞれ 9.9 ポイント、9.5 ポイント、9.3 ポイント増加した。一方、「言葉も意味も知らなかった」のは、小学生 22.9%、中学生 20.3%、高校生 14.7%で前回からそれぞれ、1.8 ポイント、4.4 ポイント、16.9 ポイント増加した。

<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生

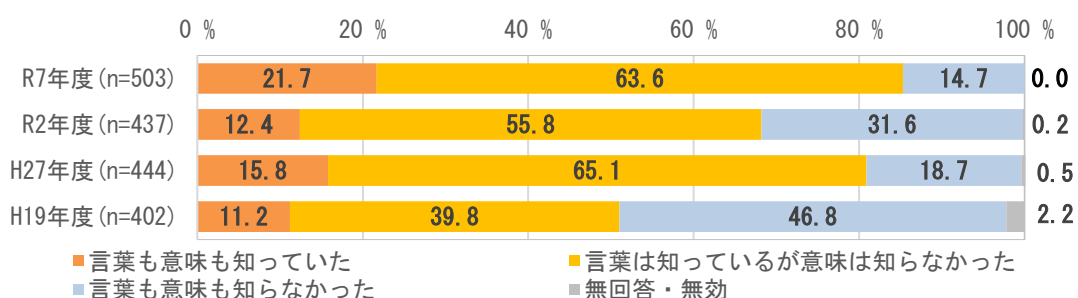


図 89 「食育」認知度 結果推移 (小学生・中学生・高校生)

問 16（小：問 14）. あなたは、生産者と交流体験をしたことがありますか。

（SA）

※交流体験：農業・漁業の生産者棟と野菜の栽培方法や新鮮な旬の食材の選び方、調理方法など会話を交わして交流することを指します。

（第 2 次福津市食育推進計画 指標 1）

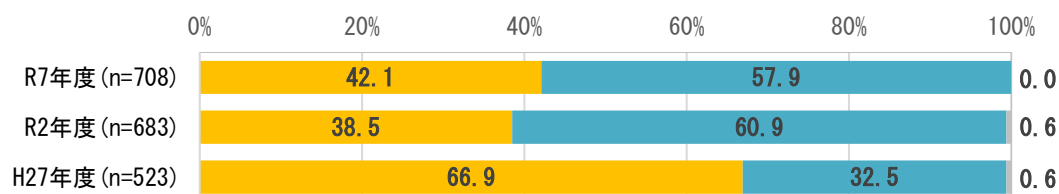
生産者との交流体験をすることは、第 2 次食育推進基本計画 1 「元気な地域をつくる」の基本方針（1）「食を通して地域を知る」の指標の一つである。小学生では「ある」と回答した人の割合は 42.1%、中学生では 33.8%、高校生では 37.8%で、前回調査時からそれぞれ 3.6 ポイント、5.2 ポイント、6.0 ポイント増加した。

食育推進指標 1

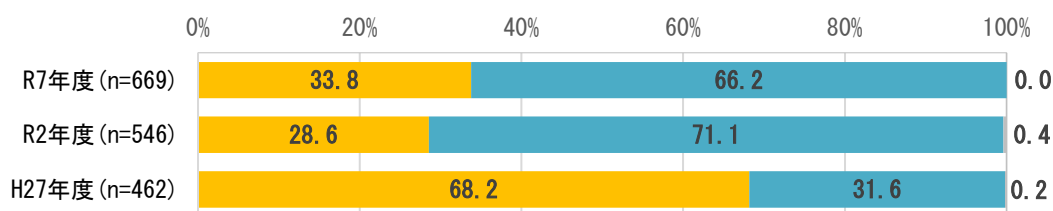
No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
1	生産者と交流体験をしたことのある子ども割合	—	66.9%※	38.5%	42.1%	80%

※R2 年度調査からは、体験ではなく交流体験として質問した。

<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生

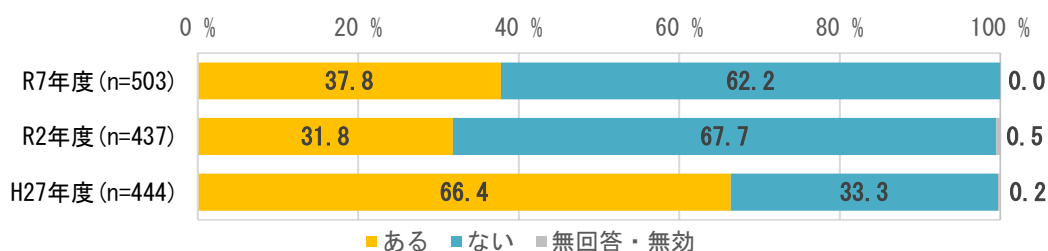


図 90 農業・漁業体験の有無 結果推移（小学生・中学生・高校生）

問 17 (小 : 問 15) . あなたは、伝統料理や郷土料理について知っていますか。(SA)

(第 2 次福津市食育推進計画 指標 16)

※伝統料理：正月、桃の節句、端午の節句等の年中行事食や、親から子にその地域や家庭で代々受け継がれてきた伝統食のこと。

※郷土料理：地域の特産物を材料にしたり独特な作り方をする。その地域ならではの料理のこと。(福岡県では、がめ煮・筑前煮・とりすき・水炊き・だぶ・あちゃら漬等があります。)

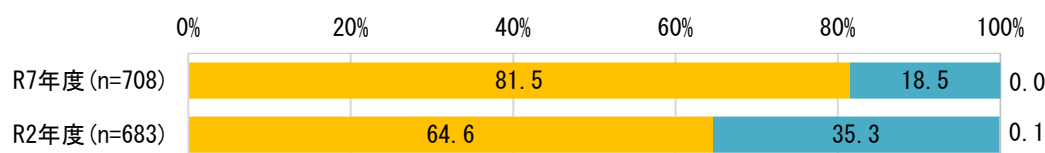
伝統料理や郷土料理について知ることは、第 2 次食育推進基本計画 3 「豊かな心を育む」の基本方針 (2) 「食文化を次世代につなげる」の指標の一つである。「知っている」と回答した人の割合は小学生では 81.5%、中学生では 82.8%、高校生では 85.7%で、前回調査からそれぞれ 16.9ポイント7.2ポイント、5.8ポイント増加した。

食育推進指標 16

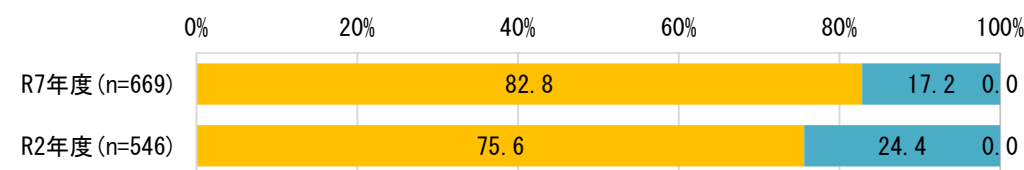
No.	取り組み効果をはかる項目	調査結果 (H19 年度)	基準値 (H27 年度)	中間結果 (R2 年度)	調査結果 (R7 年度)	目標値 (R7 年度)
16	伝統料理や郷土料理を知っている子どもの割合	—	50.6%※	64.6%	81.5%	80%以上
		—	44.7%※	75.6%	82.8%	80%以上

※H27 年度は知っている伝統食を回答した児童・生徒の割合

＜単数回答＞小学生



＜単数回答＞中学生



＜単数回答＞高校生

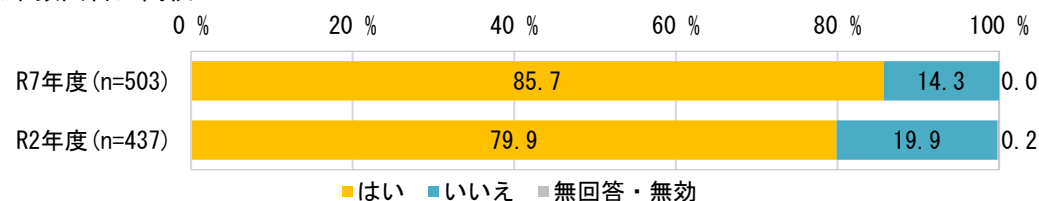
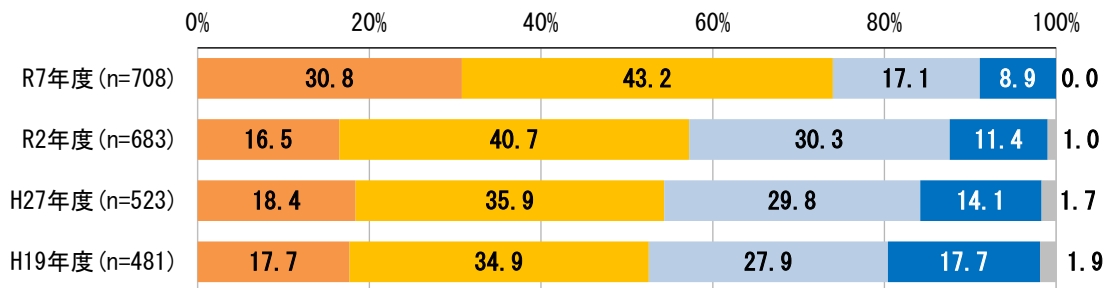


図 91 伝統料理・郷土料理の認知度 (小学生・中学生・高校生)

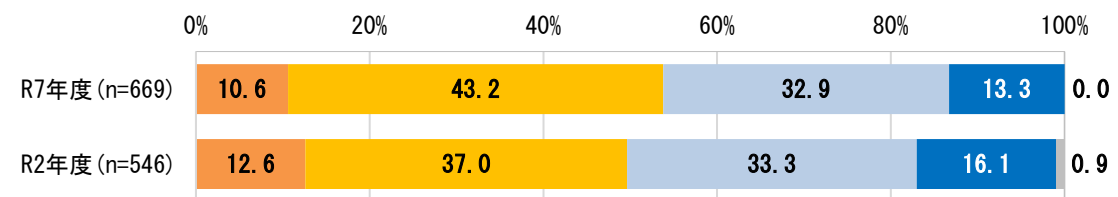
問 18（小：問 16）. あなたは、伝統料理や郷土料理の作り方を習ってみたいと思いますか。（SA）

伝統料理や郷土料理を「習ってみたい」または「時間があったら習ってみたい」と回答した人の割合は小学生 74.0%、中学生 53.8%、高校生 60.4%で、前回調査からそれぞれ 16.8 ポイント、4.2 ポイント、5.9 ポイント増加した。

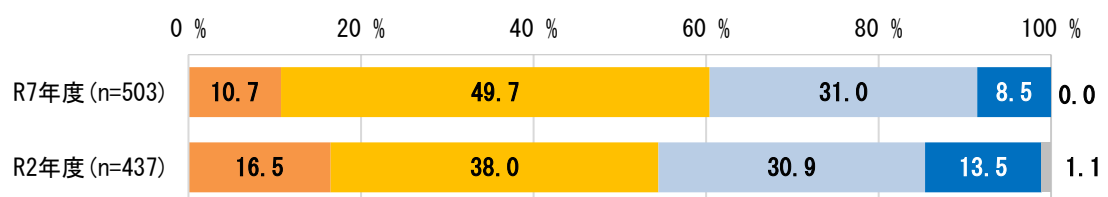
<単数回答>小学生



<単数回答>中学生



<単数回答>高校生



■ 習ってみたい ■ 時間があったら習ってみたい ■ どちらともいえない
■ 習いたくない ■ 無回答・無効

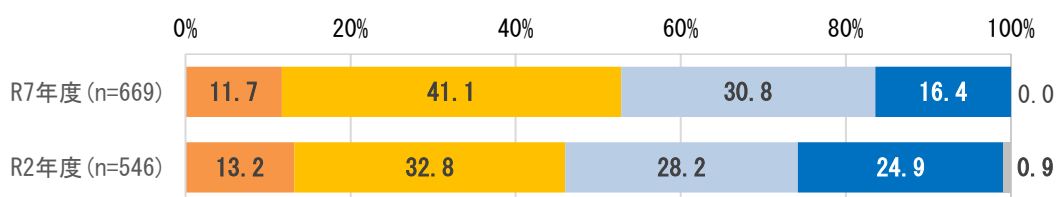
図 92 伝統/郷土料理の習ってみたい希望（小学生・中学生・高校生）
小学生のみ結果推移

【中学生・高校生のみ】

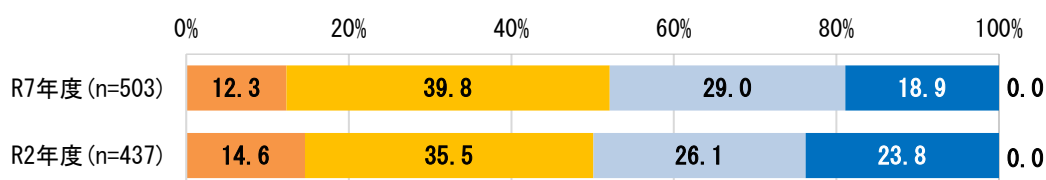
問 19. あなたは、食品を購入する際に食品表示を確認しますか。（SA）

食品を購入する際に表示を確認するかについては、「いつも確認している」「ときどき確認している」と回答した生徒は中学生では 52.8%、高校生では 52.1%で、前回調査からそれぞれ 6.8 ポイント、2 ポイント増加した。

＜単数回答＞中学生



＜単数回答＞高校生



■いつも確認している ■ときどき確認している ■あまり確認していない
■全く確認していない ■無回答・無効

図 93 食品購入時の食品表示確認の頻度（中学生・高校生）

5. その他

※問 20（小：問 17）性別、問 21（小：問 18）学校名、高：問 22 住所（市内/市外）は、1. 対象者の属性に結果を掲載した。

小・中学生：食に関することで自分自身や家で行っていることがあれば、自由に書いてください。（自由記述）
 高校生：あなたが食に関することで取り組んでいることや食育に関して思うことがあれば、ご自由にお書きください。（自由記述）

小学生 572 名、中学生 495 名、高校生 247 名から「食」に関する取り組みや「食育」に関する意見（高校生のみ）が寄せられた。

表 8 食に関する取り組み 自由記載抜粋（小学生）

食べ方に関すること
食事を残さず食べている 食器の片付けをしている 皿洗いをしている
ご飯粒を残さずきれいに食べ、食器の片付けをしている。
机をきれいにしておいている。食器は食べたら下げている。
時間があれば食事を作ったり、食事を残さずに食べている。
食べた後は必ず食器を片付けている
いただきます、ごちそうさまでしたを言っている
食事を残さず食べ、お母さんが皿洗いをいなくていいように、たまに自分で洗っている。
好き嫌いをしない 食器洗いをたまにやる
自分の食事の分を自分でついでいる 残さないように、最初は少しだけついで、足りなかつたら、どんどん足していくようにしている
食事を残さず食べている。時々、夜ご飯の一品を作る。
残さず食べて、自分の作れるものなら、ときどき作っている。
食事は残さず、だいたい毎日3食食べている。
食事の食器の用意や机拭きなどを手伝っている。
自分の食器は自分で洗っている。食事を残さず食べている。
おかわりを家でして食器洗いを毎回している
三角食べをしている。食器を水に浸けている
お米の粒を毎日必ず残さず食べている。食べたあとは軽く水で流している。
・自分が食べられる分だけ取る・皿洗いをする
食事をのこさずに食べて、お母さんと洗っている
美味しい料理を残さずたべて自分が使った食器を洗っている。
食器など出すのをしている。ご飯は残さず食べている
食べ終わった食器は、自分で使ったお皿を洗う。
食器の片付けをしている。
おさらを台所に運ぶ
皆と楽しく、できるだけ残さずに食べている。・夕飯の準備や、手伝いをしている。
自分が食べる量だけついで、残さないようにしている。
よくかんでたべるようにしている
感謝の気持ちを忘れずに食べている

食事をするときに命を食べているということを忘れずに食べている。「いただきます」と「ごちそうさま」は必ず言うようにしている。食事中に良いマナーをする(口の中に食べ物が入っていたら喋らない、ぺちやくちゃ言わないなど)
いつもご飯をたくさん食べて、健康に良い食事をして、ご飯が大好きです。
栄養があるものを食べるようにしている。
みんなでおしゃべりしながら食べている
最近三角食べを意識し始めている
お母さんのご飯は、おいしい
食事を美味しいと言っている
毎日命に感謝しながら食べている
外でもどこでも美味しく食べています
食事中にマナーを守る。食事をなるべく残さずに食べている。食事をするには命があることを覚えて食べている。
苦手なものでも一口はチャレンジしている。
食事は楽しく食べている。ご飯前の簡単な用意をやっている。
作ってくれている人に感謝している
ご飯を残したら、明日、おやつ、なし。
苦手な食べ物があっても食べる。
食事を食べることは自分のためになるのでしている。
会話しながら味わって食べている
できるだけ残さず食べている。給食で残食を減らすためできるだけ増やしている
体調や食欲があまりないときは自分で量を調整している
給食で嫌いなものがあっても頑張ってたべる。
ちゃんと味わって食べてる
米粒1粒も残さずにたべている
食べ終わった後お皿をさげお母さんに美味しかったよありがとうといっている。
お母さん(ごはんをつくってくれる親)に「おいしい」、「ありがとう」といっている
食品ロスをできるだけ防ぐために残さず食べている。
ご飯は自分達でついで自分が食べれる量だけ取るようにしている
ゆっくりで少食だけどできるだけ食べている。
毎日ご飯を3回おかわりしている。ご飯は残さず毎日食べている。
米粒一つも残さず美味しく食べていること
家では自分が食べれる量をついでいる。
食べ終わった後に作ってくれてありがとう美味しかったよと言っている
食事を美味しく食べてる
ご飯は食べられる量だけ取っている。ご飯はできるだけ残さず食べている。
食事をきちんと栄養のバランスが保てる食べ方をしている。自分で、できることは、している
テーブルに出ているおかずなどを、余っていたら捨てないように、美味しく最後まで食べている。
いのちをありがとう。と思いながら食事をしています。
食事づくり・食事の手伝いに関すること
私は、お母さんやお父さんの誕生日になにか美味しいご飯を作ることにしています。そしてたまに皿洗いのような食に関することをしています
献立表を書いている。ご飯を食べ終わったあとは食器を水につけている。残さず食べている。ご飯を作るときには、必ず手を洗っている。作った人に「美味しい」「〇〇甘くて美味しい？」など感想を言っている
ご飯を運んだり食べ物を作っている
家の人と料理を作っている
お手伝いとして、食器を洗う事がある。
自分で作っている
毎日ご飯をたく。食事を残さず食べている
時々お母さんの夕飯作りを手伝ったり、自分でお菓子を作ったりしている。
ご飯を炊く。たまに料理を作る。
子ども食堂に行ったときに 料理を手伝っている。
今年の父の日に、ホットケーキミックスであんこを乗せて、どら焼きを作りました。
魚を捌いている(すごいでしょ)しょっきの片付けをしている。
自分で料理することも多い

お皿をさげている 机を拭いている
土日の昼ご飯は自分で作って片づけもしている
親がいないときに米をたいている。
カレーは、ティッシュで油汚れを取ってから水で洗い流す。
習い事がないときは、料理を作りたいと思う。
時々許可をもらっているご飯を作ったりしている
その他
コンポストを行っている
ゴミをちゃんと分けている
夕食等が残った時はまだ食べられるので冷凍保存等してフードロスをしていないようにしている。
フードドライブを前していました。今は、洗い物等をしています。
4年の頃にリーダーみたいな感じで放送したり実行したりしてフードドライブをした。第2回も行ったけどフードロスをなくす活動ができたのはとても嬉しかった。だからまたしたい。
おばあちゃんが作るハンバーグが美味しいです
賞味期限などを確認して食べているときがある
生ゴミに入っている野菜のしんなどを土が入っている袋に入れて栄養がたくさん入っている土を作っている

表9 食に関する取り組み 自由記載抜粋（中学生）

食べ方に関すること
「いただきます」と「ごちそうさま」を必ず言うこと行っている。
食事を残さず食べている。・賞味期限や消費期限が近いものから食べる。
1週間(平日)の夕飯の内容を家族で考えている。
あいさつをしている
あまり減らさず好き嫌いをしないで食べる
あまり残さないように気をつけている
いただきます、ごちそうさまを言う。食事中にスマホを見ない。自然食品をなるべくとる。
いただきますとごちそうさまの挨拶は家族全員で必ずしている。
いつも食事を残さずにご飯をいっぱい食べている。
ご飯を残さずに食べている。
ご飯を残さず成長に向けてたくさんご飯を食べることを意識している。そして自分に何が足りないのか考えてみて足りない栄養素を摂るようにしている。
ご飯を自分でついで自分で食器を洗う
スマホを見ながら食べない、肘をつかないで食べる。
たくさん食べている
だされたものは全部食べる
ちゃんと毎日ご飯を食べる！時間があれば食器洗いもしている
できるだけ、好き嫌いをせずにご飯を残さずに食べること。」
できるだけ栄養が取れるようにたくさん食べている
できるだけ家族と食べるようにしている
できるだけ好き嫌いはしないようにしている。どうしても食べられないものはいはすべて食べている。
できるだけ食事は早く食べている
なるべくタンパク質やカルシウム、ビタミンを多めに取り、炭水化物・脂質・塩分は適度に取りるようにしている。
バランスの良い献立を考えるようにしている
バランスの良い食事をするため野菜は毎日食べている
ひと粒も残らないようにして食べている。
よく噛んで食べる。
挨拶はしっかりして家族と楽しく食べる。
栄養をしっかりとりながら残さず食べている。
家では残さず食べている。食器は自分で片付けて準備も自分でしている。
家族みんなそろってから食べる
家庭で取り組んでいることは、成分表をよくみてえらぶということと、食べ残しを出ないようにすることです
完食すること ご飯ができたらずぐに向かうこと
苦手なものでも1口は食べる。

嫌いでも残さず食べている
作っている人に残したら嫌になるかもしれないから、私は残さず食べた上げたいと思います
作ってくれた分は必ず食べきるようにしている。
残さず食べている。お菓子をそんなに食べない
残さない、ゆっくりたべる
残さないように自分が食べれる分につき分ける
残食をなくし、体作りのためよく食べるようにしている。
残食をなくす！食べれなかったら家族の誰かに食べてもらう！
私の家では、無添加の食材をなるべく使うようにしている。
時間があるときは時間いっぱいよくかんで食べている。
時間をいくらかけようと残さない
自分があまり食べれないものは、食べる前に減らす。
自分がついたものはしっかり食べる
自分が食べれる分をつぐ 食べられそうならもっと食べる
自分で栄養を計算している
自分で朝ご飯を作っている
出された食事は全部食べるようにしている。食べ終わったら自分の分の食器は自分で片付ける。母が大変そうだったら母の分も片付ける
将来の夢が中華料理店を営業することなので、中華料理を作っている
消費期限が切れそうなものを先に食べる。
食トレ
食べすぎないようにしている
食事の前後にいただきますとごちそうさまでしたを言っている。また、米粒は一粒も残さないように箸でかき集めて食べるようにしている。他の食材も
食事は残さず食べ、自分で食べたものは自分で洗う。部活動がないときや暇なときに時々ご飯を作る
食事は残さず食べている、お味噌汁やうどん、ご飯などにまだ具材が少し残っている場合は、ザルに通して具材はゴミ箱に捨てる。
食事は米粒ひと粒も残さず食べるようにしている。
食事を残さず食べている。親にお礼を言っている
野菜を絶対食べるようにしている。
食事づくり・食事の手伝いに関すること
食品を多めに買わず必要な分だけかう
食品を無駄なく使っている。
食品表示を見て糖質や炭水化物、食物繊維などが何%入っているのかを見ている。好き嫌いをなく食べている。
絶対に食事を残さないようにし、全部キレイに食べている。炊飯ジャーの中身のご飯粒も残さないようにしている。
絶対残さない。お箸の向きやお茶碗の位置
地産地消を心がけ、成長期に必要な栄養を取ったり取りすぎないように心がけたりする
もちろん美味しさも取るが栄養面に偏りが無いよう気をつけている
偏食もしないようにし、お菓子ばかり食べすぎたりしないようにしている
茶碗にご飯粒等が残っていないかの確認を最後にきちんとする
朝は自分で作り、その他は残さず食べれる量を考え捨てないでいいようにしている。週に1回以上は家族みんなの皿洗いをしている。
添加物が入っていない食品をできる限り選んだり、外国産のものは買わず、国産や九州産などできる限り日本や、身近なものを選んだりしています。
土日は家族みんなで食卓を囲んでいる
米を炊いて、余ったら拳1個分ぐらいでラップに包んで、冷凍庫にストックしている。
使うときは、電子レンジを使う。
毎日食事を残さず食べている。また、ご飯の準備や片付けを家族と分担して行っている。
野球を習っているので一食2合ノルマで食べてます
野菜の食べられるところがあれば芯まで残さず食べるようにしている。
ご飯の準備と片付けをいつも手伝っている。お母さんが仕事などでつかれているときは、お父さんは料理が下手なので私が簡単な料理を作ったりしています。
食事が終わったらお皿をきれいに重ねて食洗機の近くまで持って行く。
いつもみんなの分などをだしたり片付けたりしている

お皿を台所まで戻している
お茶碗や洗いにくいものは水につけたり、食べたものをすぐに洗ったりしている
ご飯の挨拶をし、美味しいとかの気持ちも伝えている。食器を片付けたりなおしたりする。お皿を出したりする。
給食はできる限り残さず、食べ終わったら食器を水につけたりしている。
食器の片づけをしている
台拭きや少しご飯を作る手伝いなどをしている
自分で作ってみる
お米を炊いている
三人家族だからあんまり量を食べないので家族が食べ切れる量の食品を購入するようにしている

表 10 食に関する取り組みや食育に関して思うこと 自由記載抜粋（高校生）

食べ方に関すること
ダイエットのために毎朝リンゴ酢を炭酸水で割ったものを飲んでいる
親が洗った食器を吹くのを手伝っている
いただきます、ごちそうさまでしたを必ず言う。
食事のマナーをちゃんと守る
いただきますやごちそうさまを言うときは、食材のことを考えて気持ちを込めて言う。残さない。好き嫌いしない。
いただきますとごちそうさまは言っている、はしもたてでない
いっぱい食べて残さない
お茶碗についた米粒は一粒も残さずに食べる。
ご飯を残さず食べている。食材を無駄にしないために、好き嫌いせずに食べている。
たくさん食べる
だされたご飯は責任を持って食べている。食べ終わったあとに食器を水に浸している。
ちゃんと作ってくれた人に感謝して食べる
できるだけ好き嫌いをせずに、残さず食べている。
できるだけ残さないように量を考えて食べている。
バイキングなどでは食べ切れる分だけとる
よく噛んで味わいながら食べています！
感謝して食べる
苦手なものもちゃんと食べる。
好き嫌いしない
作ってくれた人に感謝を伝える。
三食絶対に食べるように心がけている。
残さず、三食たくさん量の量食べる
残さず、命に感謝している
残さずに、よくかんで食べている。そして好き嫌いをしていない
自分が食べれる量だけ取る。
自分で作って、しっかり食べて片付ける。
食べ物を残さないようにして自分で家でも作れるように料理の作り方を習ってみたりもしたい。
食事は残さず食べるために自分にあつた量を食べている。
食事は食材の生産者や作ってくれた人に感謝しながら、残さず食べています。食育は、自分が住んでいる地域の食文化や社会の食に関する問題などについて考えることができるので、積極的に取り組むべきだと思います。
食事マナー 箸の持ち方
食事をのこさずに食べ、食器の片付けを行い、寮の食堂で厨房のおばちゃんに感謝を伝えている。
食事を残さず、作ってくれた人にお礼を言っている。
節約
地域の食材をなるべく使うようにしている。
朝ごはんだけは抜かさないようにしている。
買い物をするとき、家族のアレルギーや原産地・原産国をチェックして購入している。
美味しく食べる
必ず出されたものは残さず食べる
毎日のご飯時間を楽しく過ごしています！！量を考えて注ぎ分けることを意識したいと思います。
満腹になるまで食べない。

満腹になるまで食べる。
夜 10 時以降は食事をしない。
野菜や果物を多く摂っている
野菜を沢山食べている
夕飯は毎日家族と食べ、残さず最後まできちんと食べています。
栄養・健康に関すること
5大栄養素が整った食事を取っている。
お腹いっぱいまで食べないようにしている
お腹いっぱい食べる
サラダを食べるようにしている
ジュースなどの飲み物を飲むときに成分表を確認してみる
タンパク質とビタミンを意識して食べている
なるべく野菜から食べる
バランスが偏らないようにする
バランスを考えた上で食べたいものを自分の意に沿って食べる
栄養表示を確認して体に良い食べ物を選んでいる
苦手なものでも出されたら栄養のことや廃棄を考えて食べ残しのないようにしている。
最近では便秘気味なので、できるだけバランスの良い食事をできるように心がけている。
自分でご飯を作るときは栄養バランスを心がけて作っている。
植物性の食品をメインに献立をたてること(ヴィーガン寄りの食事)
食事に偏りが無いようになるべく心がけている
適切なカロリーを摂取すること
環境への配慮に関すること
食品ロスをなるべく減らす。
ご飯は米粒一粒残らず食べている
ご飯をつぐのも片付けもしている。ご飯粒は残さない。野菜を避けがち。
基本的に残り物を食べる期間を設け、フードロスがないようにしている
食事の準備・片付けに関すること
お料理する。
食べ終わった皿は洗っている。
食器の片づけをしている。

V 総括

「食」は、生きていく上での基盤であり、健康で文化的な生活や、豊かで活力のある社会を実現するためにも、食育の推進が重要である。平成 17 年に食育基本法が制定されて以降、国では 5 年ごとに食育推進基本計画を策定し、現在は令和 8 年度からは第 5 次食育推進基本計画に基づいた食育が実施される。

福津市においても、市民の食に関する課題に対応するため、「第 2 次福津市食育推進計画」を策定し、家庭・学校・企業・地域などの多様な主体と連携しながら食育を推進してきた。本計画では、「福津のめぐみ 笑顔につながる みんなの食卓」をめざす姿（将来像）として掲げ、「1. 元気な地域をつくる」「2. 健康な暮らしを実感する」「3. 豊かな心をはぐくむ」「4. 安全・安心な環境をつくる」「5. 連携・共働で食育をすすめる」の 5 つの基本目標と 23 の指標を設定している。

この計画が進められた約 10 年間の間に、社会や地域の状況は大きく変化した。特に新型コロナウイルスの流行により、人と人との交流が制限される中で、食を通じたつながりの大切さが改めて認識された。一方で、SNS やオンライン動画といったデジタル技術を活用した新しい食育も広がりを見せている。

本調査は、第 2 次福津市食育推進計画の最終年度である令和 8 年度の評価に向けて実施されたものであり、その前段階として、市民の食生活や食に関する意識の実態を把握することを目的としている。なお、本調査では、アンケートの回答方法を従来の紙面による調査から、オンラインアンケート調査へと変更した。その影響もあり、回収率（配布数に対する回答の割合）は令和 2 年度調査の 73.6%から 58.7%に低下している。したがって結果を解釈する際には、この点に留意する必要がある。以下、本調査における主要な結果を要約するとともに、今後期待される食育推進の方向性を述べる。

1. 食育について

食育について「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は 88.1%で、調査初回（平成 19 年度）以降で最も高く、全国調査結果（食育に関する意識調査令和 7 年）よりも高い結果であった。食育に関心のある理由の上位 3 項目は初回調査から同じ結果で「子どもの心身の健全な発達」「生活習慣病の増加」「食生活の乱れの問題」であった。第 2 次福津市食育推進計画（以降、第 2 次計画）策定時に比較して、「食品廃棄物の問題」を回答した人の割合が高くなっており、市民の

環境への関心の高さがうかがえた。食育の実践については、「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」と回答した人は 63.5%であり、女性の方が、また高年齢層で実践している割合が高いことは、初回調査時から大きな変化はみられない。食育の実践を「あまりしていない」「あまりできていない」理由は、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事や趣味等）で忙しいから」が最も回答者が多いことは、初回調査以降変化がない。今回調査の特徴として、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」と回答した人が、第 2 次計画策定時の 20.7%から 47.2%へと大幅に増加し、食品をはじめとした物価上昇の影響を受けた結果と考えられる。

一方、「食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから」は、これまでの調査で最も低い結果であった。しかし、男性の若い世代（18～39 歳）の朝食摂取状況や若い世代の野菜を食べることの心がけ、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事、減塩への心がけについては、経年的に悪化している現状にあり、健康問題に発展する前段階からの健康な食生活の啓発が必要と考えられる。

幼児の保護者が食生活に関して家庭で子どもに教えている事については以前の調査と大きな変化はないが、回答者割合はほとんどの項目で第 2 次計画策定時に比べて経年的に低下した。家庭以外での食育で力を入れて欲しい事として、「農業や漁業体験」が第 2 次計画策定時の 29.5%から 43.7%と回答者が大幅に増加した。食育という言葉が「言葉も意味も知っていた」と回答した児童・生徒（小・中・高校生）の割合は、初回調査時（平成 19 年度）以降で最も高かった。

以上のことから、食育への関心や認識は全世代で高まっている一方で、食育の取り組みとして、食生活をとりまく社会情勢や子どもや家庭の状況に応じて、内容を検討していくことが求められる。

2. 食生活について

(1) 朝食の摂取

朝食を「ほとんど食べない」割合は初回調査から増加傾向にある。男性の 18～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳で、女性の 50～59 歳で第 2 次計画策定時から大幅に増加した。朝食を摂らない主な理由は、「時間がない」が最も高く、「以前から食べる習慣がない」「食欲がない」が次いで高かった。第 2 次計画策定時からの変化では、「以前から食べる習慣がない」が 18.0%から 23.9%と増加し、若い世代からの朝食摂取を習慣化することが重要であると考えられる。

小・中学生では第 2 次計画策定時よりも「朝食を毎日食べる」児童・生徒の割合が高くなり、高校生は「ほとんど食べない」割合が低くなった。前回調査（令和 2 年度）に比べて、就寝時間は小学生では 10 時以降、中学生では 11 時以降、高校生では午前 0 時以降に寝る割合は低くなり、7 時以降に起床する割合は小中学生は変化はなく、高校生は多くなり、全体として睡眠時間が長くなった傾向にある。朝食欠食の理由は「時間がない」が最も多く、食欲がないが次いで多い。引き続き朝食摂取とともに早寝・早起の啓発を行っていく必要があると思われる。

（２）共食

朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数は、一週間あたり 10.1 回で、前回調査時よりも朝食、夕食ともに「ほぼ毎日」共食をする人の割合が低くなったが、第 2 次計画の目標である 10 回は上回った。幼児では 13.1 回、小学生では 12.8 回、中学生では 11.7 回、高校生では 10.3 回であった。前回調査に比べて、朝食・夕食ともに「ほぼ毎日家族と一緒に食べる」子どもの割合は高くなった。共食は食の楽しさを感じるだけでなく、食事のマナーや食生活習慣の基礎を学ぶ機会にもなる。そのため、全世代を通して、共食の機会を増やす取組が重要である。

（３）食事時のあいさつ

食事のあいさつは、基本目標 3「豊かな心を育む」に関する指標である。「必ずしている」「よくしている」と回答した割合は、幼児ではやや減少したものの、市民、小・中・高校生では初回調査以降で最も高い結果となった。今後も共食の機会を増やす取り組みと合わせて、自然の恩恵や食べ物が食卓に届くまでに関わるすべての人への感謝の気持ちを育むことが重要である。

（４）ゆっくりよく噛んで食べる食習慣

一般市民 50.2%、幼児の保護者 48.6%が「ゆっくりよく噛んで食べている」「どちらかといえば、ゆっくりよく噛んで食べている」と回答した。全国調査と比べて高い結果であった。65 歳以上は 57.7%であり、第 2 次計画の目標値を下回った。幼児は 70.9%、小学生では 78.3%、中学生では 63.7%、高校生では 60.0%であった。健やかで豊かな生活を送るには、口腔機能が十分に発達し、維持されていることが重要である。そのため、食べ方も含めた口腔の健康や口腔機能の獲得・維持・向上と関連づけた食育の推進が重要である。また、高齢期においては、全身の健康管理と合わせて、口腔機能の維持にも取り組んでいくことが必要である。

（５）主食・主菜・副菜そろった食事習慣

「主食・主菜・副菜をそろえて食べるのが 1 日 2 回以上ある日」が「ほぼ毎日」

と回答した人は一般市民で 36.5%であり、前回調査より 10.9 ポイント減少したが、全国調査とは同程度であった。また、中学生 57.5%、高校生 41.2%で前回調査より 5 ポイント以上減少した。野菜摂取については、野菜料理を「毎日 3 皿以上食べている」人の割合は、35%であった。栄養バランスのとれた食事が重要性や手間をかけずに実践できる方法を普及啓発していく必要がある。

(6) 生活習慣病の予防や改善のための食習慣

一般市民において、適正体重を維持や減塩を心がけることについて、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答した人の割合は、前回調査から大きな変化はみられなかった。一方、今回の調査から高校生を対象に減塩について調査したところ、「必ず・よく・時々気をつけている」と回答した人は 68.0%であった。また、小・中学生については、家庭のスープや味噌汁の味と給食の味を比較した結果、「家の方が濃い」と回答した割合は、小学生で 25.3%、中学生で 33.2%であった。この結果から、全世代に対して、生活習慣病の予防・改善に向けた意識の向上と実践につながる食育を推進していくことが求められる。

(7) 子どもの自炊力、食生活への自己評価

「自分だけで料理を作ることができる」と回答した割合は、小学生で 85.5%、中学生で 87.0%、高校生で 89.7%となり、いずれも初回調査時以降で最も高い結果となった。自身の食生活については、「よいと思う」「少し問題があるが、おおむね良いと思う」と回答した生徒は、中学生が 93.7%、高校生は 88.7%で、前回調査から大きな変化はないものの、初回調査から良好な傾向が続いている。食生活の問題点としては、中学生・高校生ともに「食事のバランスが悪い」と回答した割合が最も高く、また、食生活上の問題を相談する相手として「親」と回答した生徒が最も多かった。これらの結果から、食育活動の推進を保護者に対しても充実させていく必要がある。

(8) 食事が楽しいか

食事が「楽しい」と答えた市民の割合は、前回調査と比べて大きな変化はなかった。幼児の保護者も同程度の 85.0%であった。また、小学生・中学生・高校生いずれも、「楽しい」と感じる割合は初回調査以降で最も高くなっている。福津市の全世代における食事の満足度は、全体的に良好に推移している。

3. 食文化継承、食育活動について

福津市産の農水産物を「毎日使用している」「よく使用している」と回答した一般市民の割合は、46.9%で前回調査からは大きな変化はみられなかった。しかし、第 2

次計画策定時と比べて低く、目標値も達成できていない状況である。一方で、福津産の農作物や海産物の購入場所としては、「福津市内の施設」が 68.2%、「市内の産直施設」が 62.9%と高く、地元での購入は一定程度定着していることがうかがえる。地元産の農水作物の利用や生産者との交流は、地域理解の促進や食文化の継承にもつながる重要な取り組みである。生産者との交流体験の経験がある人は 28.5%で前回調査より増加しており、小学生 42.1%、中学生 33.8%、高校生 37.8%といずれも世代でもわずかに増加している。

伝統料理や郷土料理については、「知っている」と回答した割合が、一般市民 82.8%、小学生 81.5%、中学生 82.8%、高校生 85.7%と、いずれも前回調査より増加した。また、伝統料理や郷土料理を「習ってみたい」または「時間があつたら習ってみたい」と回答した割合も、小学生 74.0%、中学生 53.8%、高校生 60.4%と増加しており、関心の高まりがみられる。食文化を次世代につなげるため、子どもだけでなく市民全体に対して、伝統料理・郷土料理の体験機会や情報発信を充実させることが求められる。

食育推進活動へ「参加してみたい」と回答した一般市民の割合が 42.4%で、初回調査以降で最も高くなった。参加してみたい内容としては、「食生活の改善に関する項目」「郷土料理、伝統料理などの食文化継承活動」「生活習慣病予防などのための料理教室」が多く挙げられた。また、「農漁業体験などに関する活動」への関心も、初回調査以降で最も高くなっていた。

一方で、実際に食育イベント・活動へ「参加した」人は全対象者の 13.1%で少ないものの、第 2 次計画時から徐々に増加している。参加しなかった（できなかった）理由としては、「イベントや活動があることを知らなかった」との回答が最も多く、情報発信の課題が明らかとなった。

4. その他

(1) フードバンク、子ども食堂等の利用

経済的な理由で食品が購入できないことが「あった」と回答した人の割合は 12.8%で、男性よりも女性が 10.0 ポイント高く、特に 30～39 歳では 18.4%と高い割合であった。フードバンクについては、「利用したい」と回答した人が 43.3%である一方、「わからない」と回答した人も 41.0%にのぼった。子ども食堂のような無料または低価格の食事の場については、「利用したい」と回答した人が 31.2%で、特に 18～39 歳の若い世代で利用意向が高い傾向がみられたが、こちらも「わからない」と回答し

た人が半数近くを占めた。これらの結果より、フードバンクや子ども食堂などについて、具体的な内容や利用方法のイメージが十分に浸透していない可能性が考えられる。

（２）災害時の食料備蓄

災害時の食糧備蓄については、「3日以上備蓄している」と回答した人は16.6%にとどまる一方、「ほとんど・まったく備蓄していない」と回答した人が35.6%を占めている。このことから、災害時に備えた食料備蓄には課題があることが明らかとなり、災害時を想定した食育の推進が求められる。

5. まとめ

今回の調査は、平成28年に策定された第2次福津市食育推進計画の最終年を迎える前年度に実施されたものであり、平成19年度の初回調査から数えて6回目にあたる。福津市では食育基本法の制定当初から継続的に調査を実施し、その結果に基づいて計画を策定してきており、このような取組は全国的にも珍しく、貴重な資料としての価値も高い。本調査にご協力いただいた福津市民の皆様ならびに、調査実施にご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今回の調査結果からは、食育への関心の高さに加え、食事の楽しさや共食頻度、食事時のあいさつ、食文化への関心などの多くの項目で良好な傾向がみられた。特に、小・中・高校生においては、自分で料理できる力や食生活の自己評価が良好で、伝統料理や郷土料理の関心も高まっており、学校や家庭における食育の成果がみられた。

一方で、朝食の欠食や主食・主菜・副菜をそろえて食べる食事の実践、野菜摂取が不足傾向であることなどの課題も明らかとなった。また、食育への関心はあるものの、食費の制約や、時間的余裕の不足により食育の実践が難しいと感じている人が多くみられた。さらに、食育活動への参加意欲はあるものの、実際の参加率は高くなく、その理由として食育活動の情報が届いていないことが挙げられた。加えて、フードバンクや子ども食堂については、「わからない」との回答が多く、取り組みの理解が十分に進んでいない可能性があるほか、家庭での食料備蓄も進んでおらず、社会的課題への対応が必要である。

国においては現在、第5次食育推進基本計画を策定中であり、「学校等での食や農に関する学びの充実」「健全な食生活の実践に向けた「大人の食育」の推進」「国民の食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大」が重点課題として検討されている。福津市においても、国の基本方針を参考としながら、市民の食の実態に即した食育を展開し、福津市の産物や人々をつなぐ取り組みを一層推進していくことが期待される。